

金沢市
八日市D遺跡

2014

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

よう か い ち
八日市D遺跡

2014

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

例　　言

- 1 本書は八日市D遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は金沢市八日市1丁目地内である
- 3 調査原因は北陸新幹線建設事業(金沢・白山総合車両基地(仮称)間)であり、同事業を所管する独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財團法人石川県埋蔵文化財センター(平成25(2013)年度から公益財團法人石川県埋蔵文化財センター)が石川県教育委員会から委託を受けて、平成21(2009)から25年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書作成、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が負担した。
- 6 現地調査は平成21・22(2010)年度に実施した。期間・面積・担当グループ・担当者(当時)は下記のとおりである。
 - (1)平成21年度
期　間 平成21年8月4日～同年10月19日　　面　積 1,250m²
担当グループ　調査部特定事業調査グループ
担当者　端　猛(専門員)、荒川真希子(嘱託調査員)
 - (2)平成22年度
期　間 平成22年11月18日～同年12月22日　　面　積 440m²
担当グループ　調査部特定事業調査グループ
担当者　端　猛(専門員)、荒川真希子(嘱託調査員)
- 7 出土品整理は平成23(2011)年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。
- 8 報告書の作成は平成24(2012)年度、刊行は平成25年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。執筆・編集は端が行った。
- 9 調査には下記の機関、個人の協力を得た(五十音順、敬称略)。
押野校下町会連合会、金沢市教育委員会、株式会社タムラテント、
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、西日本旅客鉄道株式会社
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標N系に準拠した。
 - (2)水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。
 - (3)出土遺物番号は挿図、観察表、写真で対応する。なお、実測番号との対応については、出土遺物観察表に記載している。
 - (4)遺物実測図については須恵器の断面を黒塗りにし、赤彩を施したものを網掛けで内面黒色処理を施したものは墨塗り表示した。
 - (5)遺構の名称は、下記の略記号に番号(算用数字)を付し表記した。
SI：竪穴建物、SB：掘立柱建物、SK：土坑、SD：溝、P：柱穴・小穴、SX：その他(不明確遺構等)
 - (6)引用文献、参考文献は19頁に一括して記載している。

目 次

第 1 章 経 過	1
第 1 節 調 査 の 経 過	1
第 2 節 試掘調査の状況	2
第 3 節 発掘作業の経過	3
第 4 節 整理等作業の経過	5
第 2 章 遺跡の位置と環境	10
第 1 節 地理的環境	10
第 2 節 歴史的環境	11
第 3 章 調査の方法と成果	13
第 1 節 調 査 の 方 法	13
第 2 節 遺構と遺物	15
第 4 章 総 括	63

写真図版

報告書抄録

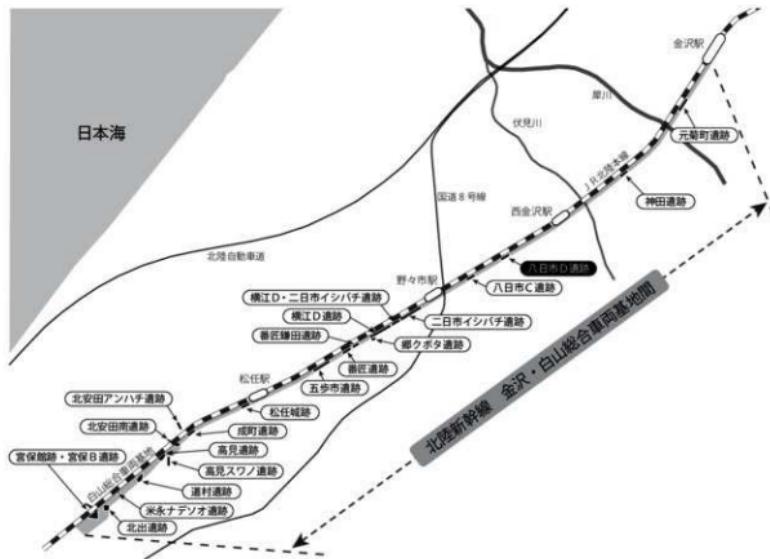
第1章 経 過

第1節 調査の経過

八日市D遺跡の発掘調査は、鉄道建設・運輸施設整備支援機構を建設主体とする北陸新幹線建設事業に伴い、石川県教育委員会及び(公財)石川県埋蔵文化財センターにより実施されたものである。

北陸新幹線は「国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興を図るため、全国新幹線鉄道整備法に基づき建設される新幹線鉄道」であり、平成9年に東京駅から長野駅までが部分開業した。長野駅から金沢駅までは平成26年度の開業が予定されている。石川県内では、金沢から石動間の路盤工事が完了しており、その後、金沢から白山車両基地(仮称)間の整備が、平成17年4月に国土交通省による認可を受けて事業開始されることになった。同年5月、県庁にて北陸新幹線(金沢・白山車両基地(仮称)間)建設工事に伴う事業概要説明会が開催され、6月4日には起工式が行われている。

工事計画範囲における埋蔵文化財の取り扱いについては、平成17年8月に鉄道建設・運輸施設整備支援機構大阪支社(以下事業者)から石川県教育委員会文化財課(以下県文化財課)に対し照会があり、県文化財課は、二日市イシバチ遺跡をはじめとする19か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在することを回答した。それとともに、周知の埋蔵文化財包蔵地については文化財保護法第94条に基づき発掘調査等の保護措置が必要となること、そして周知外についても、工事中の不時発見があった場合は同法第97条に基づく保護措置が必要となることから、円滑な埋蔵文化財保護と建設事業の計画的な実施を調整



第1図 北陸新幹線概要図(金沢駅・白山総合車両基地(仮称)間)

するためにも周知外の範囲についても必要と判断される場合には早期に試掘を実施して埋蔵文化財の把握に努めるべきとの意見を付した。そして双方の話し合いにより、用地買収が済み試掘条件が整った場所から、分布調査、試掘等が実施されることとなった。事業開始から用地買収、工事開始が比較的短期間な工事工程であったため、試掘により包蔵地が把握された個所でも隣接地の状況次第では発掘調査に着手できないことや、本線工事とともに現在使用されている道路の切り替え等が行われる場合には工事と発掘調査について複雑な工程を組まなければならないことが多かった。

八日市D遺跡についても道路の切り替え工事や新幹線の本線工事との調整が必要であった。結果的には、対応が十分であったとは言い切れないが、複雑な工程の中で関係機関等との調整のもと発掘作業が行われた。

平成20年度 八日市D遺跡は、平成20年、試掘調査により確認された周知の埋蔵文化財包蔵地である。包蔵地を含む工事計画範囲については、平成20年12月2日に事業者から県文化財課あてに分布調査等の依頼文が出された。県文化財課は、確認するための試掘調査を12月12日に実施八日市D遺跡が確認される旨、事業者に回答した。

その後、同範囲については事業者から文化財保護法第94条に基づく発掘通知が石川県教育委員会(以下県教委)あて提出され、それに対し県教委は発掘調査が必要とする旨事業者宛て通知し、平成21年度に発掘調査を実施することとなった。

平成21年度 平成20年度に確認した範囲のうち1,250m²について発掘調査を実施した。構造物の撤去作業が8月末までの予定であったため8月以降に着手となった。道路や用水等の関係で調査区を1～3区の3つに分け調査を実施した。調査着手後、遺跡東端で遺構がさらに東に続く様相が覗えた。ただし、隣接する工場の出入り口となっており、協議の結果次年度以降の対応となった。また、当初調査対象範囲としていた南西側角の宅地部分(3区南側)については、調査所見より調査対象範囲から除外することとなった。

平成22年度 平成21年度の残り440m²の発掘調査を実施した。当初、830m²の予定で計画していたが、調査予定範囲に埋設されている暗渠排水路の深さが判明し、その埋設工事で埋蔵文化財が影響を受けていることがほぼ確実となった。また、新幹線建設工事ではその暗渠を撤去する予定はなく、協議の結果、調査対象範囲から除外することとなった。また、現市道部分等道路の切り替えに伴い発掘調査期間が十分に確保できない部分については工事立会となった。また、送電用電柱についても撤去が間に合わず安全確保のために掘削が出来なかつた部分について工事立会となった。調査は市道振替工事後の11月初旬着手を予定していたが、実際には11月22日に重機による表土掘削となった。

第2節 試掘調査の状況

北陸新幹線建設事業に伴う八日市D遺跡周辺の試掘調査の状況について、神田遺跡からJR野々市駅までを本書では報告する。(第3から6図)

神田遺跡以西伏見川まで(第6図1～13)は、褐灰色土を主体とする旧土壤と灰色シルト・灰色砂礫などからなるベースが確認できたが、旧土壤は帶水し粘質を呈する箇所が多い。遺物・遺構は確認されなかった。伏見川から西金沢駅間(第6図14～30)は、青灰色・黄灰色の粘質シルトがベースとして確認されたが、その上にあったとみられる旧土壤層はほとんど箇所で攪乱を受け検出されなかった。伏見川の右岸と左岸では堆積するベース層が大きく異なる。なお近接する米泉遺跡の存在から、シルトベース内の包含層の存在も予想されたため極力深い試掘を行ったが、遺構・遺物は確認さ

れていない。

八日市D地内では、試掘により新規の埋蔵文化財包蔵地、八日市D遺跡(古代、集落)と八日市C遺跡(古代、集落)を確認した。

八日市D遺跡では、旧土壤が暗褐色系の土、その下に黄灰色系のシルトがベースとなっており、旧土壤中に須恵器と土師器が包含されていた。また柱穴とおぼしき遺構も検出されたことから遺構と遺物が確認される範囲を包蔵地とし、調査範囲とした。調査範囲の北東側には試掘坑68と69で旧河川とみられるベースの落込みがあり、地形的にも画されていると推定される。南西側は土師器小片の出土が試掘坑75からあったものの遺構は確認されておらず、包蔵地は試掘坑75以西には括がらないものと推測された。

八日市D遺跡の北東側は西金沢駅までの間に包蔵地とみられる個所は確認されなかった。ただし明確な遺構は検出されなかつたものの試掘坑62とその周辺では土師質土器細片が出土しており、押野西遺跡が近くまで括がってきている可能性がある。八日市D遺跡から八日市C遺跡までの間では、試掘坑85～89のあたりでベースが安定せず低くなる範囲があり、旧河川の存在が推測される。その他の場所は比較的高い位置で旧土壤とベースが確認されたが、遺構と遺物は確認されていない。

八日市C遺跡では、旧土壤が暗褐色系の土、その下に黄灰色系のシルトがベースとなっており、旧土壤中に須恵器と土師器が包含されていた。また柱穴とおぼしき遺構も検出されたことから遺構と遺物が確認される範囲を包蔵地とし、調査範囲とした。調査範囲の北東側には試掘坑94で旧河川とみられるベースの落込みがあり、地形的にも画されていると推定される。南西側では安定したベースが見られるものの遺構は確認されておらず、包蔵地は試掘坑105以西には括がらないものと推測された。

八日市C遺跡の西側はベースが下がる。試掘坑109付近までベースが一部下がる部分があり安定していない範囲が広がっており、現在の十人川まで続く旧河川の流路が埋没しているものとみられる。野々市駅周辺は暗褐色土主体の旧土壤と黄灰色シルトや砂礫層からなるベースが安定して確認されるが、遺構・遺物は見つかっていない。

第3節 発掘作業の経過

平成21年度 平成21年3月26日に事業者から県教育長あてに発掘調査依頼のあった1,250m²について、発掘調査を実施することになった。4月1日には石川県と事業者、石川県と(財)石川県埋蔵文化財センター（以下県埋文センター）にて八日市D遺跡発掘調査の委託契約を締結した。県埋文センターは文化財保護法第92条に基づく発掘届を県教委に提出し、7月15日県教委は、「発掘調査は、文化財保護法の趣旨を尊重し慎重に実施するよう」せよという通知を返している。県埋文センターの調査体制は別表のとおりである。

現地調査は平成21年8月4日から同年10月19日にかけて実施した。平成21年7月10日に事業者、県文化財課、県埋文センターによる現地打合せを実施。現道や隣接住宅、駐車場、堆土置場や調査事務所等の作業ヤードについて協議した。また、周辺では埋蔵文化財の発掘調査が実質的な新幹線建設工事の嚆矢となるため地元住民への説明等についても協議を行った。

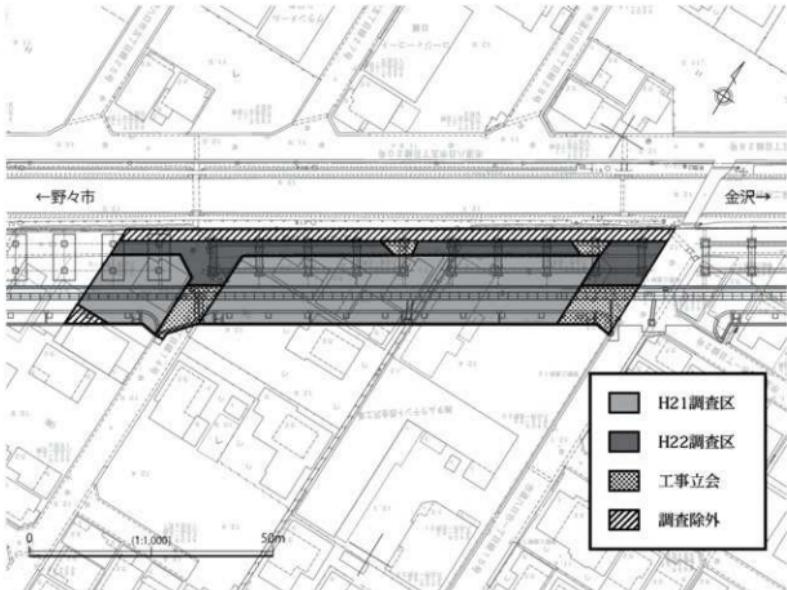
7月21日に地元町会関係者へ埋蔵文化財発掘調査の説明を含めた新幹線建設工事全体の説明を行い8月より調査着手と進んだ。

8月4日より調査事務所の設置および事業者側の重機による表土除去作業を開始した。8月7日には発掘機材を搬入し、遺構検出・掘削等を順次開始した。住宅地での発掘調査のため調査中の作業員に

より手掘り排土置場に制限があり1区の排土は2区まで運ぶ必要があり、調査は先行して1区の調査を行い2・3区の調査へと移行して行った。9月17日に1区を対象に第1回目のラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。その後、1・2区間の用水を越え排土を運搬していたベルトコンベアの撤去の後、10月14日に2・3区を対象にした第2回目のラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。補測作業を経て10月19日に県文化財課、事業者、県埋文センターによる現地調査の確認、引渡しを行った。

平成22年度 平成22年3月25日に事業者から県教育長あてに発掘調査依頼のあった440mについて、発掘調査を実施することとなった。4月1日には石川県と事業者、石川県と県埋文センターにて八日市D遺跡発掘調査の委託契約を締結した。県埋文センターは文化財保護法第92条に基づく発掘届を県教委に提出し、10月6日県教委は、「発掘調査は、文化財保護法の趣旨を尊重し慎重に実施するよう」にせよという通知を返している。県埋文センターの調査体制は別表のとおりである。

現地調査は平成22年11月18日から同年12月22日にかけて実施した。10月8日に事業者、県文化財課、県埋文センターによる現地打合せを実施した。調査範囲の確認及び調査工程の調整を行ったが、既に行われている鉄道高架橋の工事で作業ヤードの確保が難しく、排土置場や現場事務所等調整が必要となった。また、市道の切り替え工事の遅れが懸念され、予定していた11月初旬の着手も不透明な状況となった。その後、10月22日に再度現地で打合せを行い作業ヤード等調整し、市道切り替え工事の遅延により表土掘削の着手が11月22日以降となるなど具体的な手順について協議した。また、送電用の電柱切り替え工事との調整がつかず、旧の電柱およびその周囲を残しての調査となることも判明した。



第2図 調査区位置図(S=1/1,000)

11月22日より事業者側の重機による表土除去作業を開始した。11月25日に調査事務所の設置、11月29日には発掘機材を搬入し、遺構検出・掘削等を順次開始した。12月20日にポール撮影による空中写真測量を実施した。補測作業を経て12月22日に県文化財課、事業者、県埋文センターによる現地調査の確認、引渡しを行った。

なお、平成21年度調査により遺跡が東に拡がった範囲について隣接工場の出入り口に係る部分や現市道交差部分については実質的に調査期間を確保できないことから、県文化財課による工事立会を8月18日と9月17日に実施した。また、電柱部分の工事立会も平成23年2月4日に実施した。

第4節 整理等作業の経過

出土品整理作業は平成21・22年度に出土遺物の洗浄作業を、平成23年度に記名・分類・接合、実測・トレース、遺構図トレースの各作業を実施した。作業は発掘作業同様県埋文センターに委託され、調査部特定事業調査グループが担当した。

報告書刊行については、平成24年度に原稿作成、図版作成、出土品の写真撮影等を行い、平成25年度に編集・校正作業及び報告書の刊行を行った。

〈調査体制〉

調査・整理年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
調査・整理主体	(財)石川県埋蔵文化財センター(理事長 中西吉明(～平成22年6月30日)、竹中博康(平成22年7月1日～平成24年3月31日)、木下公司(平成24年4月1日～平成25年3月31日)) (公財)石川県埋蔵文化財センター(理事長 木下公司(平成25年4月1日～))				
総括	黒崎卒作(専務理事)	橋本満(専務理事)	浜崎洋(専務理事)	岡田義彦(専務理事)	橋本定則(専務理事)
事務	栗山正文(事務局長) 釜淵利雄(総務GL)	栗山正文(事務局長) 浅香晴晴(総務GL)	栗山正文(事務局長) 浅香晴晴(総務GL)	栗山正文(事務局長) 山口登(総務GL)	栗山正文(事務局長) 山口登(総務GL)
調査	湯尻修平(所長) 三浦純夫(調査部長) 木澤義光 (特定事業調査GL)	三浦純夫(所長) 福島正実(調査部長) 木澤義光 (特定事業調査GL)	三浦純夫(所長) 福島正実(調査部長) 浜崎悟司 (特定事業調査GL)	三浦純夫(所長) 福島正実(調査部長) 浜崎悟司 (特定事業調査GL)	福島正実(所長) 藤田邦雄(調査部長) 土屋宣雄 (特定事業調査GL)
担当	特定事業調査G	特定事業調査G	特定事業調査G	特定事業調査G	特定事業調査G

※ GL : グループリーダー、G : グループ

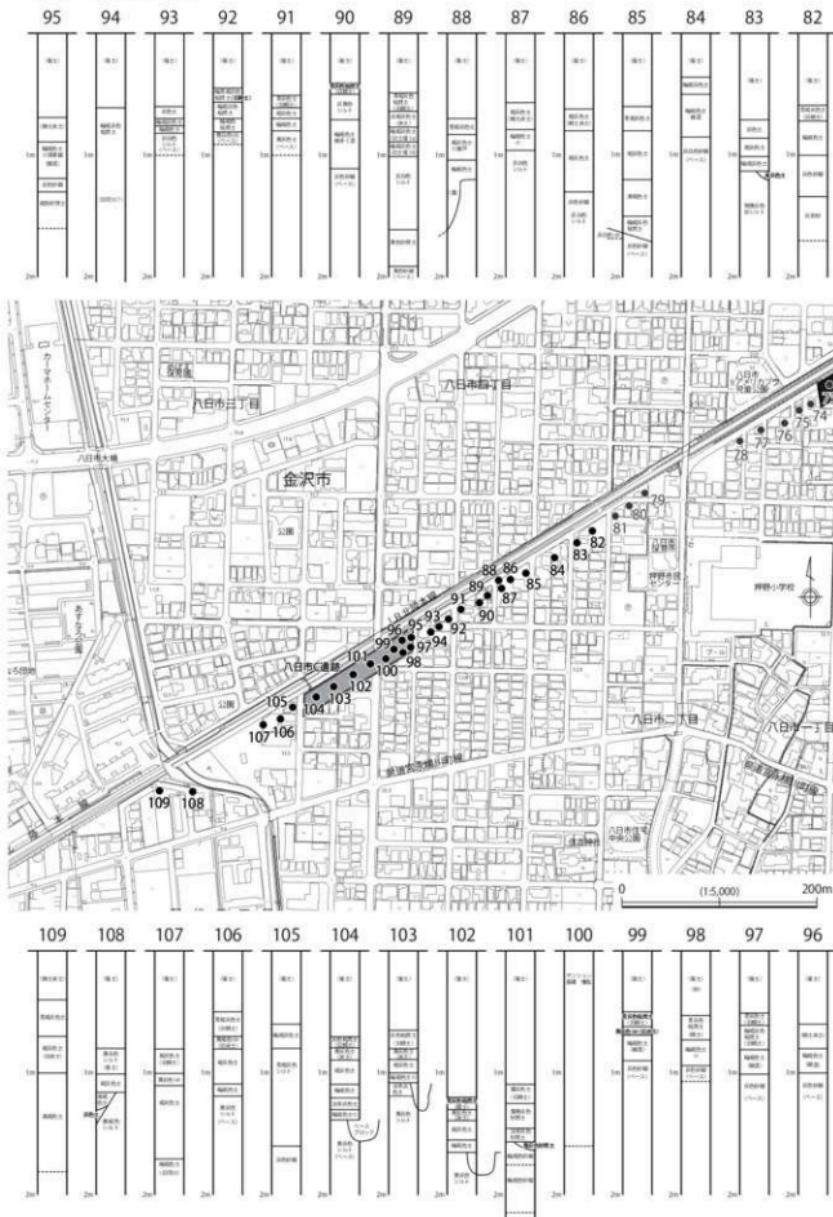


整理作業の様子



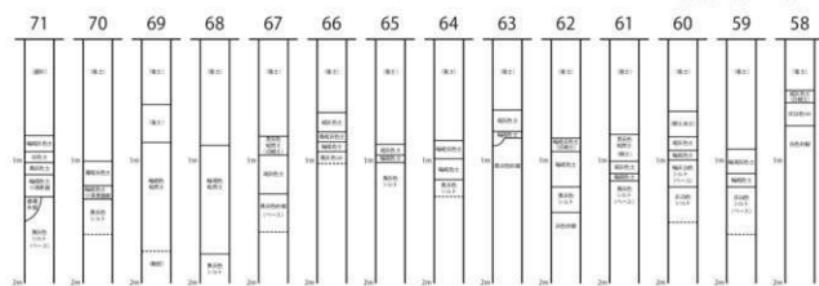
整理作業の様子

第4節 整理等作業の経過

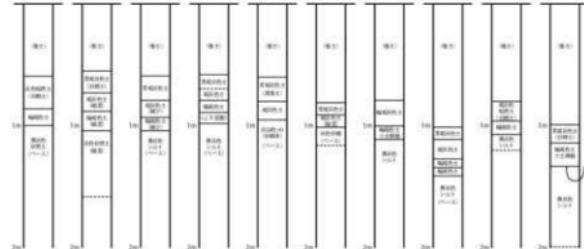
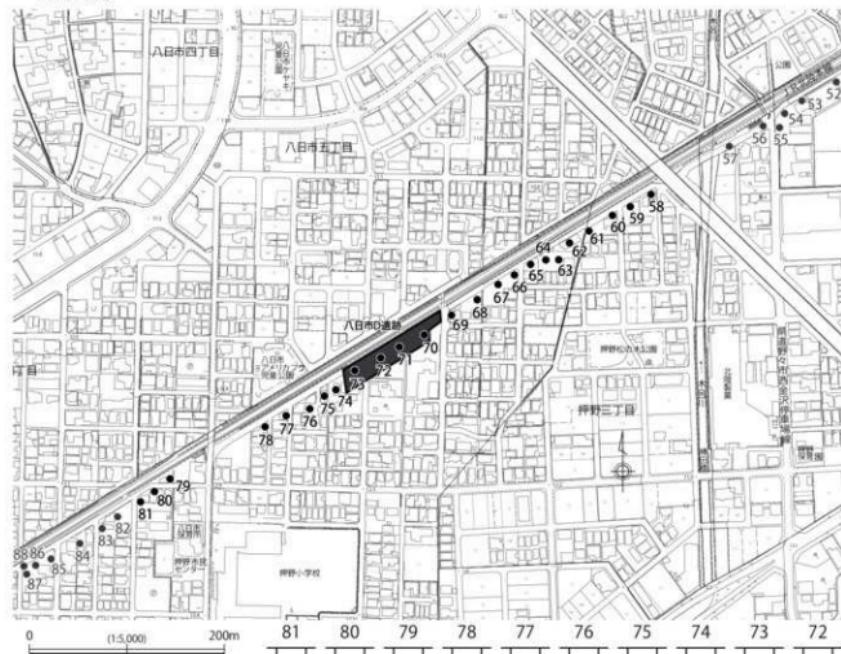


第3図 試掘調査の状況

第1章 統 通

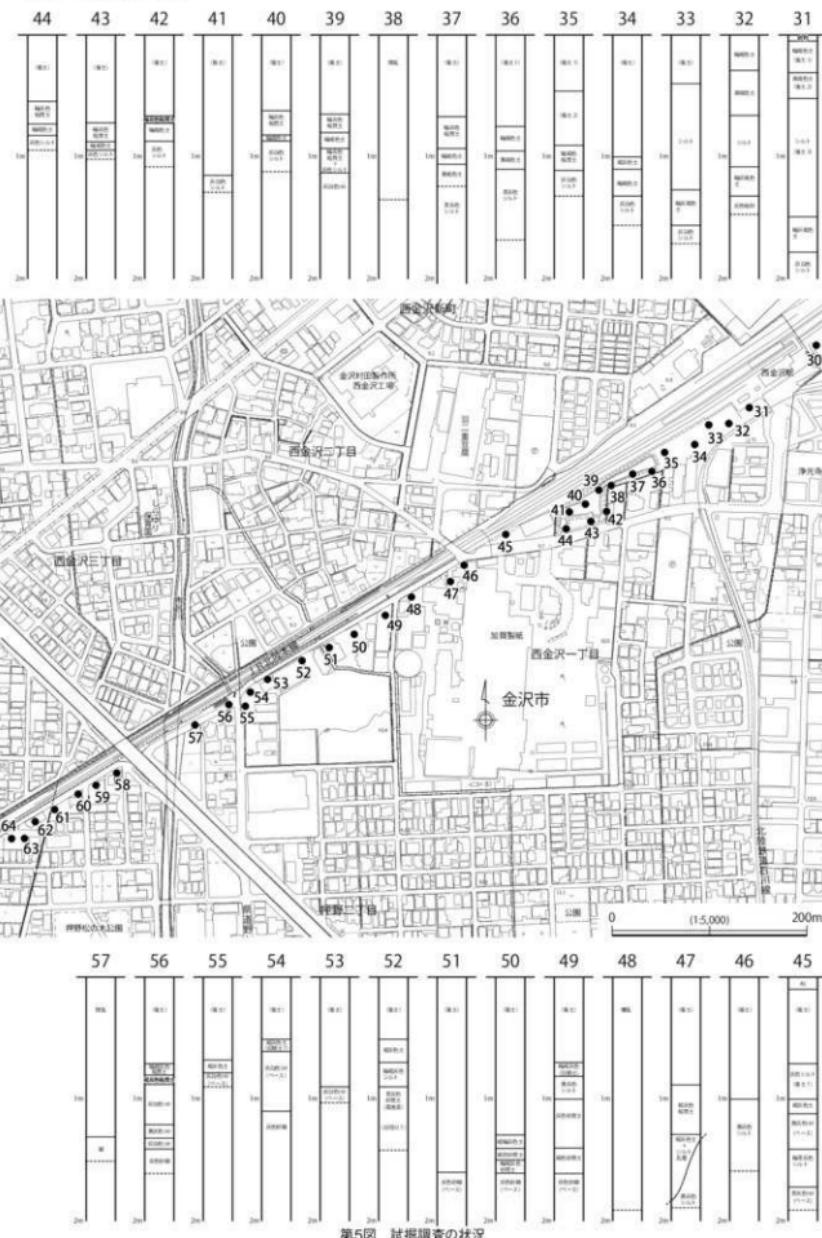


八日市〇道路→

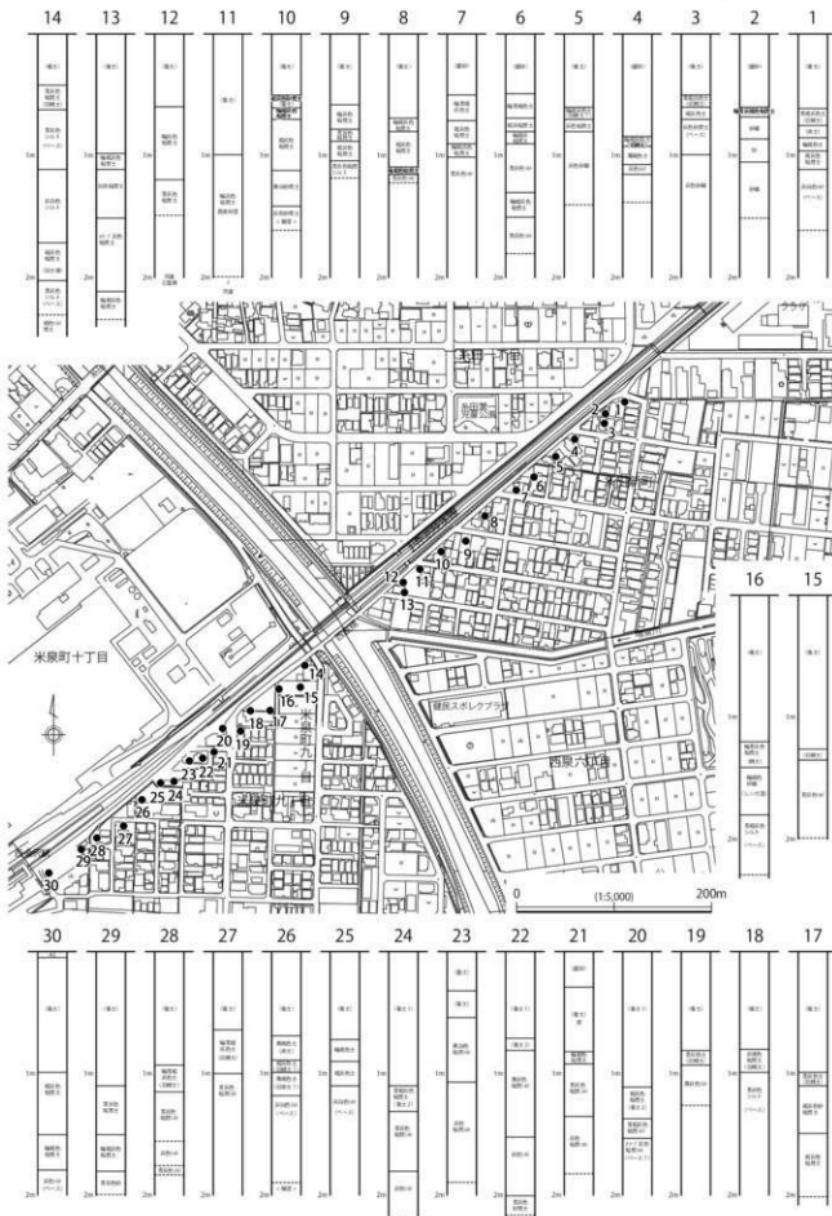


第4図 試掘調査の状況

第4節 整理等作業の経過



第一章 經 過



第6図 試掘調査の状況

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

八日市D遺跡は石川県金沢市八日市1丁目に所在する。金沢市は、東～南東部にかけて白山山系から連なる山間地が広がり、西～南部には平野部が広がる地形となっている。市街地は東部の山間地を水源とする犀川・浅野川の二大水系の流域に広がっている。平野部はこの二大水系と白山市を流れる白山山系を水源とした手取川によって形成されており、現在の犀川～伏見川の流域によってほぼ南北に二分することができる。北部平野は二大水系と金鷲川・森下川などによって形成された沖積平野で、その土壤は一般的に保水性の高い粘泥質シルトで形成され、平坦で湿潤な地形である。一方、南部平野は手取川によって形成された扇状地であり、土壤は砂泥と礫が互層をなした比較的起伏の多い地形となっている。手取扇状地は白山市鶴来一宮付近を頂点にして東側は富樫山地と急崖で接し、扇頂部から扇端部までの標高差は70mほどである。

遺跡は金沢市の南西部、南部平野に位置する。当地は水に恵まれたところで、手取川や富樫山地から流れる小河川を利用した郷用水や富樫用水系の十人川や木呂川などが南から北に流れている。また、地下水も豊富で「ショウズ」と地元で呼んでいたり湧水も昭和30年代までは、いたるところで見られたそうである。また、当遺跡の西方約1kmには国道8号線が、北方2kmには北陸自動車道と金沢西インターチェンジが位置し、金沢南西部的一大交通要所となっている。さらに、押野陸橋の完成供用により北陸自動車道から金沢都心部へのアクセス向上を目的とした中環状道路の一翼を担う小立野古府線が全線開通するなど、道路網が整備され都市化が加速されてきている。また、これら交通網の整備と呼応し大規模な住宅団地の造成も多数行われ、人口も急激に増加した地域である。そうした中、元来この地域は水田・畑作地であったこともあり、農地転用に係る開発行為の数も多く、発掘調査された遺跡の数も多数存在している。

ちなみに、金沢市八日市は旧石川郡押野村に属していたが、いわゆる昭和の大合併時に金沢市へ編入した。また、この時、旧押野村には野々市町（現野々市市）に編入した地域もあり、市境が若干入り組んでいる。かつては、これを境として前述の都市化的速度もやや違いが見られ、野々市市には田園風景が多く残っていた。しかし、野々市市域では区画整理事業が相次いで行われ、大型商業施設や住宅地などの整備が続き急速に都市化が進んでいる。その結果、金沢市のベッドタウンとして都市化が進んだ八日市周辺も近年では野々市市のベッドタウンとしての性格も有するようになってきている。



第7図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺には縄文時代から集落が営まれており、全時代を通じて遺跡の分布密度は濃い。遺跡の殆どは開発行為等により消滅の一途を辿りつつあるが、中には歴史的価値が評価され史跡指定や史跡公園として保存されたものもある。金沢西南部は史跡公園化された遺跡が多く、歴史探訪には格好の地と言えよう。

古府遺跡は縄文時代中期中葉の「古府式」の標識遺跡として著名である。北塚遺跡は古府式期から縄文時代後期初頭にかけての県下でも有数の集落跡の一つである。縄文時代後期から晩期の遺跡では、後期中葉の御経塚遺跡（野々市市）がある。これは後期中葉から晩期後葉まで営まれた集落跡で、晩期前葉の「御経塚式」の標識遺跡である。その他には、縄文時代後期後葉「八日市新保式」の標識遺跡であり、巨大木柱根が約350点出土した新保本町チカモリ遺跡がある。このように、一帯は当該期の標識遺跡が集中する地域であり、研究を行う上では欠かすことのできない地帯であることは言うまでもない。

弥生時代の遺跡では、中期の畿内第Ⅱ様式併行の土器群が出土した矢木ジワリ遺跡が挙げられる。後期から終末にかけての遺跡には横江A遺跡（白山市）、新保本町西遺跡、新保本町東遺跡などがある。

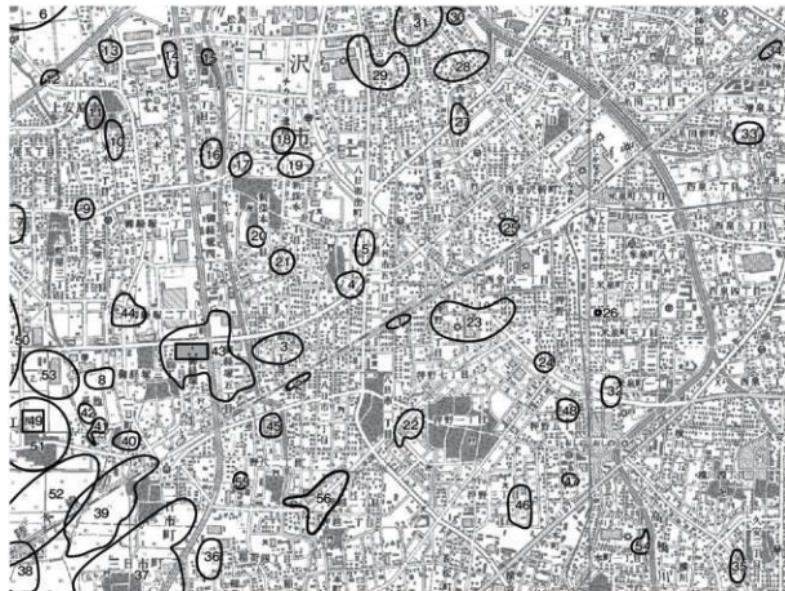
当遺跡周辺において、今まで埴丘が残存している古墳はおまる塚・びわ塚・宇佐神社古墳が確認されているが、御経塚シンデン遺跡（野々市市）において水田下から前方後円墳が検出されていることから、当平野部にも現在確認されていない古墳群が存在していた可能性は高い。また、おまる塚・びわ塚は、現在ではそのほとんどが失われてしまった北塚古墳群と呼ばれる古墳群の盟主墳と考えられている。集落跡としては、前出の御経塚シンデン遺跡と御経塚ツカダ遺跡（野々市市）において当該期の堅穴住居が検出されている。

律令体制の後期になると、畿内の大寺院が地方の荘園経営に乗り出してくる。いわゆる初期荘園と呼ばれるものである。当該地域にも当時の中央権力の影響が表れた遺跡が出現する。国指定史跡である東大寺領横江荘遺跡（白山市）は、東大寺荘園の施設跡であり、文献史学と考古学の両方から初期荘園研究にアプローチできる遺跡として貴重なものである。白山市の横江荘屋跡が中央管理施設、金沢市の上荒屋遺跡が横江荘付属施設と考えられ、上荒屋遺跡からは船着場遺構、多数の木簡と墨書き土器の検出があり、遺構・遺物とも優れた資料を提供している。金沢の平野部における奈良・平安時代の遺跡に関しては、8世紀前半に遡るものは少なく、後半以降に急激に活動が活発化する傾向にある。また、荘園経営と関連付けられる資料は8世紀末以降でないと確認できない。このことは整田開発関連の法令（723年三世一身法、743年整田永年私財法）にともなう整田開発の活発化に關係していると考えられている。

室町時代になると、加賀国の守護となつた富樫氏の庶流である押野氏の館跡、押野館跡がおかれる。ここでは発掘調査によって堀で囲まれた建物群が検出されている。

近世以降になると、当該地域は金沢城下緑辺の農村地域となることから、遺跡数は減少する。

現在の市境を超えて旧押野村地域には數多くの遺跡があり、この地域を物語る上でも欠かせないものとなっている。金沢市域ではチカモリ遺跡を中心としてイベントが行われており地域の絆を形成する一助にもなっている。一方、野々市市域では御経塚遺跡を中心として地域のアイデンティティーが保たれているようである。

第8図 八日市D遺跡と周辺遺跡 ($S = 1/25,000$)

国土地理院の数値地図25,000を使用

番号	遺跡番号	名 称	種 類	時 代	番号	遺跡番号	名 称	種 類	時 代
1	125301	八日市D 遺跡	集落跡	赤生・奈良・平安・中世	32	127700	米原遺跡	集落跡	穀文、赤生、平安
2	125310	八日市C 遺跡	集落跡	奈良・平安	33	128000	坂東ノ川遺跡	散在地	赤生、古墳
3	125330	八日市B 遺跡	集落跡	穀文、古墳、奈良・平安	34	128500	神田ノ川遺跡	集落跡	赤生
4	125400	八日市カセイツ遺跡	集落跡	穀文、古墳、奈良・平安	35	128300	八人塚(スルイ)遺跡	散在地	平安
5	125500	八日市ヤスマツ遺跡	集落跡	穀文、赤生、奈良・平安	36	1202100	三日月ヒゲザト市遺跡	集落跡	赤生・奈良・平安・中世
6	125500	八日市ヤスマツ遺跡	集落跡	古墳、奈良・平安	37	1203000	三日月A 遺跡	集落跡	穀文、赤生、奈良・平安、中世
7	125600	八日市遺跡	集落跡	穀文・奈良・平安	38	963600	柳ヶ原遺跡	集落跡	赤生、奈良・平安
8	125800	御前屋(オノヤ)遺跡	集落跡	赤生、中世	39	1201800	二日月ハマコ遺跡	集落跡	穀文、赤生、平安
9	125700	二見住宅遺跡	散在地	赤生	40	1205000	箕地(シダヘ)遺跡	集落跡	赤生、中世、近世
10	125720	矢木ノカミツキ遺跡	集落跡	赤生、古墳	41	129800	箕地(シダヘ)遺跡	集落跡	赤生
11	125730	矢木ノガラツ遺跡	集落跡	赤生	42	1206000	箕地(シダヘ)遺跡	集落跡	穀文、赤生、古墳
12	125740	矢木ノ安井遺跡	集落跡	赤生、古墳	43	120400	御野(ウツバ)遺跡	集落跡	穀文・古墳
13	125750	矢木ノ道跡	散在地	赤生、古墳	44	120000	御野(ウツバ)遺跡	散在地	穀文、赤生、古墳
14	125800	森谷(ヨシタケ)遺跡	散在地	古墳	45	120000	御野(ウツバ)遺跡	古墳	古墳
15	125790	西口町遺跡	散在地	穀文	46	121900	野代遺跡	散在地	穀文
16	125800	西口町宅地跡	散在地	穀文	47	1201400	御野(ウツバ)遺跡	散在地	穀文
17	125600	新保町西遺跡	集落跡	赤生、古墳	48	1201200	御野(ウツバ)遺跡	散在地	穀文
18	125700	新保町の子(ノコ)遺跡	集落跡	穀文	49	1201200	御野(ウツバ)遺跡	散在地	穀文
19	125800	新保町東遺跡	集落跡	穀文、赤生、古墳	50	913700	横江(ヨコエ)遺跡	散在地	中世
20	125900	新保町のカサ(カサ)遺跡	散在地	赤生	51	913900	横江(ヨコエ)遺跡	散在地・寺院	穀文、古墳、中世
21	126000	新保町西遺跡	散在地	中世	52	911000	横江(ヨコエ)遺跡	散在地	平安
22	126000	上菅子(カネコ)遺跡	今跡	中世	53	914300	横江古居敷遺跡	集落跡	その他の(不詳)
23	126100	野野西遺跡	集落跡	穀文、赤生、奈良・平安	54	108100	横川(ヨコエ)遺跡	集落跡	赤生、古墳
24	126200	御野人宿古墳	古墳	古墳	55	120000	野代(ウツバ)遺跡	散在地	穀文、古墳、中世
25	126300	西口町新井遺跡	散在地	古墳	56	1201000	御施(ウツバ)遺跡	集落跡	その他の(不詳)
26	127800	赤坂(アカザカ)丁子遺跡	散在地	赤生					
27	128600	保乃(ホノ)遺跡	集落跡	奈良・平安					
28	128700	保乃(ホノ)遺跡	集落跡	平安					
29	128600	小曾根(コソネ)遺跡	集落跡	穀文					
30	128600	野川町(ヨカムチ)二条(ニジ)遺跡	集落跡	古墳	57	120000	野代(ウツバ)遺跡	散在地	穀文、古墳
31	128600	野川町(ヨカムチ)遺跡	集落跡	平安	58	1201000	御施(ウツバ)遺跡	集落跡	その他の(不詳)

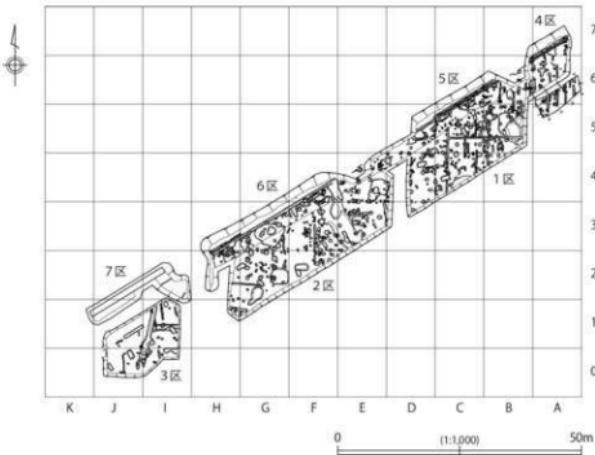
第1表 周辺遺跡一覧表

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

平成21年度調査 調査区は道路や用水で分割されており、それぞれ1区、2区、3区と呼称して調査を実施した。また、公共座標（世界測地系）に基づく10m間隔のグリッドを設定した。グリッドの基点は、次年度以降も市道部分の調査が予定されていることもあり、それらを含む調査区外南東に設け、東から西へA～Kのアルファベットを、南から北へは1～7の算用数字を用い、それらを組み合わせてC5区、D4区などグリッド名とした。また、グリッドの南東隅の杭にグリッド名を付しており、C5杭の座標はX = + 60960、Y = - 49700となる（第9図）。また、調査区が座標軸に対して斜めになっており、かつ道路や用水により調査区が細分されたことにより調査にあたっては必要に応じ補助杭を設定した。遺構番号は次年度以降の調査も鑑み、平成21年度が1次調査となることから番号の先頭に1を付すこととした。溝や土坑は1、2、3区を通して100番台を使用した。小穴については1000番台を使用し、さらに1区はP1001～、2区はP1101～と調査区ごとに百番台の数字を付した。よって、遺構番号は連続していない。また、掘立柱建物は1区で確認されたものはSB101～、2区の建物はSB201～となる。3区では建物は確認されなかった。

基本層序は、1m近い盛土の下に20cm程度の耕土、その下に暗褐色の遺物包含層、漸移層を経て地山となるが、包含層が見られず耕土直下で地山が露出する地点もある（第45図）。地山は黄褐色の砂～シルトが大半であるが、そのシルトのすぐ下に礫層が見られるところもあった。遺構覆土は、弥生時代の遺構は暗褐色を基調とし、奈良・平安時代の遺構も同様に暗褐色を呈する。一方中世の遺構は灰色



第9図 グリッド配置図

を基調とする。地形は最東の1区東端11.08m、2区の中央付近では11.29m、最西の3区で11.34mを測る。

調査の結果、奈良・平安時代の集落跡を中心として弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を確認した。なお、2区の地山から縄文土器がかなり大きい破片で出土していることから、該期の集落が付近に存在していた可能性もある。3区において、遺構・遺物とも希薄になった。周辺の地形からは西に向かって落ち込む様相は見受けられず、遺跡の縁辺というよりは遺跡が削平された可能性がある。1区ではさらに東に遺跡が続く様相が窺え、翌平成22年度の調査対象範囲の拡大の要因となった。

[1区] 遺構密度は高く掘立柱建物が9棟（一部、調査後の検討で建物としたものも含む）検出された。出土遺物は須恵器や土師器がある。建物はほぼ南北方向に軸を描え、一定の間隔で並ぶ一群とそれより軸をやや西に振る建物とが一部重複しており時期差がある。また、調査区の東端には中世以降と考えられる大型の土坑があり、井戸の可能性がある。なお、調査区の東端には掘立柱建物と考えられる柱穴が検出され、調査区外へ延びていることが想定された。調査時点では調査区東は隣接工場への出入り口として機能しており調査区の拡張はできなかった。次年度、この部分は工事立会を実施し掘立柱建物の存在を確認した。

[2区] 1区同様遺構密度は高く掘立柱建物が9棟（一部、調査後の検討で建物としたものも含む）検出された。また、竪穴建物も都合3棟検出され、そのうちの2棟は弥生時代、残り1棟は奈良時代と考えられる。さらに、宅地の浄化槽による搅乱を取り除いたところ、いわゆる地山としていた砂質シルトの層から縄文土器が出土した。一帯は手取扇状地にあり河川による堆積と削平を繰り返したであろうことから遺構のベースとした地山にそれ以前の土器が含まれていたものと解釈した。

[3区] 遺構密度は薄くいずれも浅いもののが多かった。包含層と地山との漸移層的な層は確認できたものの1、2区でみられた包含層に相当する土層はなかった。周辺の地形からは西に向かって落ち込む様相は見受けられなかった。確認のため遺構のない地点でトレンチ調査を行ったがシルト質の土の下60cm程度で礫層が確認された。JR北陸本線を挟んだ北側での集合住宅建設に伴う試掘調査でも耕土直下でかなり径の大きい礫層を確認している。現時点では遺跡が存在したかどうかの確認は何もないが、少なくとも1、2区で建物を検出した遺構面に相当する部分は削平されていると考えられる。

平成22年度調査 調査区は旧市道下にあたるが、調査着手時点では電力送電用の電柱が移設できず周辺を残しての調査となった。そのため調査区は大きく4つに分かれ、それぞれ東から4区、5区、6区、7区と呼称し調査を実施した。また、平成21年度同様公共座標を基準とした10m間隔のグリッドを設定した。座標、グリッド番号とも平成21年度のグリッドと整合する。遺構番号は2次調査ということで番号の先頭に2を付すこととした。溝や土坑は200番台を使用した。小穴については平成21年度同様に2000番台を使用したが、調査区で細分せずP2001～となる。また、掘立柱建物はすでに平成21年度に番号が付いた建物については同一の番号を、新たに確認されたものも4区、5区はSB101～の続きの番号を、6区の建物はSB201～の続きの番号となる。

地形は最東の4区東端11.02m、中央の5区西寄りでは11.10m、最西の7区で11.33mを測る。4区最東端で小穴や溝状の遺構を検出したものの隣接地の工事での掘削状況からは遺跡がそれより東に延びている状況は窺えず遺跡の東端と判断した。また、7区は大部分が排水路工事により削平されたいたものの確認できた範囲では遺構・遺物とも検出できず、3区の調査状況とも合わせ遺跡の西端となろう。

調査の結果、建物の規模が判明し新たな建物が確認できるなど平成21年度第1次調査で確認された奈良・平安時代の集落跡の様相がより一層明確になった。前述の1区東側部分や電柱部分については工事立会を行った。

〔4区〕 調査区の東側、遺跡の東端に近づくにつれ遺構は少なくなつていった。排水路の暗渠と上水道管の埋設工事により搅乱を受けていたが、そのわずかな残地に小穴の有無は判断でき、建物の規模を知る上で重要な見地を得られた。1区及び工事立会部分の調査所見も合わせ掘立柱建物を2棟確認した。

〔5区〕 4区同様暗渠と上水道管の埋設工事で搅乱を受けていたが僅かな痕跡から柱穴の存在を追うこともできた。掘立柱建物を2棟確認した。

〔6区〕 2区に隣接しており、平成21年度に検出した掘立柱建物の規模や堅穴建物の大きさが確認できた。この地点では上水道管より低い位置で掘立柱建物の柱穴が検出されることもあり、一部搅乱の影響を受けつつもなお一定の調査所見を得ることができた。掘立柱建物を6棟、堅穴建物を1棟確認した。

〔7区〕 前述のとおり大部分で搅乱を受けており、遺構面が検出できた部分にも明確な遺構は存在しなかった。隣接する3区の調査所見と矛盾はない。

第2節 遺構と遺物

〔SB101〕(第12図) 1区で確認された掘立柱建物。南北4.9m、東西4.9m(柱痕跡が判別できるものはその中心、それ以外は柱穴掘り方中心との距離、以下同じ)で、面積24m²、桁行2間×梁行2間(長軸を桁、短軸を梁とし桁行×梁行と表示、以下同じ)の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺70~90cmの不定形な楕円形を呈する。南北辺の中間の柱穴P1047、P1007の掘り方がそれ以外よりやや小さい。東列中間柱穴がSK102により不明だが西側柱列掘り方はいずれも大きい。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていた可能性がある。柱穴の深さは概ね30cm前後である。出土遺物として第46図1、2を図化した。

〔SB102〕(第13図) 1区で確認された掘立柱建物。南北6.3m、東西4.9mで、面積30.9m²、3間×2間の側柱建物。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺60~90cmの隅丸方形を呈する。4隅の柱穴掘り方がやや大きく、梁行(南・北柱列)の中間の柱穴、桁行(東・西柱列)の中間の柱穴の順に小さくなる。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたかどうか判断し難いがP1010等での痕跡を追うことができる。柱穴の深さは概ね30cm前後である。出土遺物として第46図3、4を図化した。

〔SB103〕(第14図) 1区で確認された掘立柱建物。南北6.6m、東西4.5mで、面積29.7m²、3間×2間の側柱建物。建物主軸はN-15°-Wである。柱穴の形状は一辺60~70cmの隅丸方形を呈するが一部楕円形のものもみられる。4隅の柱穴や柱間の柱穴で掘り方の大きさの差は目立たない。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたものが複数観察される。柱穴の深さは概ね30cm前後である。柱穴の切り合は確認できなかったが建物平面でSB104と重複する。

〔SB104〕(第15図) 1区で確認された掘立柱建物。南北5.9m、東西5.1mで、面積30.1m²、南東隅の柱が調査区外となり確認できないものの3間×2間の側柱建物となろう。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺60~80cmの隅丸方形を呈する。隅柱と間柱で掘り方の大きさの差は目立たない。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたと考えられる柱穴が多い。柱穴の深さは概ね30cm前後である。出土遺物として第46図5、6を図化した。6の内面には墨痕が見られる。

〔SB105〕(第16図) 1区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では1間以上×2間以上の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向となろうか。柱穴の

形状はP1054では一辺50cmの隅丸方形を呈するが他は不整円形になる。特にP1056は他の柱穴に比べ掘り方規模が小さい。柱穴の深さは概ね30cm前後である。

[SB106]（第18図）1区、4区、電柱工事立会で確認された掘立柱建物。南北5.3m、東西4.8mで、面積25.4m²、3間×2間の側柱建物である。建物主軸は南北方向となる。柱穴の形状は一辺60cm前後の隅丸方形を呈するものが多い。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたものも見られる。柱穴の深さは概ね30cm前後である。出土遺物として第46図7を図化した。

[SB107]（第19図）1区、4区、1区東工事立会で確認された掘立柱建物。南北3.7m以上、東西5.0mで、面積18.5m²以上、2間以上×2間の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状はやや不整形な円形を呈する。P2093とP2094間の距離が他のものよりやや短く庇状の付属物があった可能性もある。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴の深さは概ね30～40cmである。出土遺物として第46図8～11を図化した。10の外面には「十」の文字が黒漆とみられるもので書かれている。また、11の内外面赤彩土師器碗の内面には暗文がみられる。

[SB108]（第17図）1区、5区で確認された掘立柱建物。検出したのは南東の一部で建物規模は不明。検出した範囲では2間以上×1間以上の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向となろうか。柱穴の形状は一辺60cm前後の隅丸方形を呈する。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取った痕跡が観察される。柱穴の深さは概ね40cm前後である。

[SB109]（第20図）1区、5区で確認された掘立柱建物。南北4.0m、東西4.5mで、面積18m²、2間×2間の側柱建物と推定されるが東側間柱および南西隅の柱穴は検出できていない。建物主軸は南北方向となろう。柱穴の形状は長径30～60cmの不定形な楕円形を呈する。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたものも観察される。柱穴の深さは20cm～30cmである。

[SB201]（第21図）2区で確認された掘立柱建物。南北4.0m、東西5.4mで、面積21.6m²、2間×2間の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向となろう。柱穴の形状は一辺80～100cmの隅丸方形を呈する。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取った痕跡が観察されるものもある。柱穴の深さは概ね50cm前後である。北側柱列の間柱柱穴が存在しない。最終的にはトレンチで確認したが痕跡は何えなかった。金沢市の戸水C遺跡などでは南北方向に主軸を持つやや柱穴の大きい2間×2間、2間×1間の掘立柱建物の北側間柱柱穴の存在しない建物が報告されている。SB201は間柱のない北側にSB202が位置し、その配置から2棟同時に存在したと考えられ、若干違いがみられる。出土遺物として第46図12～16を図化した。12は内外面赤彩土師器碗、13は内面黒色処理の外面赤彩土師器碗である。

[SB202]（第22図）2区、6区で確認された掘立柱建物。南北5.5m、東西5.5mで、面積30.3m²、3間×3間の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺50～90cmの隅丸方形を呈する。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね30～50cmである。出土遺物として第47図17を図化した。内外面赤彩土師器の底部小片であるが内面は丁寧に磨かれており一部煤の付着が認められ、外面にはケズリ調整の痕跡も観察できる。

[SB203]（第23図）2区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では南北3.7m、東西2.8m、2間以上×1間以上の側柱建物と推定される。建物主軸はN-7°-Eとやや東に振る。柱穴の形状は一辺60～70cmの隅丸方形を呈する。掘り方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね30cm前後である。

[SB204]（第25図）2区、6区で確認された掘立柱建物。南北6.5m、東西6.5mで、面積41.9m²、

3間×2間の側柱建物と推定されるが、梁間の間柱が検出されておらず現状では3間×1間となる。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺60～100cmの隅丸方形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。全ての柱穴で後述するSB205のそれを切っており、ほぼ同じ場所に桁行を5間から3間へと縮小しさらに梁間を内側にやや小さくして建て替えたと考えられる。南側梁間の間柱はSB205のそれとしたP1166とはほぼ同じ場所となろうか。北側梁間間柱も中世の自然河道と考えられるSD109にあたり判然としなかった。柱穴の深さは概ね40cm前後である。出土遺物として第47図18～21を国化した。18の内面には黒漆とみられる樹脂状のものがほぼ一面に付着している。19の外面にはケズリ調整が施される。

[SB205] (第26、27図) 2区、6区で確認された掘立柱建物。南北11.2m、東西7.8mで、面積87.4m²、5間以上×2間の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺80cm前後の隅丸方形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。SB204に切られる。北西部は調査区外及び暗渠排水路による攪乱を受け不明だが、検出された範囲だけでも今回の調査では最大規模の建物となる。柱穴の深さは概ね40cm前後である。南側梁間の間柱P1166はやや南にずれて検出されている。中世の自然河道と考えられるSD109の底ではほとんど柱穴の底の痕跡のみを確認した。出土遺物として第47図22～28を国化した。25は内外面赤彩土師器碗で外面下半にケズリ調整が施される。

[SB206] (第28図) 2区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では2間以上×2間以上の側柱建物と推定される。建物主軸はほぼ南北方向だが僅かに東に振る。柱穴の形状は一辺70cm前後の隅丸方形や形の崩れた楕円形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね40cm前後である。出土遺物として第47図29を国化した。

[SB207] (第29図) 2区、電柱工事立会で確認された掘立柱建物。南北7.1m、東西4.7mで、面積33.4m²、3間×2間の側柱建物と推定される。北西隅柱は暗渠排水の攪乱を受け不明である。建物主軸はN-2°-Wとほんの僅かに西に振る。柱穴の形状は一辺50～60cmの隅丸方形から円形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね30cm前後である。梁間の柱が北辺、南辺共にやや外側にずれて配置される。竪穴建物SI102を柱穴P1175が切っている。SB204やSB205と重複するが柱穴が直接は切り合っていない。出土遺物として第47図30を国化した。内外面赤彩土師器碗で外面下反部にケズリ調整が見られるが磨耗により判然としない。

[SB208] (第30図) 2区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では3間以上×3間以上の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向である。柱穴の形状は一辺60～80cmの隅丸方形から略楕円形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね30cm前後である。北辺の一部がSD109により不明で、建物の南東部が調査区外となる。柱穴底の標高も東列が西列のそれよりやや低い。東西方向が3間以上となる建物も今回の調査ではSB202とSB208だけである。出土遺物として第47図31、32を国化した。

[SB209] (第31図) 6区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では1間以上×2間以上の側柱建物と推定される。建物主軸は南北方向であろうか。柱穴の形状はやや不定形な円形から隅丸方形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では一部柱を抜き取っていた痕跡が窺える。柱穴の深さは概ね40cm前後である。

〔SB210〕(第24図) 6区で確認された柱列。その規模や形状から掘立柱建物の一部と考えられるが、調査区外や暗渠排水路などによる擾乱を受け全貌は不明である。出土遺物として第47図33を図化した。

〔SB211〕(第32図) 2区で確認された掘立柱建物。検出したのは北西の一部で建物規模は不明。検出した範囲では1間以上×2間以上の掘立柱建物と推定される。建物主軸はN-6°-Eとやや東に振る。柱穴の形状はやや不定形な円形から隅丸方形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていたかどうかは不明である。柱穴の深さは概ね40cm前後である。北辺の間柱が他の建物に比べればやや異質であるが地山質の掘り方を掘りきれていない可能性もある。

〔SB212〕(第33図) 2区で確認された柱列。その規模や形状から掘立柱建物の一部と考えられるが、調査区外やSD109などにより不明である。柱穴の形状は60~70cmの隅丸方形を呈する。掘方は地山質土を多く含む。柱穴断面観察では柱を抜き取っていた痕跡が観察される。柱穴の深さは概ね30cm前後である。

〔SI101〕(第35図) 2区で確認された竪穴建物。竪穴平面形は南北方向に沿った形の隅丸方形を呈し、南北3.3m、東西3.7mで柱穴等は確認できなかった。掘立柱建物SB201の柱穴P1103、P1107に切られている。地山を掘り込み整形し床面としているようであったが、埋土との境がはっきりとしてはいなかった。北西隅より土器がほぼ完形で出土している。出土遺物として第48図34から40を図化した。34の高杯は外面に丁寧なミガキ調整が施される。受け部内面にもミガキが見られるが磨耗により不鮮明で中央付近は痕跡が見えなかった。柱状脚の内部はケズリ後下半をナデ調整し裾部との境に透かしを4ヶ所、裾端部は折り返す。35の壺底部にはヘラで線が刻まれており、口唇部は浅い凹線状にナデ調整される。37の甕は外面下半に煤が付着する。38の甕は外面全体に煤が付着し、底部の一部に被熱によると思われる剥離痕がある。さらに、それに対応するように内面に黒斑が見られる。39の口縁端部面はケズリ調整で整えており一部窪んだ部分が等間隔で並ぶ。弥生時代後期中葉の竪穴建物と考えられる。

〔SI102〕(第36図) 2区で確認された竪穴建物。竪穴平面形は東にやや振った不定形な隅丸方形を呈し、南北2.9m、東西3.6mで柱穴等は確認できなかった。掘立柱建物SB207の柱穴P1175に切られている。出土遺物として第49図41、42を図化した。41は内外面赤彩土師器碗で内外面ともに丁寧なミガキ調整が施されている。外面底部から立ち上がり部分はケズリ調整で形を整え磨かれているようである。外面に一部煤が付着している。

〔SI103〕(第37図) 2区、6区で確認された竪穴建物と考えられる遺構。北辺部が不定形ながら南北4.6m、東西5.4mの隅丸方形を呈する。柱穴等は確認できなかった。中央から北辺部は擾乱を受け不定形になったものとも考えられる。擾乱を受け判然としないが、地山の礫床を床面としているものと考えられる。掘立柱建物SB202の柱穴P2008、P2009などに切られている。出土遺物として第49図43を図化した。SI101と同じような時期であろうか。

〔SK101〕(第38図) 1区で確認された長軸約2.4m、短軸約1.4mで隅丸長方形を呈する土坑である。覆土は下部でブロック状の地山質土を含む。深さは20cm程度と平面の大きさに比べればそれほど深くはない。SD101を切る。軸方向の共通性により、掘立柱建物と同時期の遺構と推定される。出土遺物として第49図44から47を図化した。

〔SK102〕(第39図) 1区で確認された長軸約4.1m、短軸約3.2mで隅丸長方形を呈する土坑である。覆土は下部で多くのブロック状の地山質土を含む。図化しなかった小片の出土遺物や覆土から中世の土坑と考えられ、井戸の部材抜き取り後の状態に似ている。中世の遺構としては覆土が共通する小穴が存在するが、明確な建物跡の確認はできていない。出土遺物として第49図48から50を図化したが、

遺構の時期を示すものではない。

【SX101】（第40図）1区で確認された長軸4m以上、短軸2m以上の隅丸長方形状を呈する土坑である。覆土の状況や出土遺物から奈良・平安時代の遺構であると考えられるが、性格は不明である。掘削後、掘立柱建物SB101の柱穴P1046が検出されており、それより新しいことになる。中世の井戸と考えられるSK102には切られている。出土遺物として第49図52、53、55、56を図化した。

【SD109】（第11図）2区、6区で確認された溝。覆土の状況や壁面での土層観察、出土遺物などから中世の自然河道と考えられる。最大幅5mを測り、南東から北西へ流れていたようである。出土遺物として第50図64から66、69を図化したが、溝の時期よりは古い。2区包含層出土であるが第52図100の白磁皿がこの溝の時期となろうか。

【P2014、P2015】（第43図）6区で確認された土坑状の遺構。小穴の番号を付したが、覆土、形状などはSK101と似通った状況を呈する。P2014の西P2013も同様の遺構と考える。P2014がP2015とP2013を切る。出土遺物として第50図59、60を図化した。

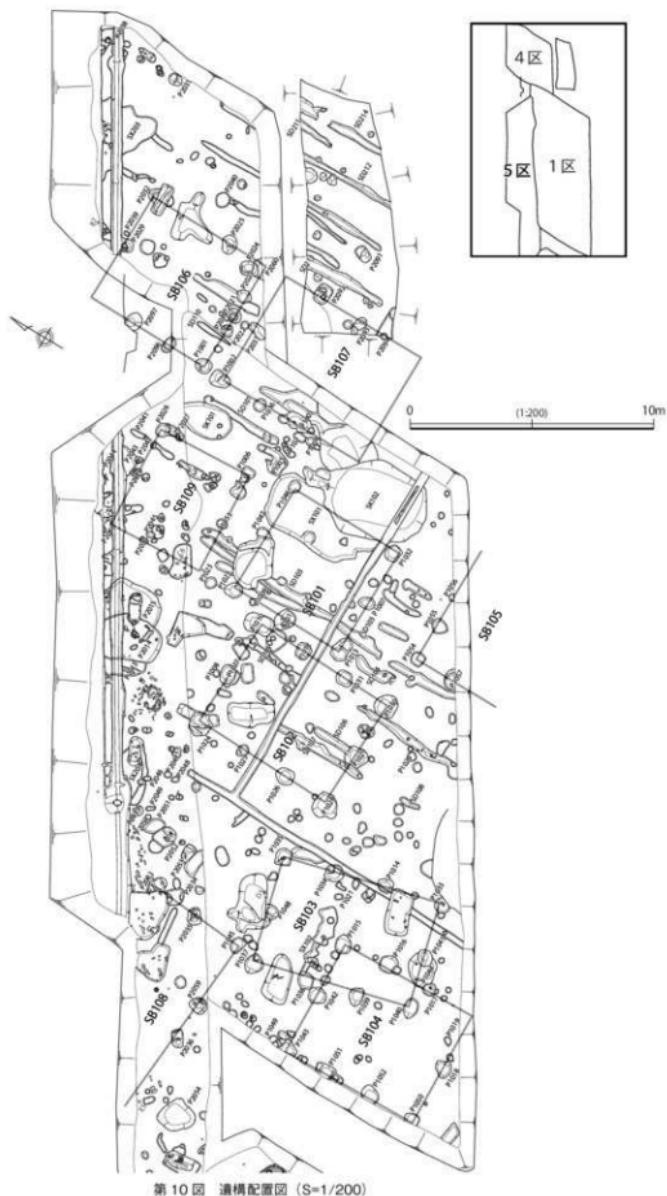
【P1044】（第41図）1区で確認された小穴だが、他の掘立柱建物の柱穴とはやや形状、覆土の状況が違う。掘立柱建物SB103の柱穴P1041やSB104のP1017に切られる。

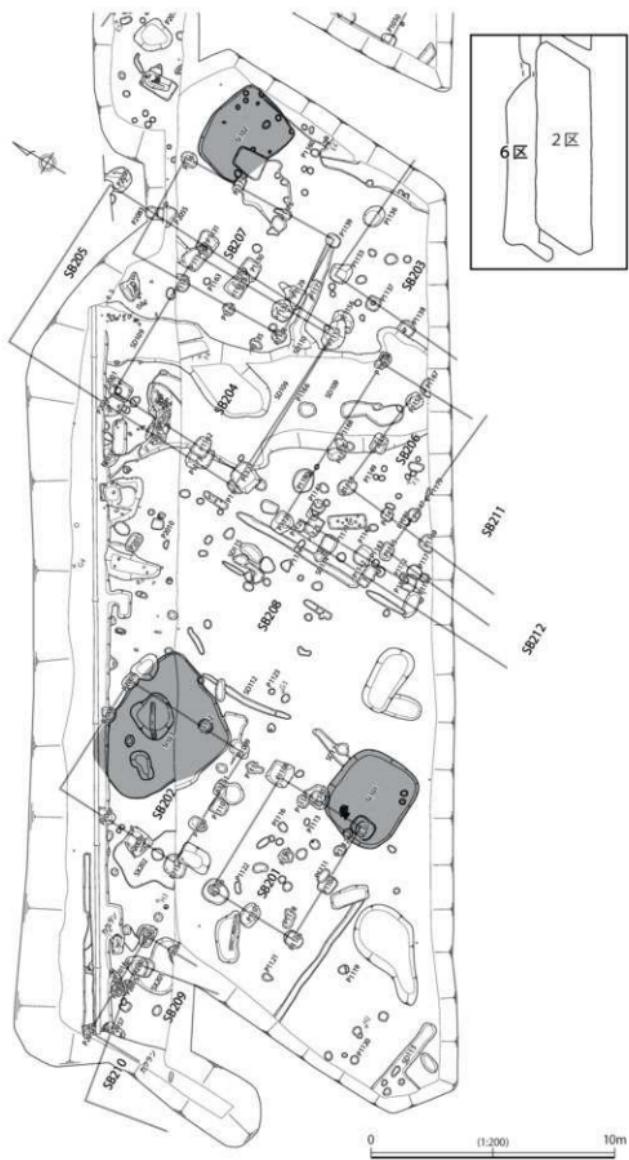
【その他の小穴】（第34、42、43、44図）掘立柱建物の柱穴となりうる小穴を確認したが建物の復元には至っていない。柱痕、柱抜き取りの痕跡、掘り方状の埋土が確認されるものが多い。

【その他の出土遺物】（第51、52図）2区包含層出土の73は高台内にヘラ記号が施されている。器厚や作りから瓶の底部と思われる。同じく2区包含層出土の86須恵器有台坏の底部高台内にもヘラ記号が見られる。89も2区包含層出土で高台内に墨痕が見られ硯として使用されたものと考えられる。101は2区包含層、102は5区包含層出土の内外面赤彩土師器碗である。101の内面には暗文状の調整が見られる。104は2区の地山から出土した繩文土器である。この上にあった住宅の浄化槽が地山を大きく掘り込んでおりそれを除去したところ露出したものである。外面に縄文、内面口縁付近に2条の沈線が施されている。

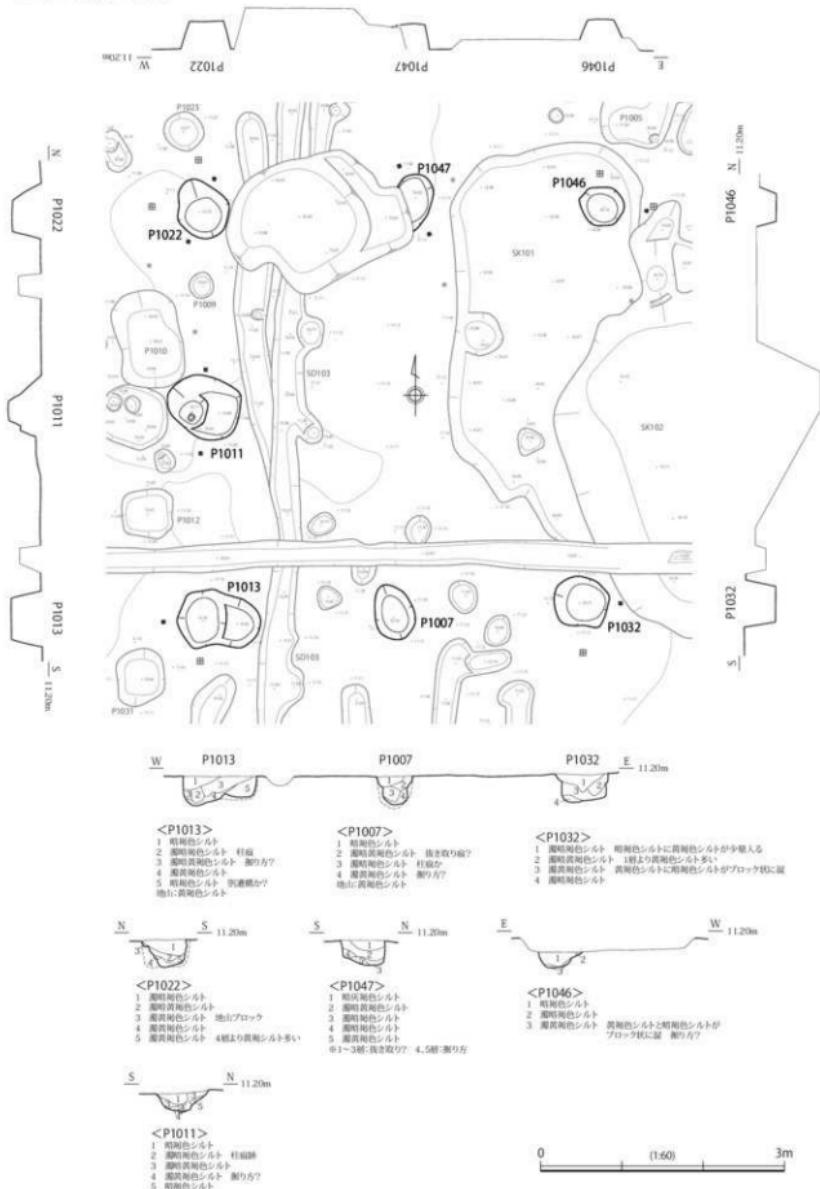
引用・参考文献

- 大西 順ほか 2003 「戸水C遺跡・戸水C古墳群(第11・12次)」 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 景山和也 2011 「八日市C遺跡」 金沢市埋蔵文化財センター
- 景山和也 2013 「八日市C遺跡Ⅱ」 金沢市埋蔵文化財センター
- 北野博司 1993 「戸水C遺跡Ⅱ」 石川県立埋蔵文化財センター
- 谷口明伸ほか 1999 「八日市ヤスマル遺跡」 金沢市埋蔵文化財センター
- 増山 仁ほか 1988 「八日市B遺跡」 金沢市埋蔵文化財センター
- 南 久和ほか 1990 「八日市サカイマツ遺跡」 金沢市埋蔵文化財センター

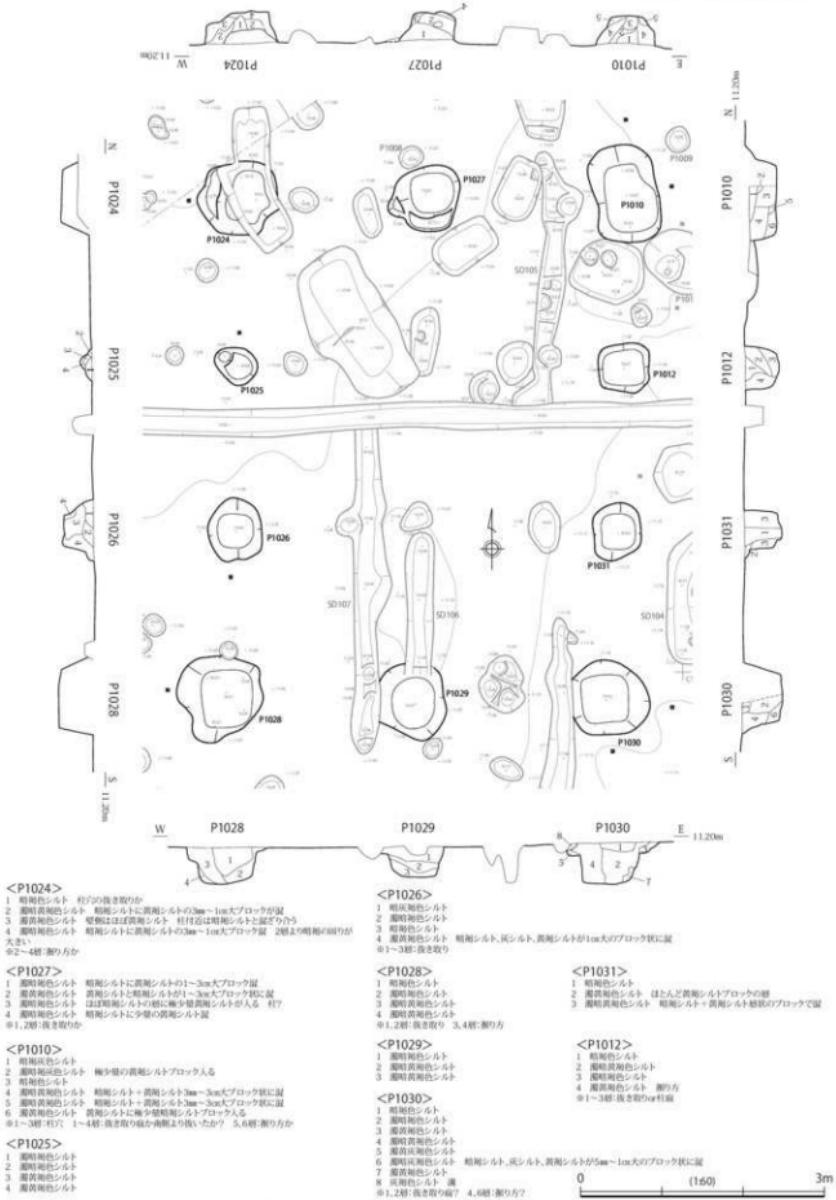




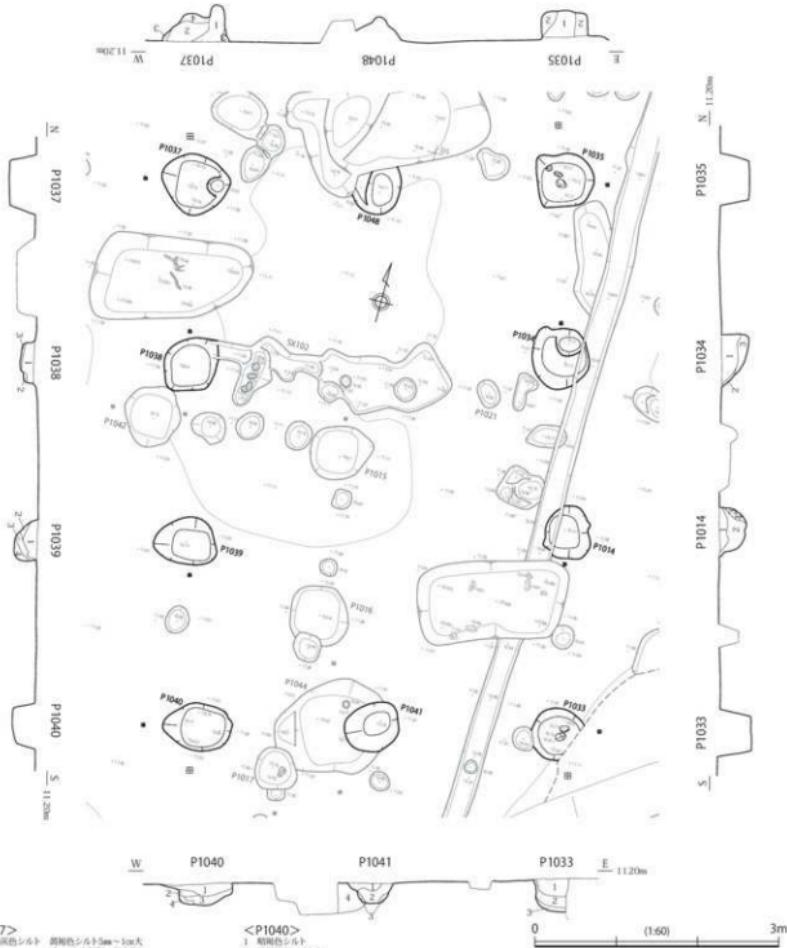
第11回 造構配置図2 (S=1/200)



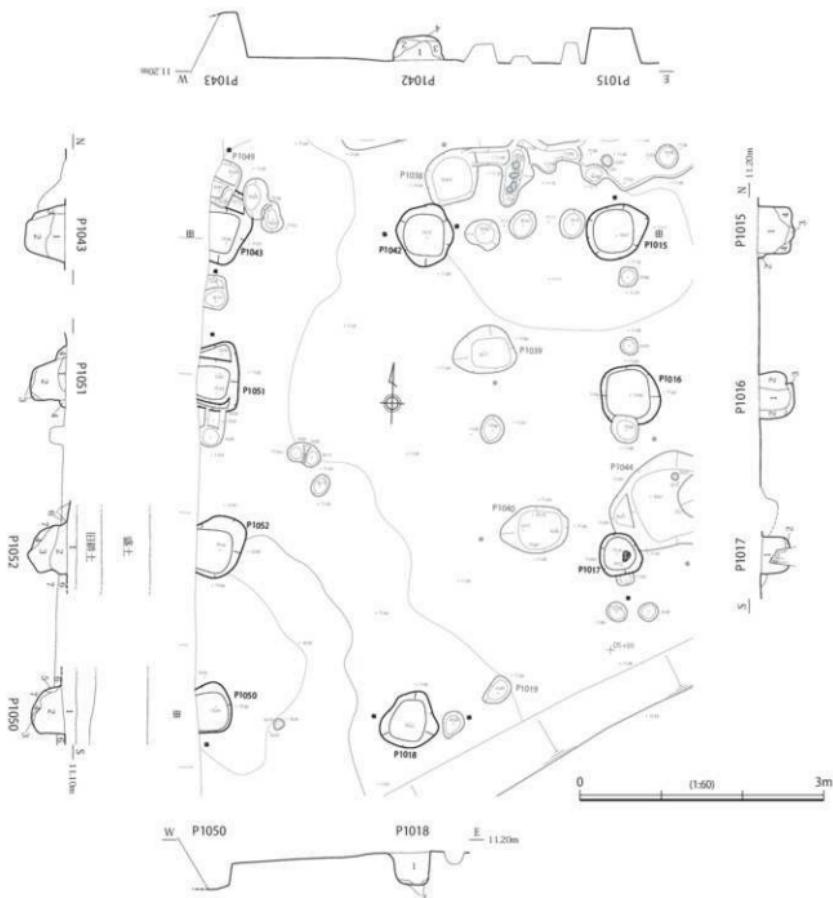
第12图 1区SB101平面图、断面图 (S=1/60)



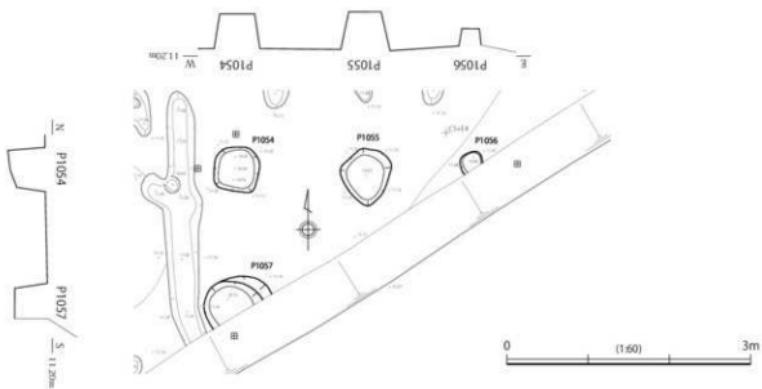
第13図 1区SB102平面図、断面図 (S=1/60)



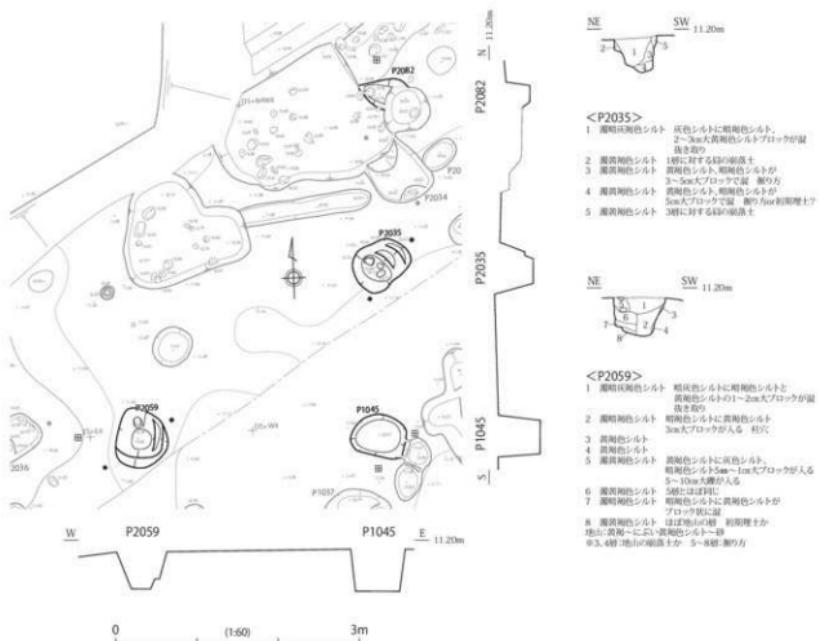
第14図 1区 SB103 平面図、断面図 (S=1/60)



第15図 1区 SB104 平面図、断面図 (S=1/60)



第16図 1区 SB105 平面図、断面図 (S=1/60)



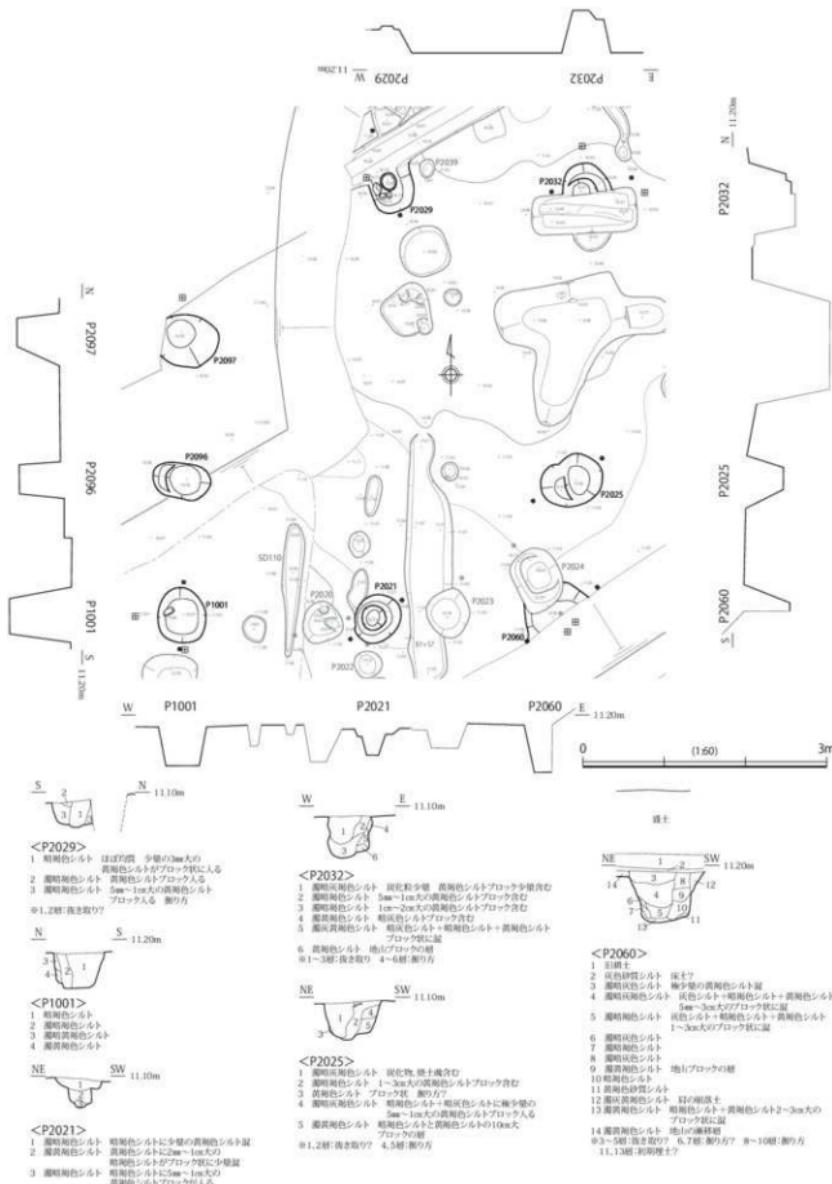
第17図 1区 SB108 平面図、断面図 (S=1/60)

<P2035>

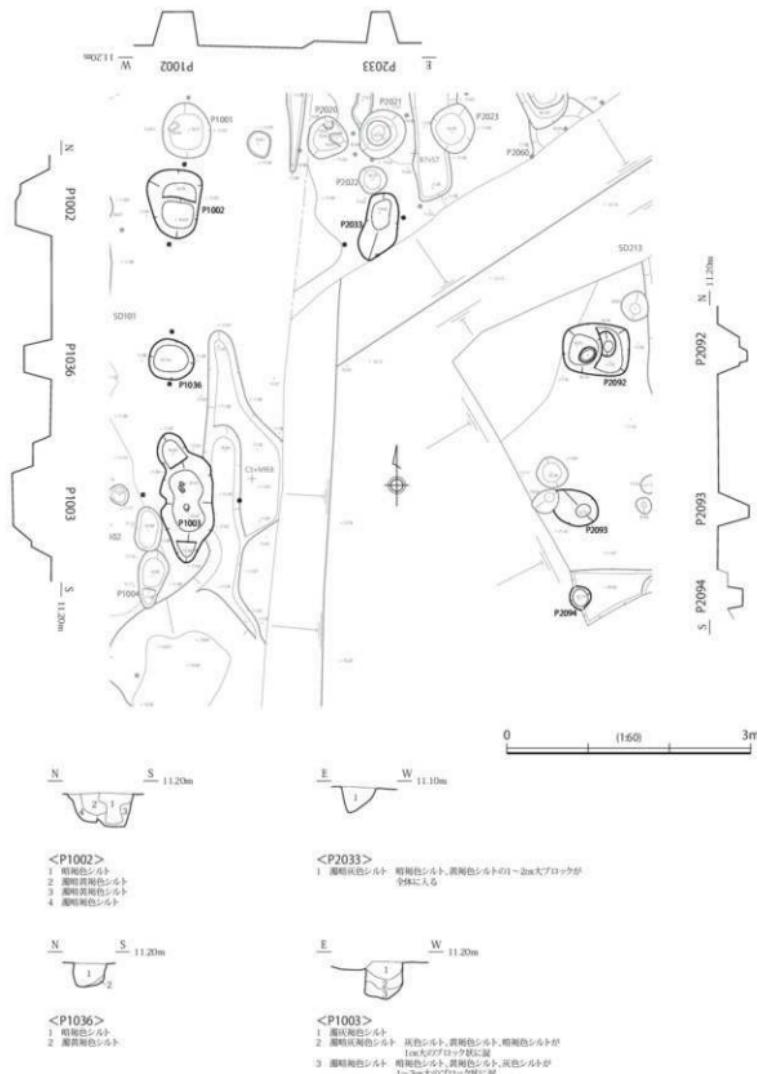
1. 濃暗灰褐色シルト 灰色シルトに暗褐色シルト、
2~3cm大黄褐色シルトブロックが混
入せる。
2. 濃黄褐色シルト 1層に対する5層の薄黄土。
3. 濃黄褐色シルト 淡褐色シルト、暗褐色シルトが
3~5cm大ブロックで混入する。
4. 濃黄褐色シルト 淡褐色シルトが混入する。
5. 濃黄褐色シルト 3層に対する3層の薄黄土。

<P2059>

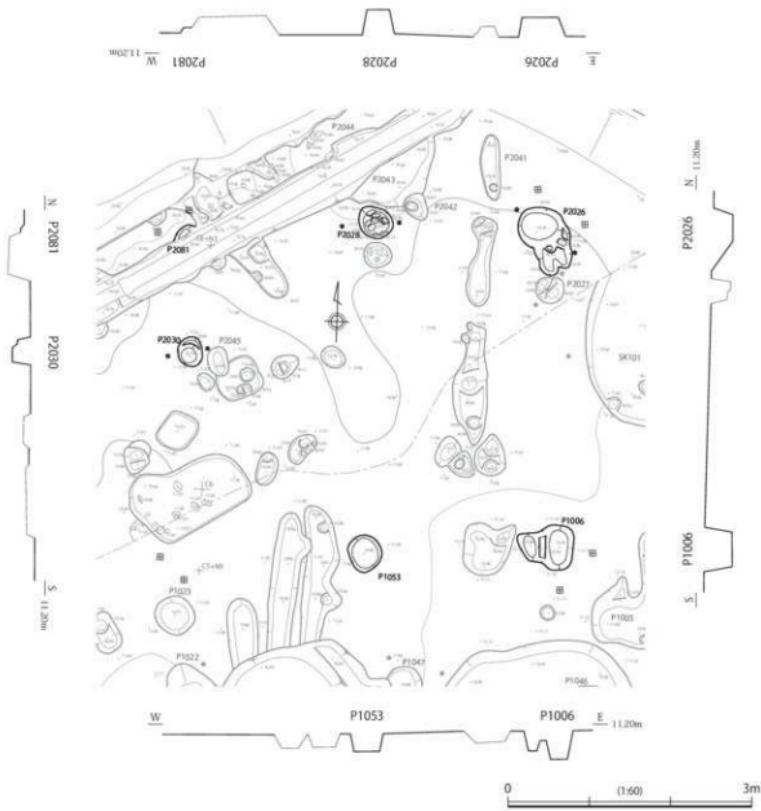
1. 濃暗灰褐色シルト 灰色シルトに暗褐色シルトと
淡褐色シルトの1~2cm大ブロックが混
入する。
2. 濃暗灰褐色シルト 暗褐色シルトに濃褐色シルト
3cm大ブロックがある。
3. 暗褐色シルト
4. 暗褐色シルト
5. 濃黄褐色シルト 淡褐色シルトに褐色シルト。
褐色シルトは1~2cm大ブロックで混入する。
6. 濃黄褐色シルト 5層とはほぼ同じ。
7. 濃暗灰褐色シルト 暗褐色シルトに濃褐色シルトが
混入する。
8. 濃黄褐色シルト ほむ地の1層。剖面土壁が
地中に黄褐色に2~3層の褐色シルトへ移
る。3~4層に2~3層の薄黄土か 5~6層:無り方



第18図 1区SB106 平面図、断面図 (S=1/60)



第19図 1区 SB107 平面図、断面図 (S=1/60)



<P2028>

- 1 雨天黄色シルト 塗化粒含む 小さいブロックで輪廻色、雨灰色、
黄褐色シルトが混
2 雨天褐色シルト 1側とは逆同じ やや砂質の灰褐色シルト含む

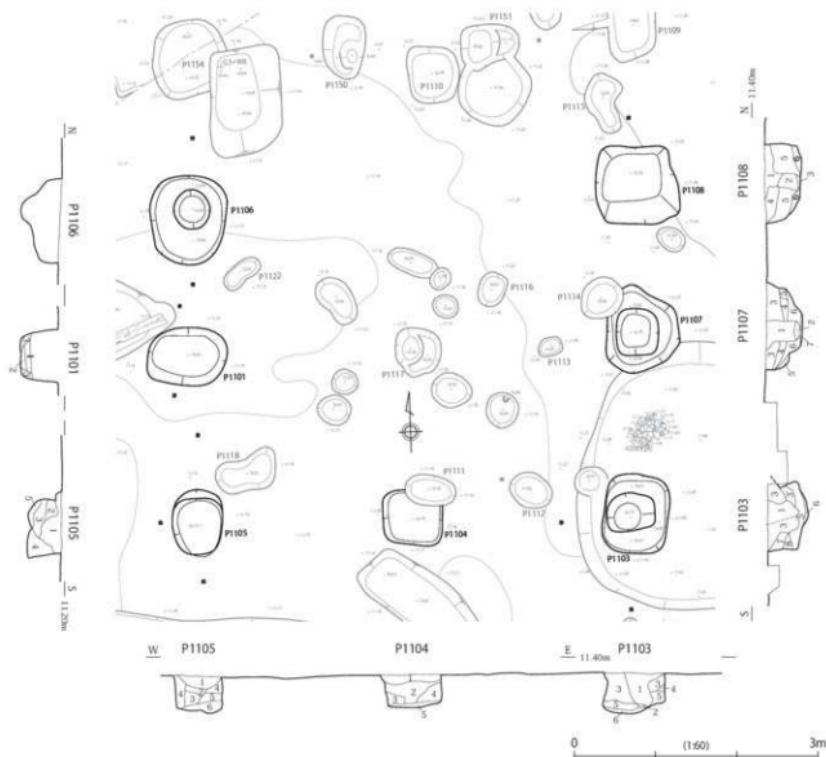
<P2026>

- 1 露原褐色シルト 褐褐色シルトと露原色シルトがブロック状に混じる。上のほうは小さいややく、下の方は5cm大が下の方は5cm大のブロックも含る。粒六穴
 - 2 露原灰褐色シルト 泥炭化土、少筋の褐褐色シルトとブロッケる。腐の力
 - 3 黄褐褐色シルト 褐褐色シルトと露原色シルトがブロック状に混じる。吸水取り?
 - 4 露原褐色シルト 褐褐色シルトと露原色シルトがブロック状に混じる。堆積土?
 - 5 露原灰褐色シルト

<P2030>

- 1 鮎褐色シルト
2 鮎褐色色シルト+鯖褐色シルト+灰色シルトがブロック状に混
3 鮎褐色シルト 鮎褐色シルト+鯖褐色シルトがブロック状に混

第20图 1区 SB109 平面图、断面图 (S=1/60)



<P1101>

1. 純白色シルト
2. 純白色シルト
3. 純白色シルト 剥り方?
4. 純白色シルト 剥り方? 壁面ブロック入る
5. 純白色シルト 地上壁 純白色土?
6. 純白色シルト 壁面は剥り方?

<P1105東西>

1. 純白色シルト
2. 純白色シルト
3. 純白色シルト 剥き取り?
4. 純白色シルト 剥り方? 壁面ブロック入る
5. 純白色シルト 地上壁 純白色土?
6. 純白色シルト ほぼ他(の壁)

<P1104>

1. 純白色シルト
2. 純白色シルト 2~3cm大変黄色シルトブロック層
3. 純白色シルト 3cm大変色シルトブロック, 純白色シルト
ブロック層
4. 純白色シルト
5. 純白色シルト 灰色シルトと純白色シルトが細かいブロック
かつ壁間に堆積

<P1103東西>

1. 純白色シルト
2. 純白色シルト 黄褐色シルトブロック層
3. 純白色シルト 2~3cm大変黄色シルトブロックの層
4. 純白色シルト
5. 純白色シルト 剥り方?
6. 純白色シルト 剥り方?
7. 純白色シルト 剥離土?
8. 純白色シルト
9. 純白色シルト 壁面は剥り方?

<P1103南北>

1. 純白色シルト
2. 純白色シルト
3. 純白色シルト 剥き取り方?
4. 純白色シルト 1cm大変黄色シルトブロック入る 固化物入る 剥り方?
5. 純白色シルト 1cm大変色シルト 剥り方?
6. 純白色シルト 剥り方?
7. 純白色シルト 剥離土?
8. 純白色シルト
9. 純白色シルト 壁面は剥り方?

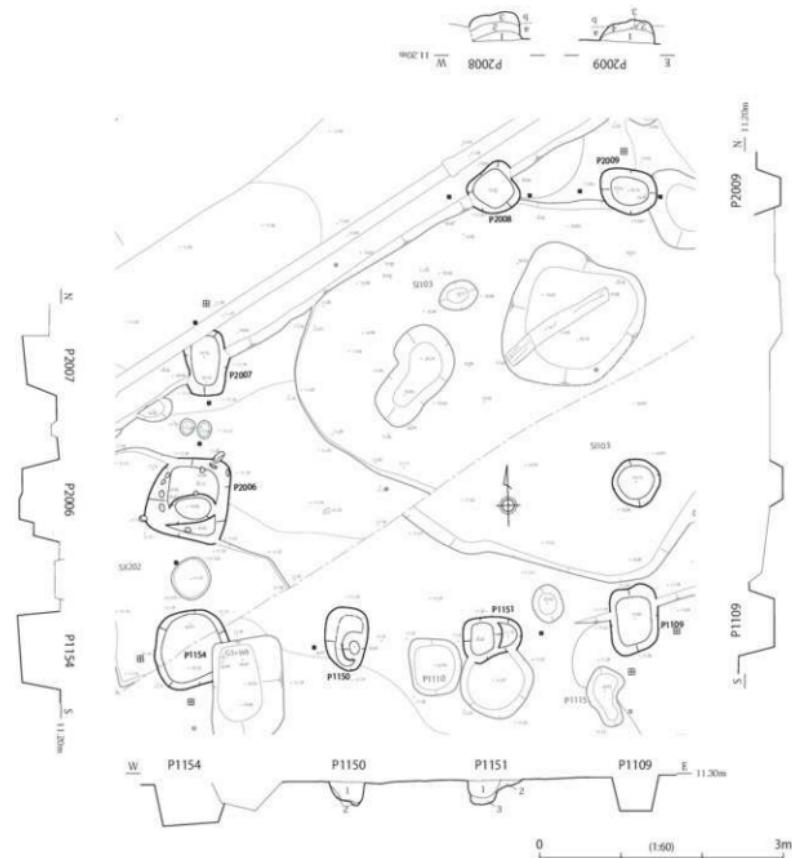
<P1107>

1. 純白色シルト 剥り方
2. 純白色シルト 剥り方
3. 純白色シルト - 剥き取り方?
4. 純白色シルト 1cm大変色シルトブロック入る 固化物入る 剥り方?
5. 純白色シルト 1cm大変色シルト 剥り方?
6. 純白色シルト 剥り方?
7. 純白色シルト 剥離土?
8. 純白色シルト 壁面は剥り方?
9. 純白色シルト 剥き取り方?
10. 純白色シルト 剥離土?

<P1108>

1. 純白色シルト 壁穴 & 壁を取る
2. 純白色シルト 壁穴 & 壁を取る
3. 純白色シルト 壁穴 & 壁を取る
4. 純白色シルト 剥り方?
5. 純白色シルト 剥離土?
6. 純白色シルト 壁面が堅いため 剥り方?
7. 純白色シルト 壁面が堅いため 剥り方?
8. 純白色シルト 壁面が堅いため 剥り方?
9. 純白色シルト 壁面が堅いため 剥り方?
10. 純白色シルト 壁面が堅いため 剥り方?

第21図 2区SB201平面図、断面図 (S=1/60)



<P2007>

- 1 明灰灰褐色シルト やや粘質 小礫含む
- 2 明灰灰褐色シルト 灰褐色シルトに細粒シルト・少量含む
- 3 明灰灰褐色シルト 明灰灰褐色シルトに灰褐色シルト 小礫層に含む

<P2006>

- 1 暗灰灰褐色シルト 少量含む やや砂質
 - 2 暗灰灰褐色シルト 粘含む 灰褐色シルト少々壁プロック坑に入る
 - 3 明灰灰褐色シルト やや粘質
 - 4 暗灰灰褐色シルト
 - 5 暗灰灰褐色シルト やや砂質
 - 6 暗灰灰褐色シルト 砂質
 - 7 暗灰灰褐色シルト やや粘質 砂含む
- ※1,2層:洗き取り底か? 3~7層:擦り方?

<P2008>

- 1 暗灰灰褐色シルト やや粘質 少量の黄褐色シルトプロック含む
- 2 暗灰灰褐色シルト はびく質 粘?
- 3 黄褐色シルト 粘質 擦り方?
- 4 黄褐色灰褐色シルト 灰色シルトプロック極少層入る 擦り方

<P1150>

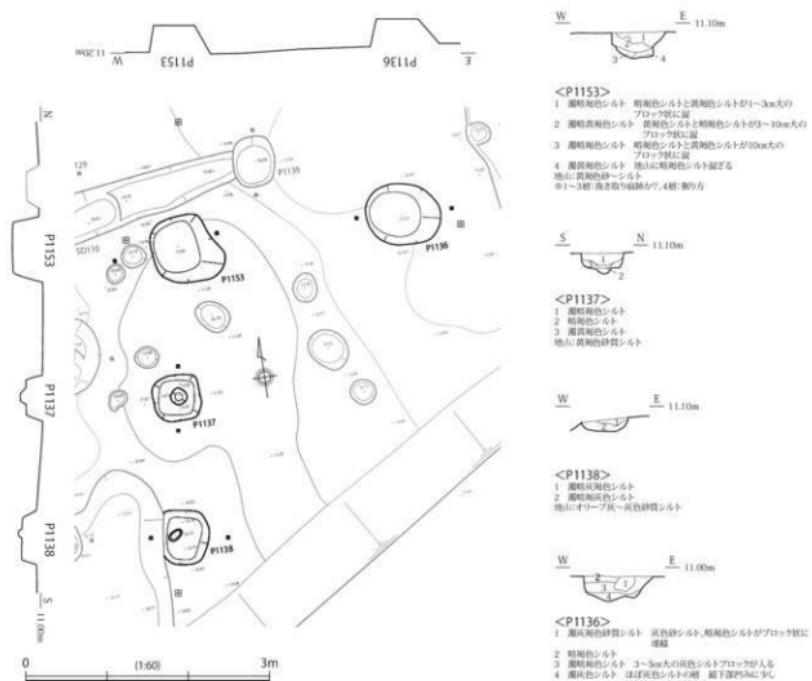
- 1 明灰灰褐色シルト
- 2 黄褐色灰褐色シルト 地山プロック坑に入る
- 地山:黄褐色シルト~砂

<P1151>

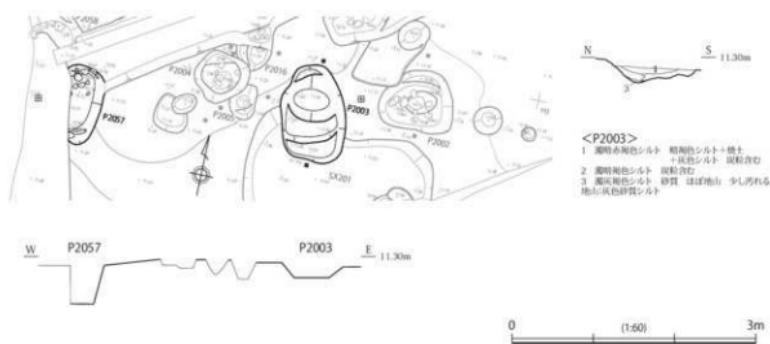
- 1 暗灰灰褐色シルト
- 2 黄褐色シルト 黄褐色シルト1~2cm大プロック入る
- 3 黄灰灰褐色シルト 黄褐色シルト1~2cm大プロック入る
- 地山:黄褐色シルト~砂

第22図 2区SB202平面図、断面図(S=1/60)

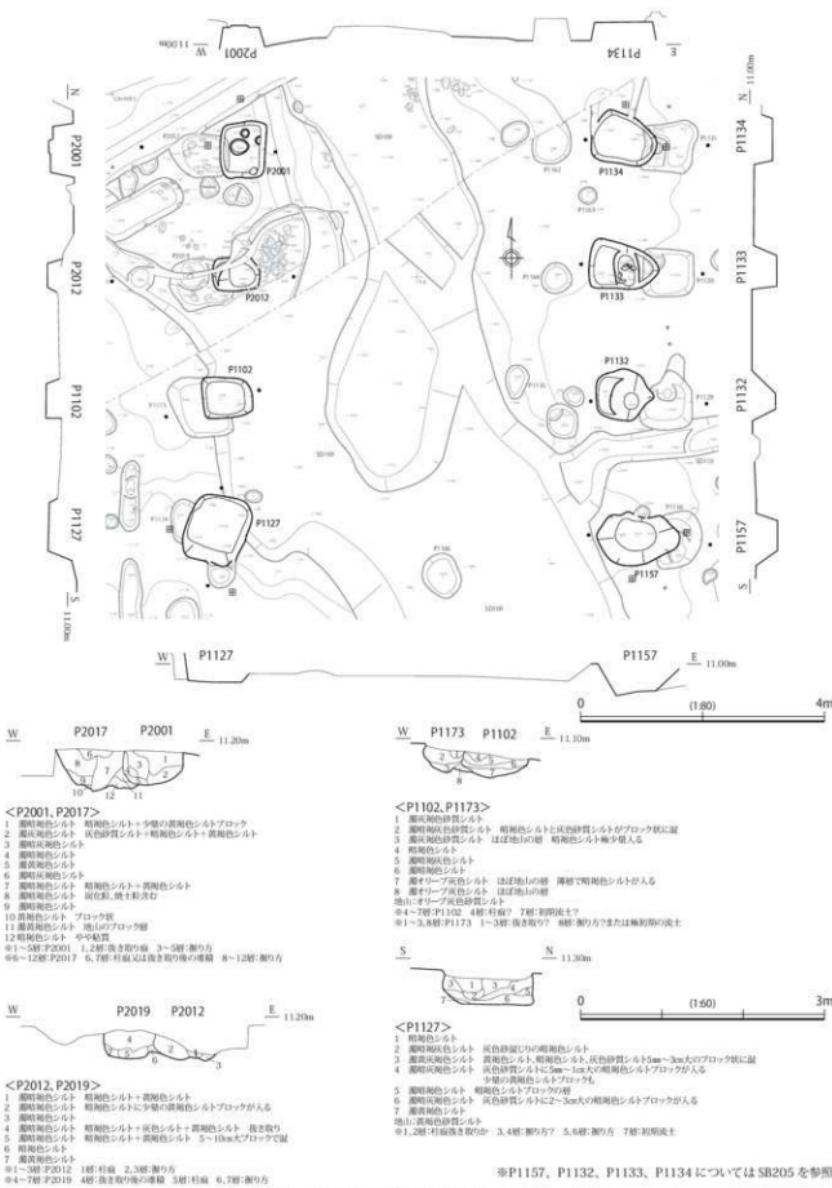
第2節 遺構と遺物



第23図 2区 SB203 平面図、断面図 (S=1/60)

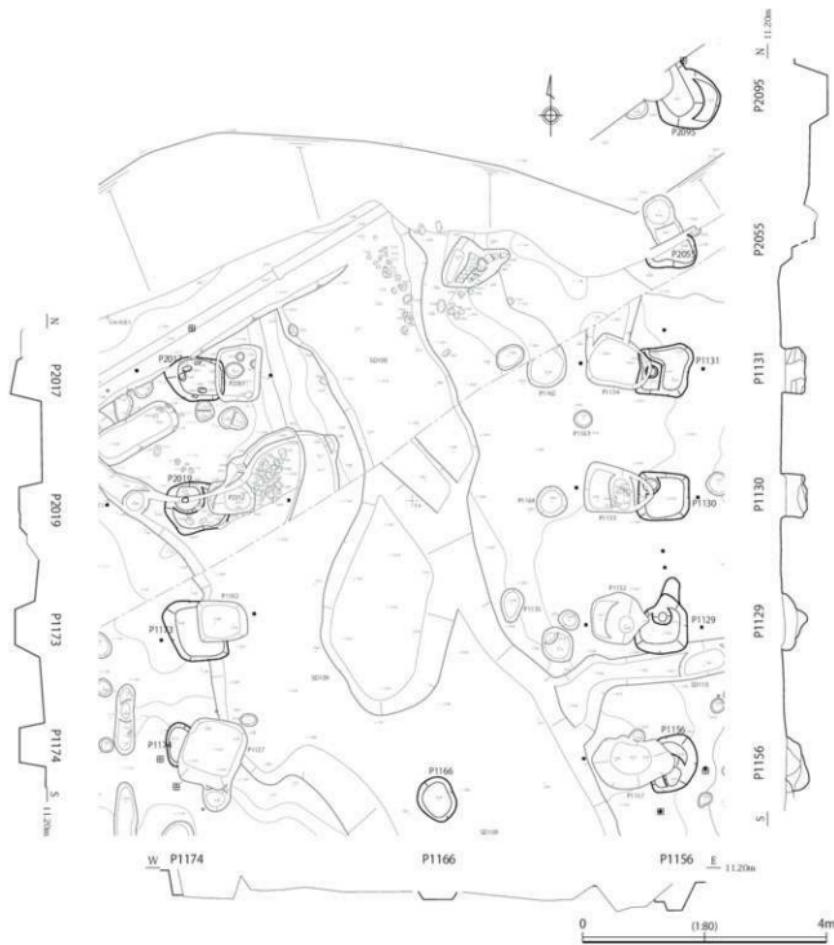


第24図 2区 SB210 平面図、断面図 (S=1/60)

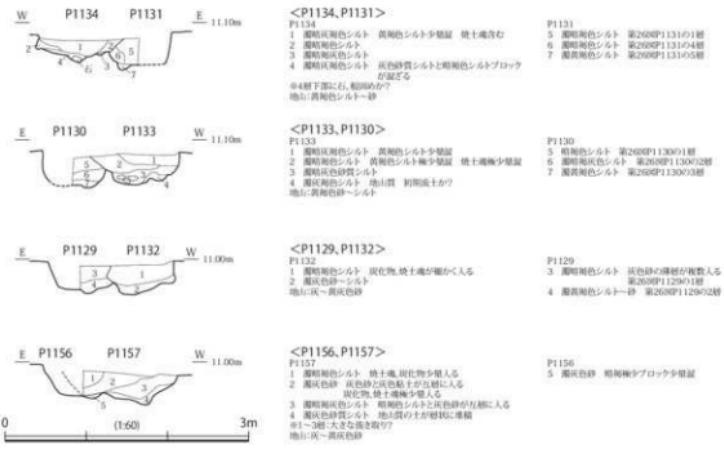


第25図 2区 SB204 平面図、断面図 (S=1/80, 1/60)

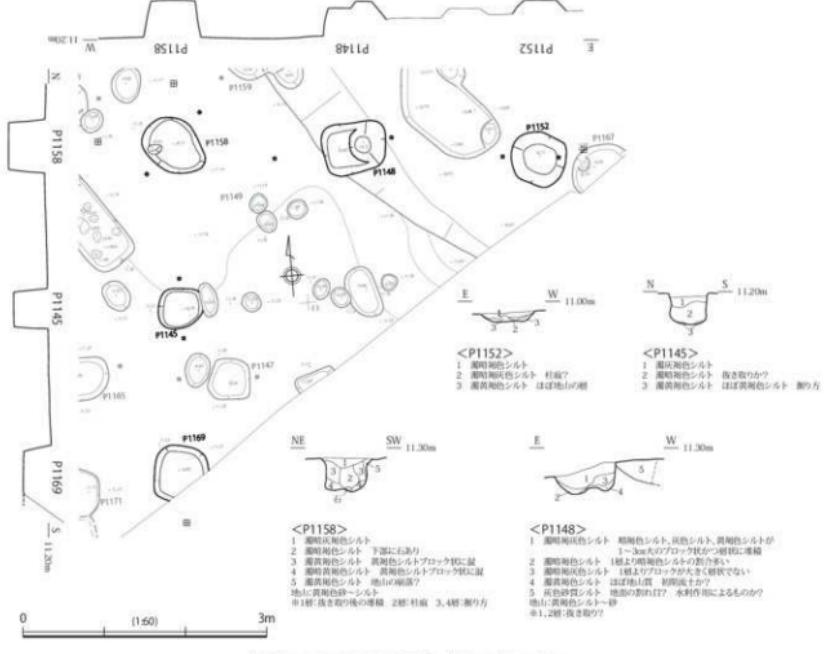
*P1157、P1132、P1133、P1134についてはSB205を参照

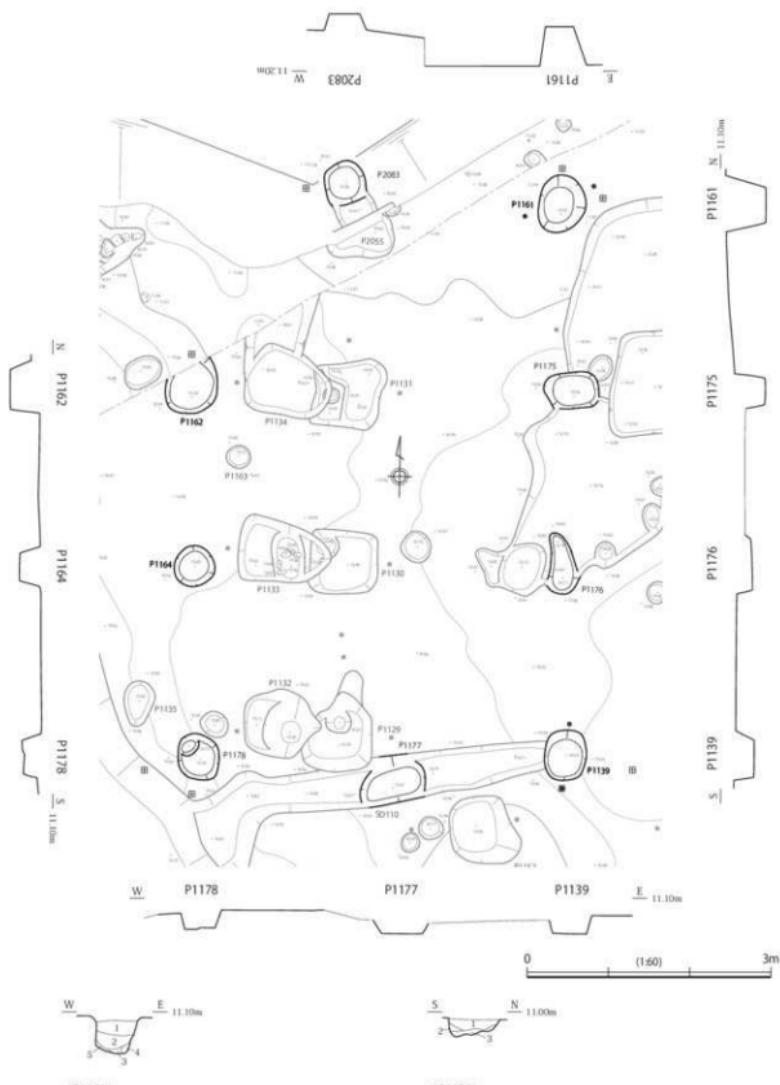


第26図 2区 SB205 平面図、断面図 (S=1/80, 1/60)



第27図 2区 SB205 程穴断面図 (S=1/60)





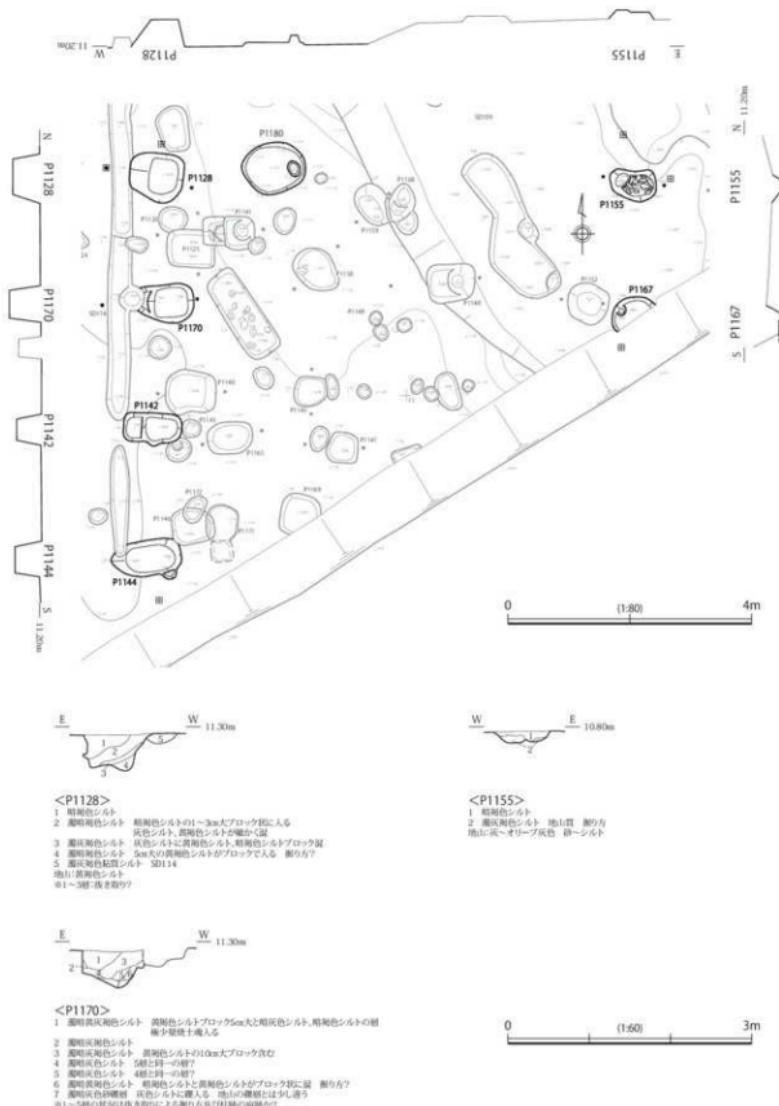
<P1161>

- 縦横褐色シルト
- 縦横褐色シルト
- 縦横褐色シルト
- 縦横褐色シルト
- 縦横褐色シルト (注) 褐褐色シルトブロックの組
①、2列・さき引の後の隙縫 3列・柱縫 4、5列・割り

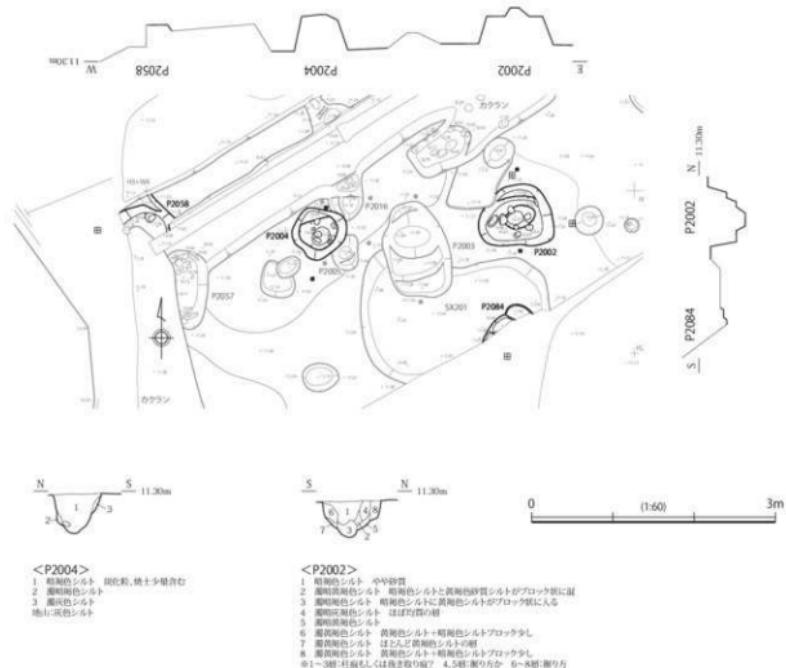
<P1139>

- 縦横褐色シルト
- 縦横褐色シルト 3m大の褐褐色シルトブロック入る
- 縦横褐色シルト 地山ブロック主体の越 利用底か?
- 地山 褐褐色シルト

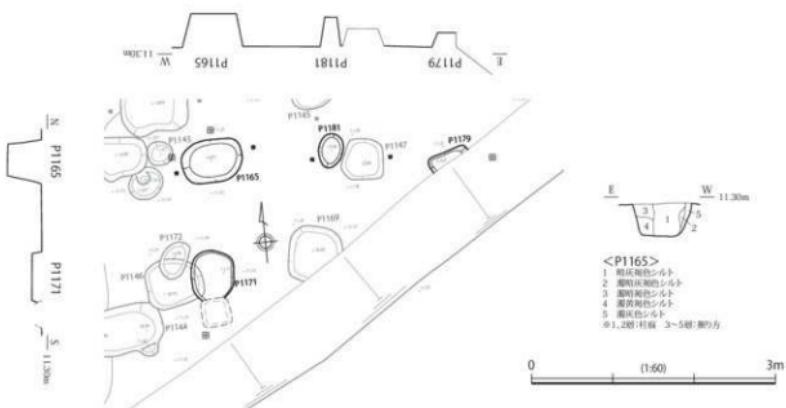
第29図 2区SB207平面図、断面図 (S=1/60)



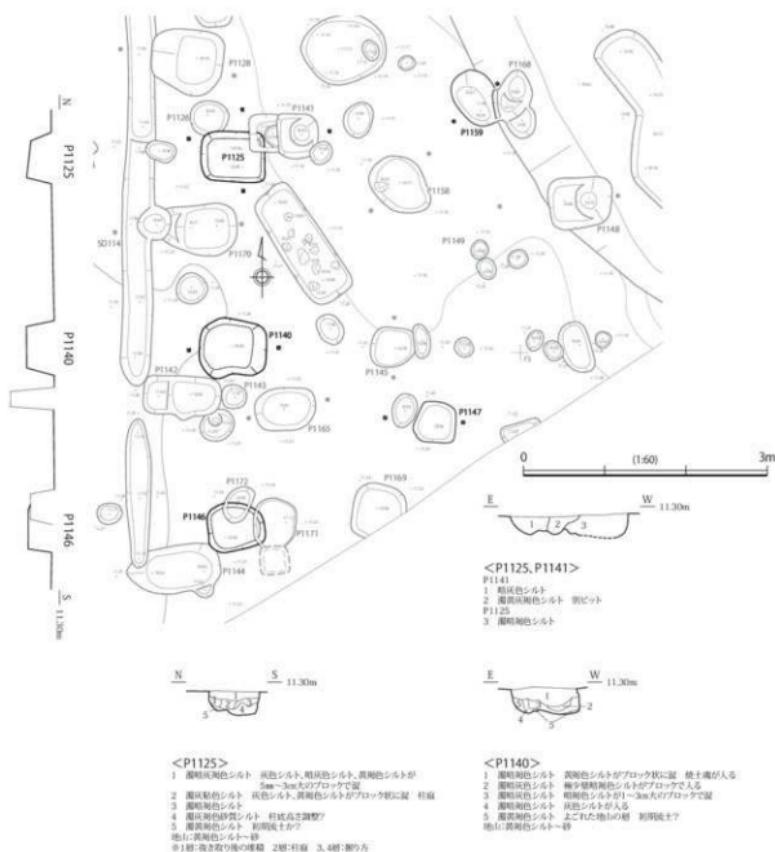
第30図 2区SB208平面図、断面図 (S=1/80, 1/60)



第31図 2区 SB209 平面図、断面図 (S=1/60)



第32図 2区 SB211 平面図、断面図 (S=1/60)

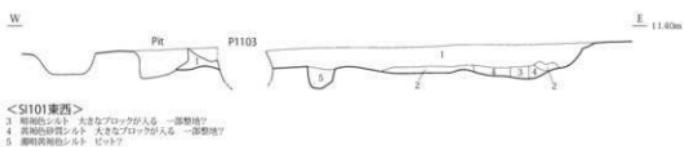
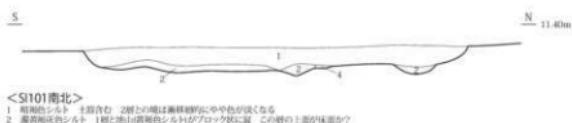
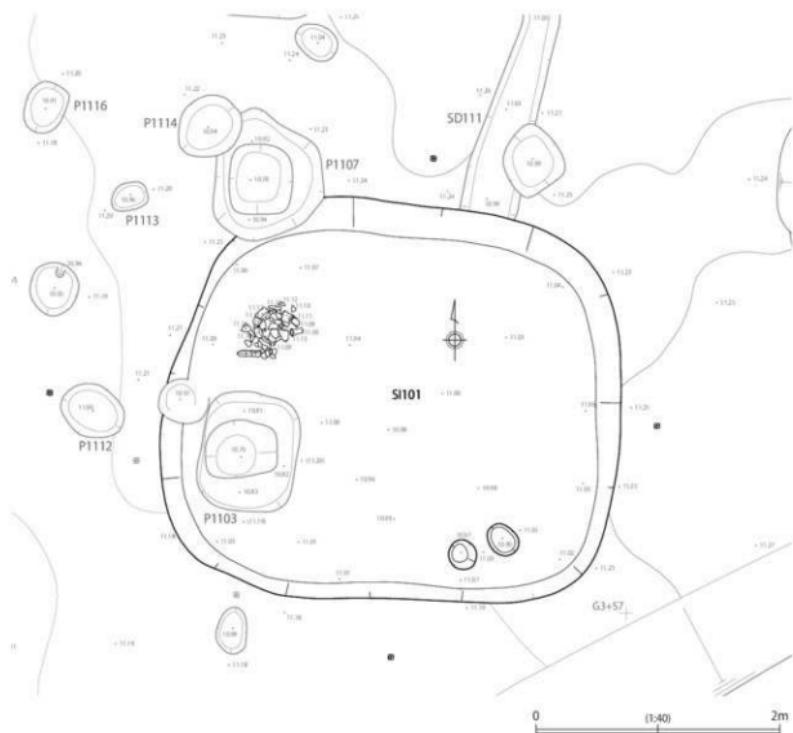


第33図 2区SB212平面図、断面図 (S=1/60)

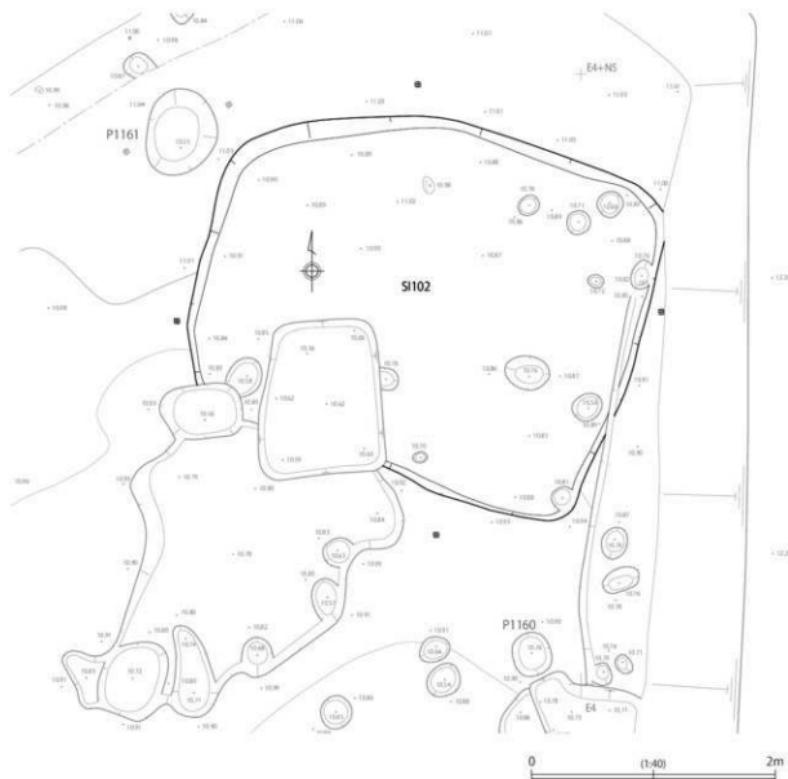


第34図 2区小穴断面図 (S=1/60)

第2節 造構と遺物

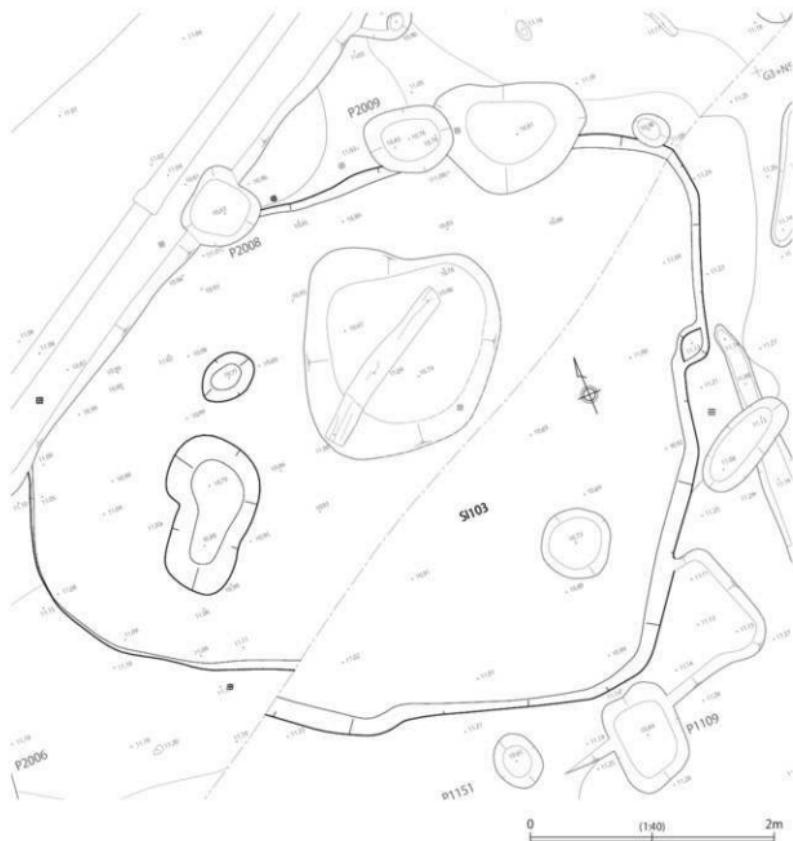


第35図 2区 SI101 平面図、断面図 (S=1/40)

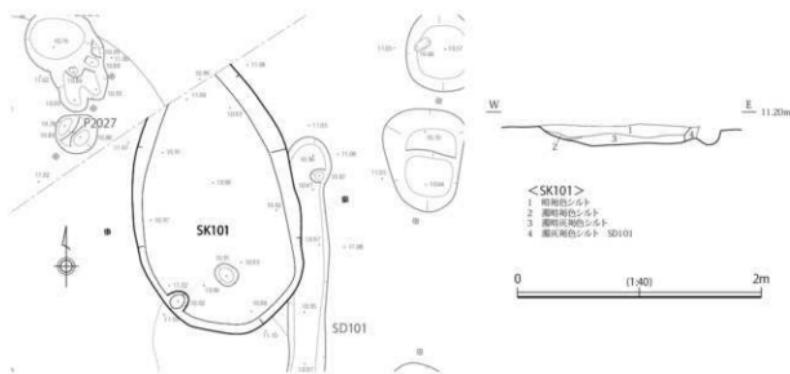


第36図 2区 SI102 平面図、断面図 (S=1/40)

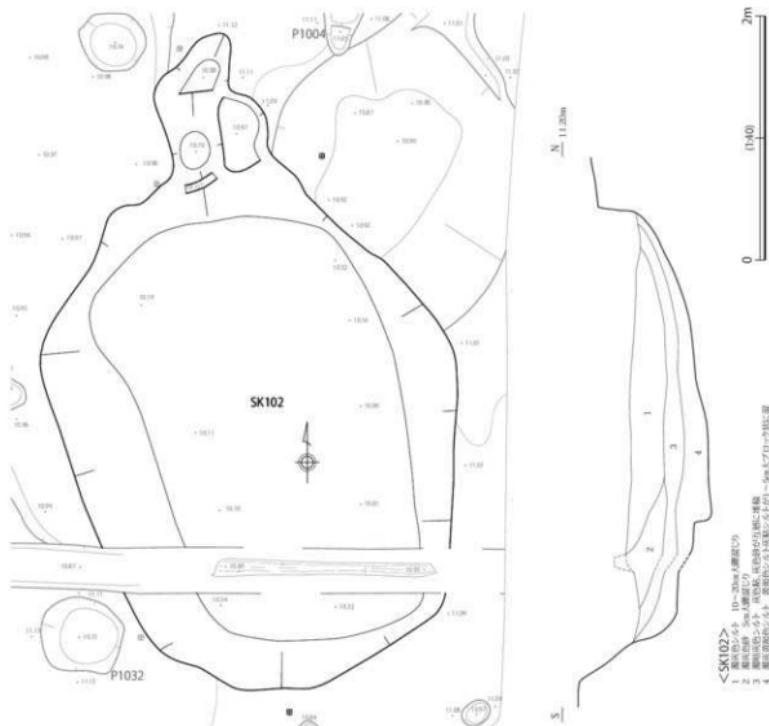
第2節 造 構 と 遺 物



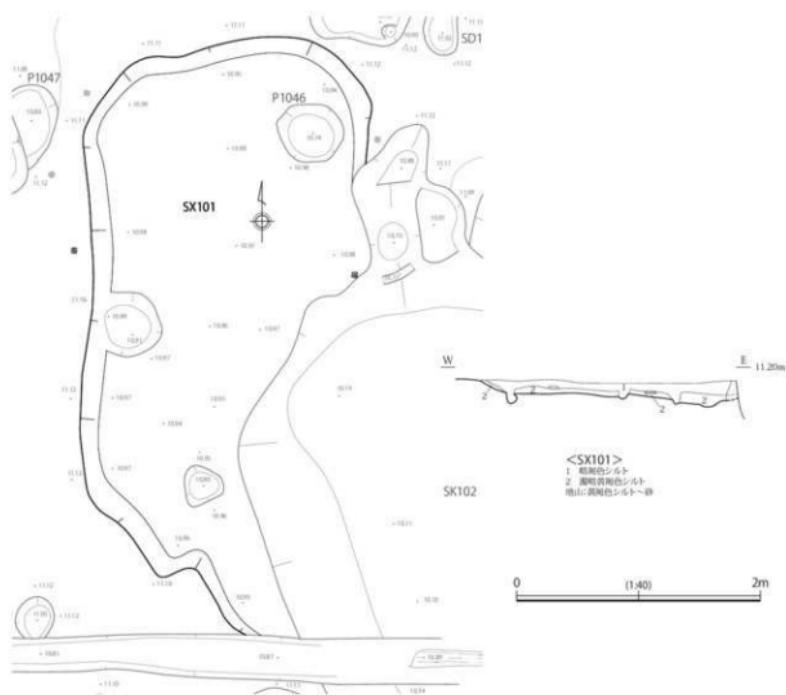
第37図 2区 SI103 平面図、断面図 (S=1/40)



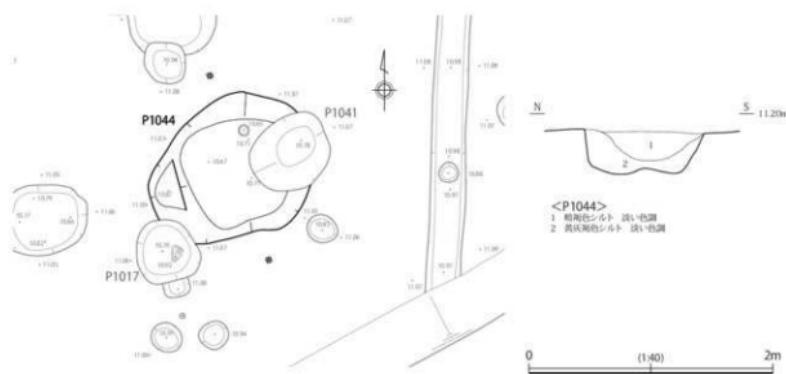
第38図 1区 SK101 平面図、断面図 (S=1/40)



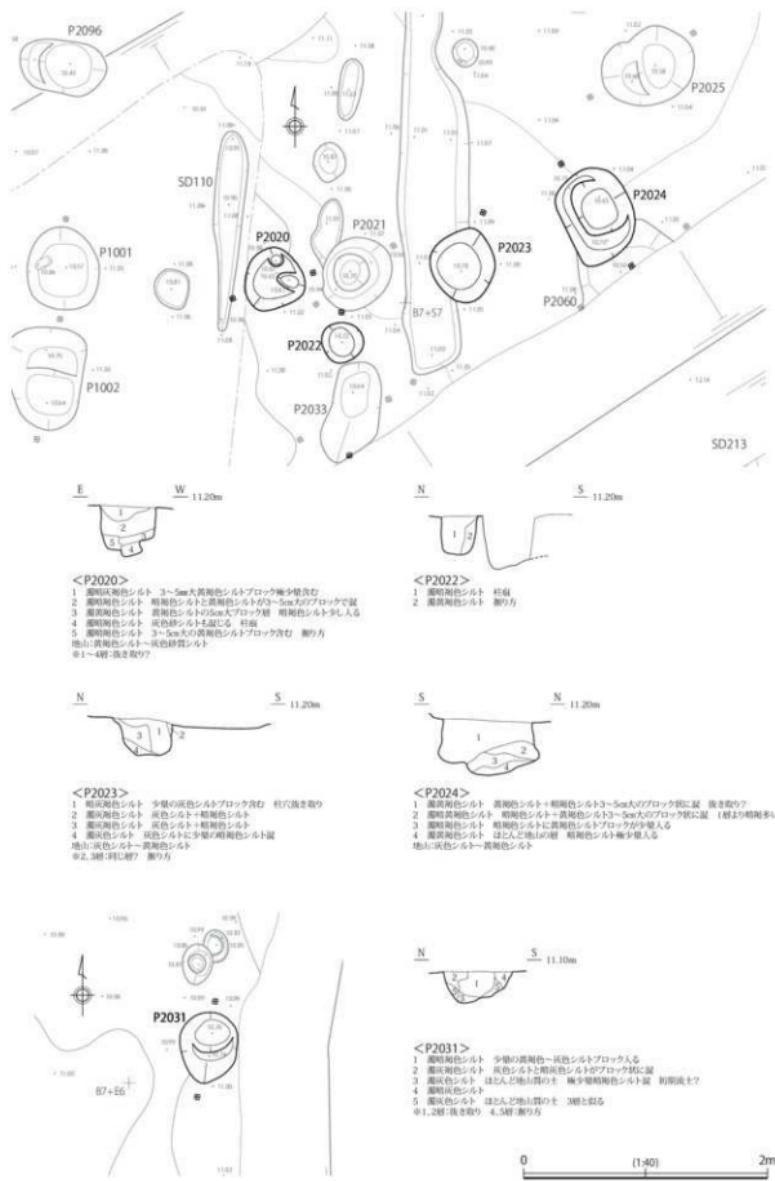
第39図 1区 SK102 平面図、断面図 (S=1/40)



第40図 1区 SX101 平面図、断面図 (S=1/40)

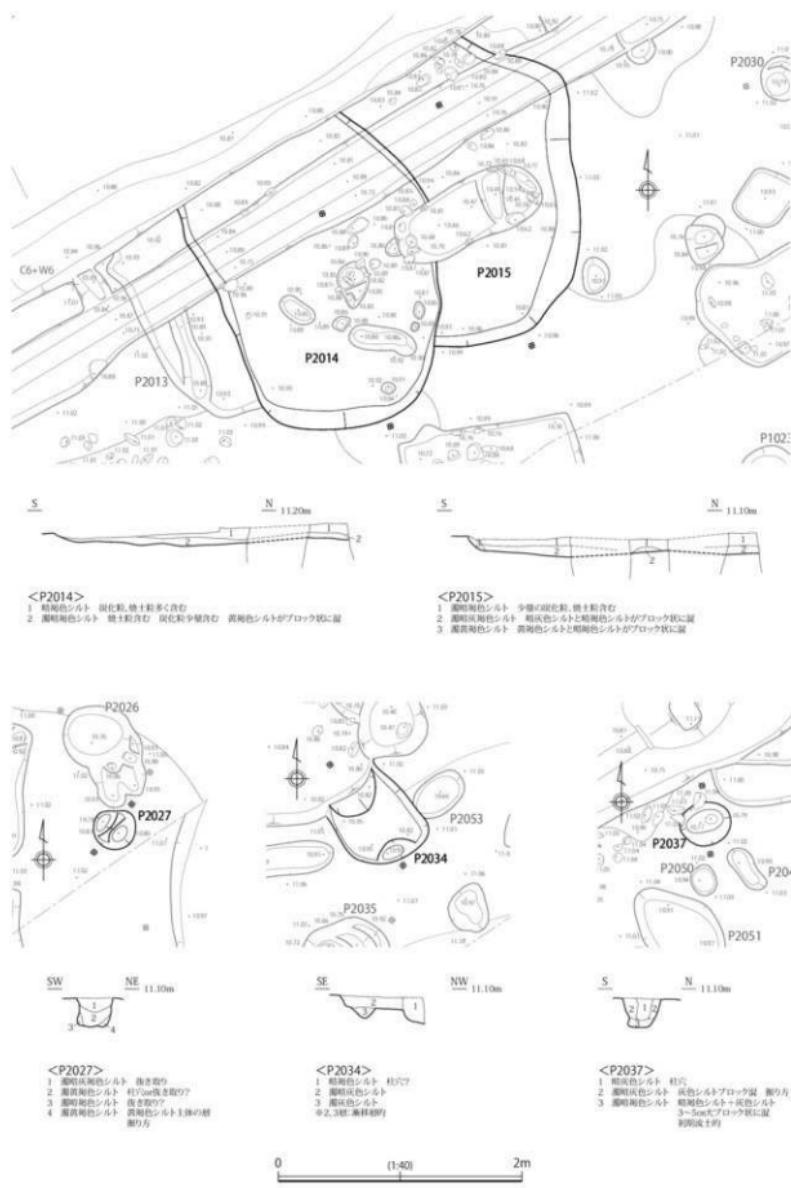


第41図 1区 P1044 平面図、断面図 (S=1/40)

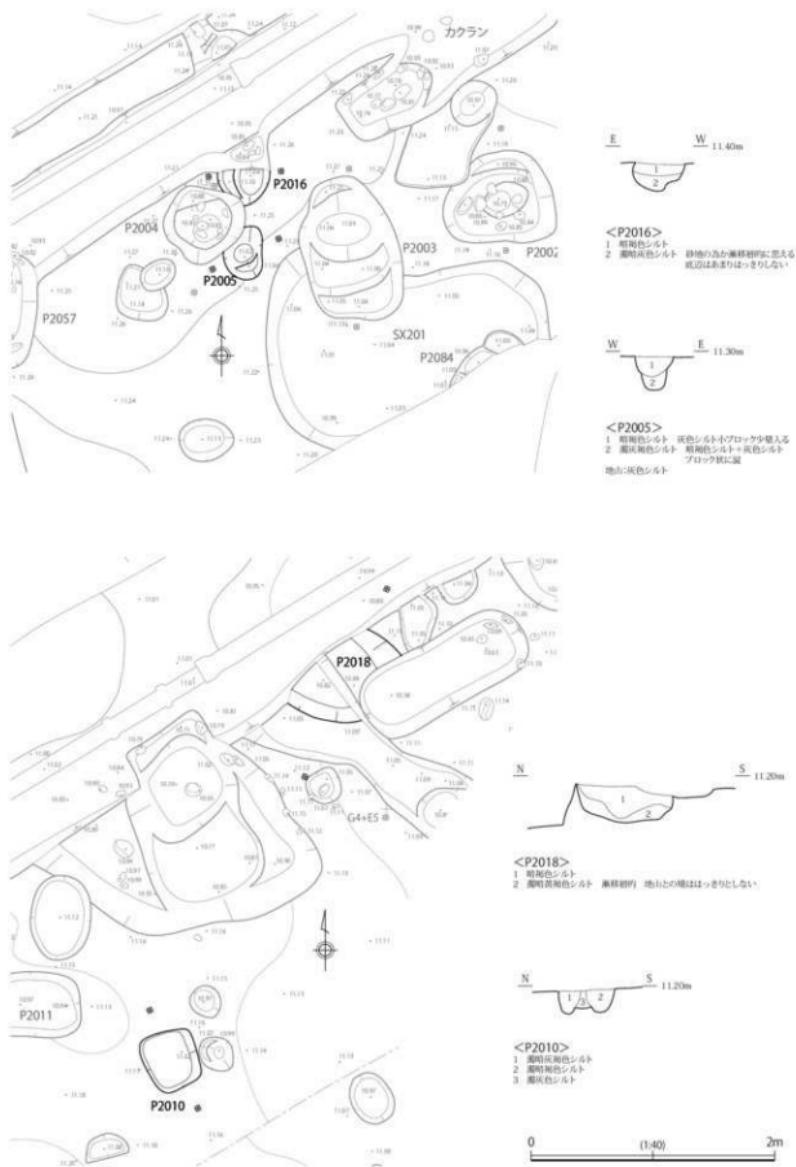


第42図 4区小穴平面図、断面図 (S=1/40)

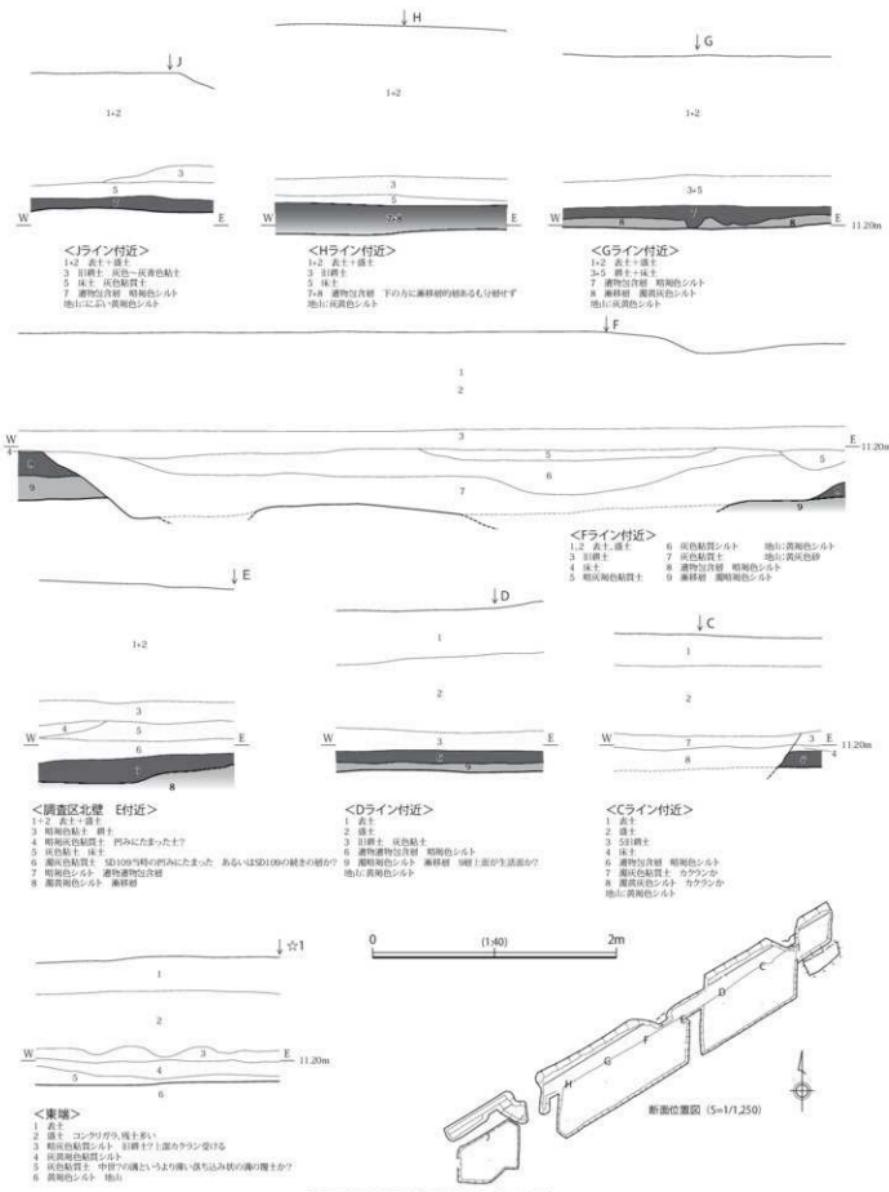
第2節 遺構と遺物



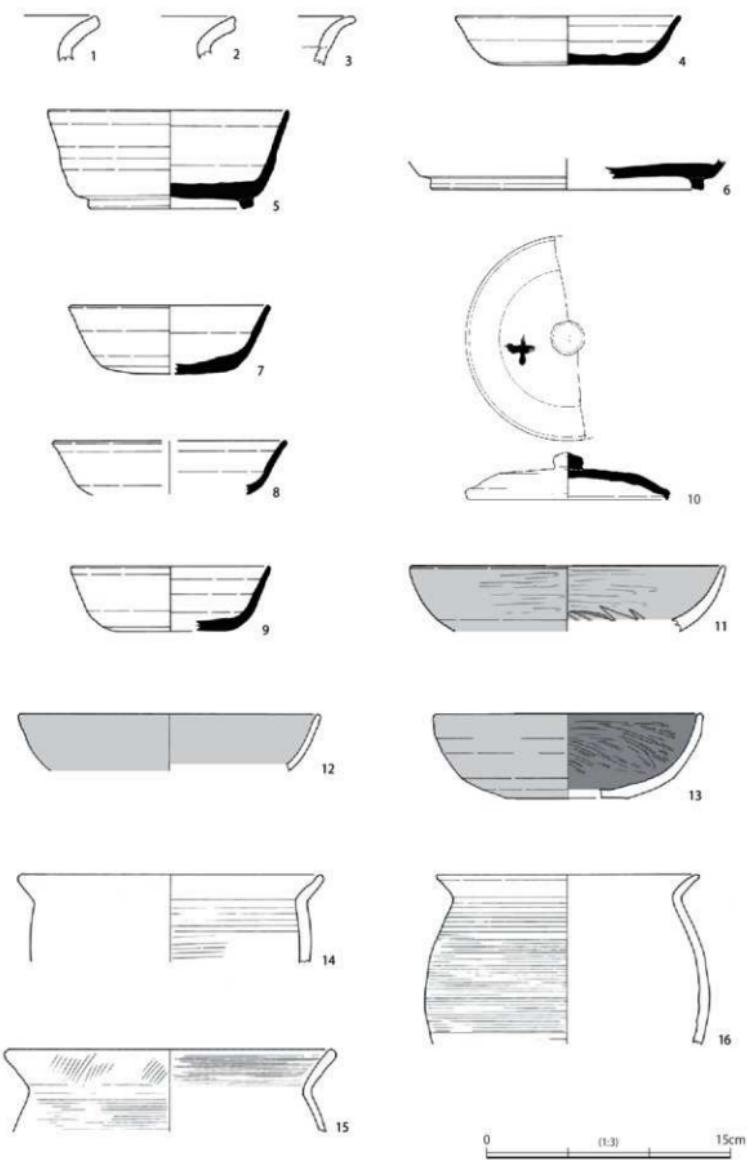
第43図 5区小穴平面図、断面図 (S=1/40)



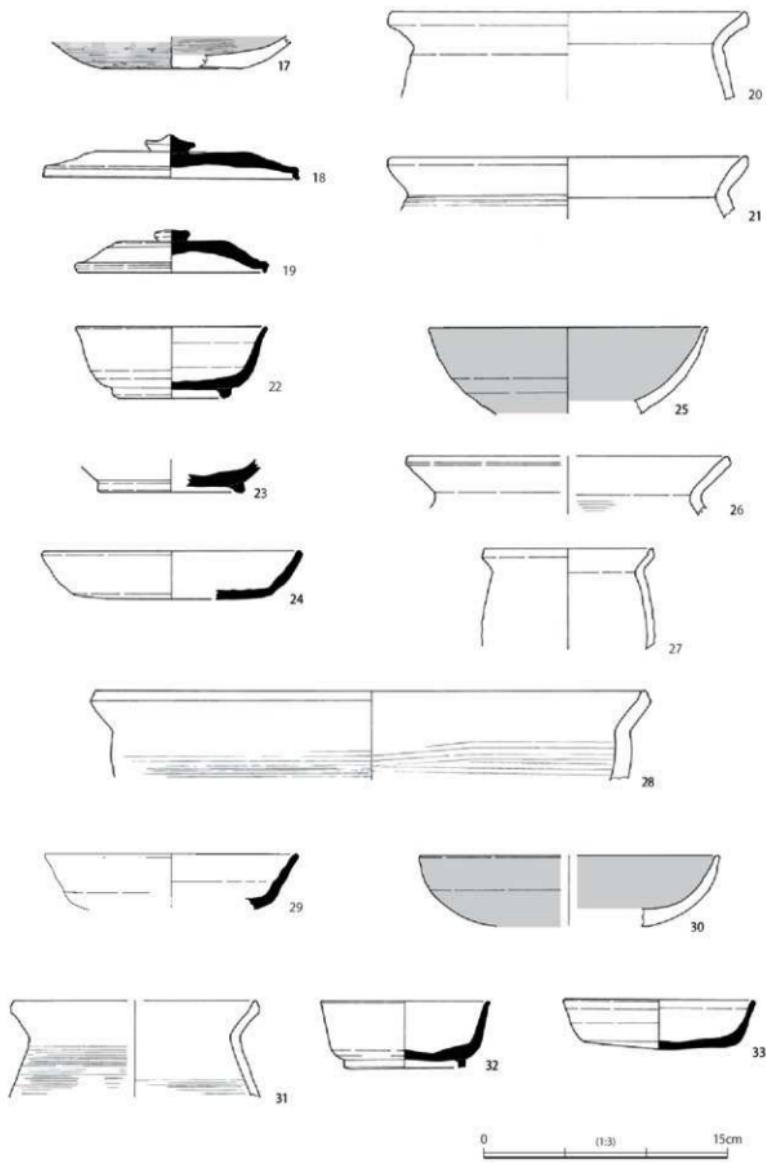
第 44 図 6 区小穴平面図、断面図 ($S=1/40$)



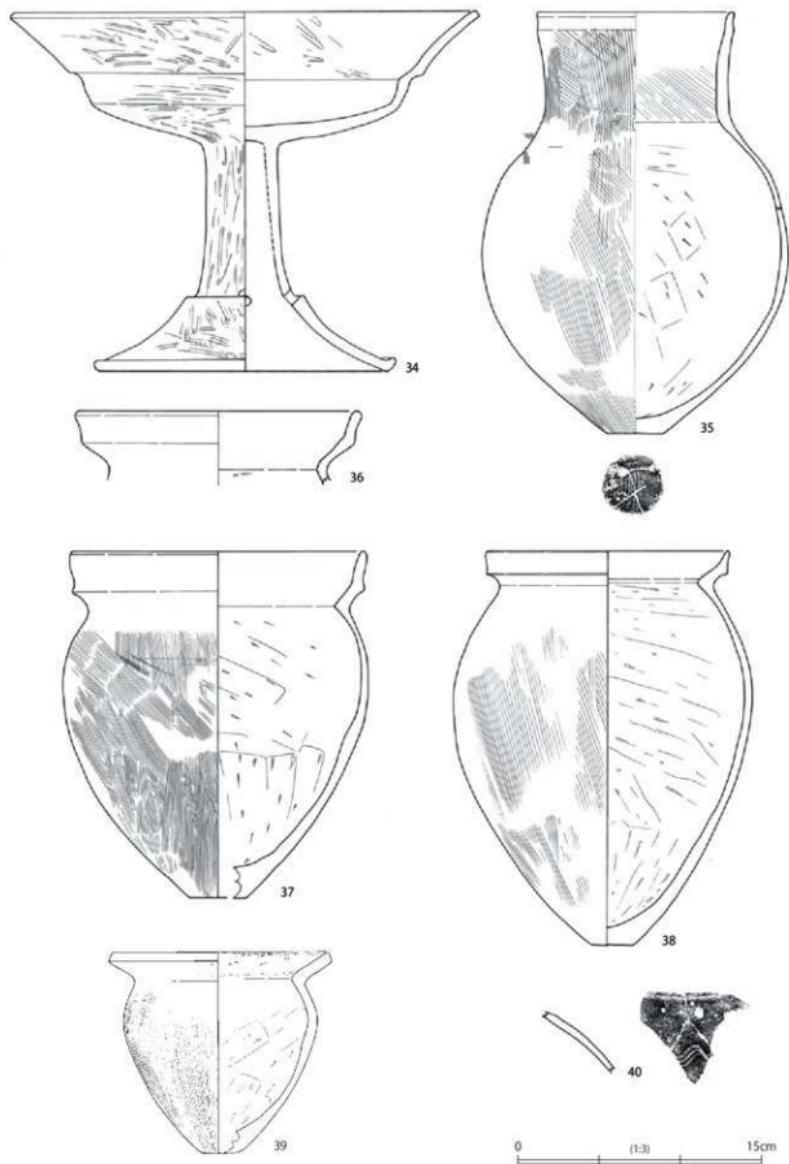
第45図 調査区土層断面図 (S=1/40)



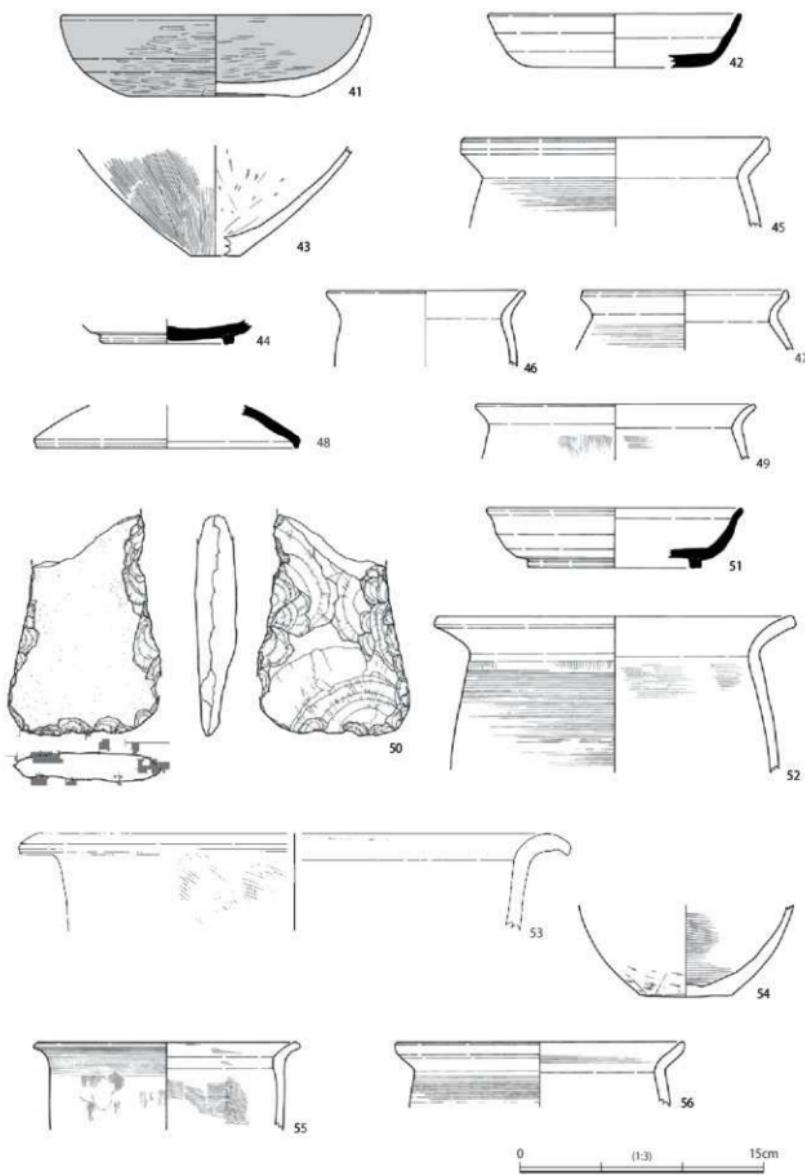
第46図 出土遺物（振立柱建物 S=1/3）



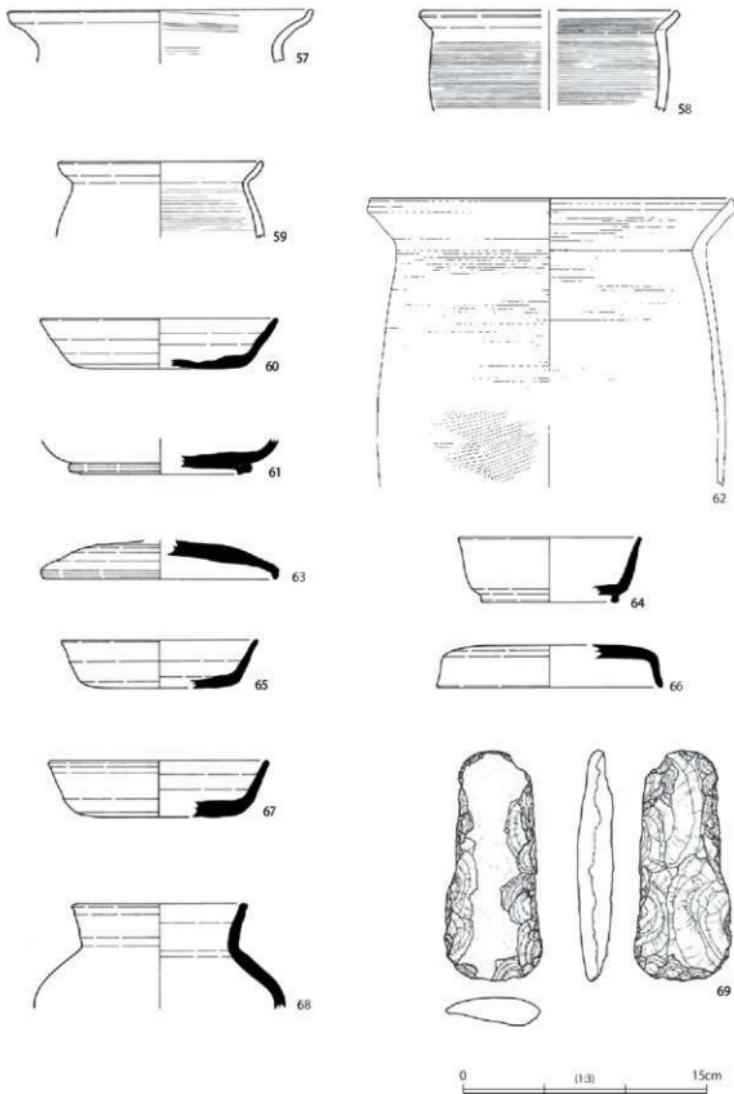
第47図 出土遺物2 (掘立柱建物 S=1/3)



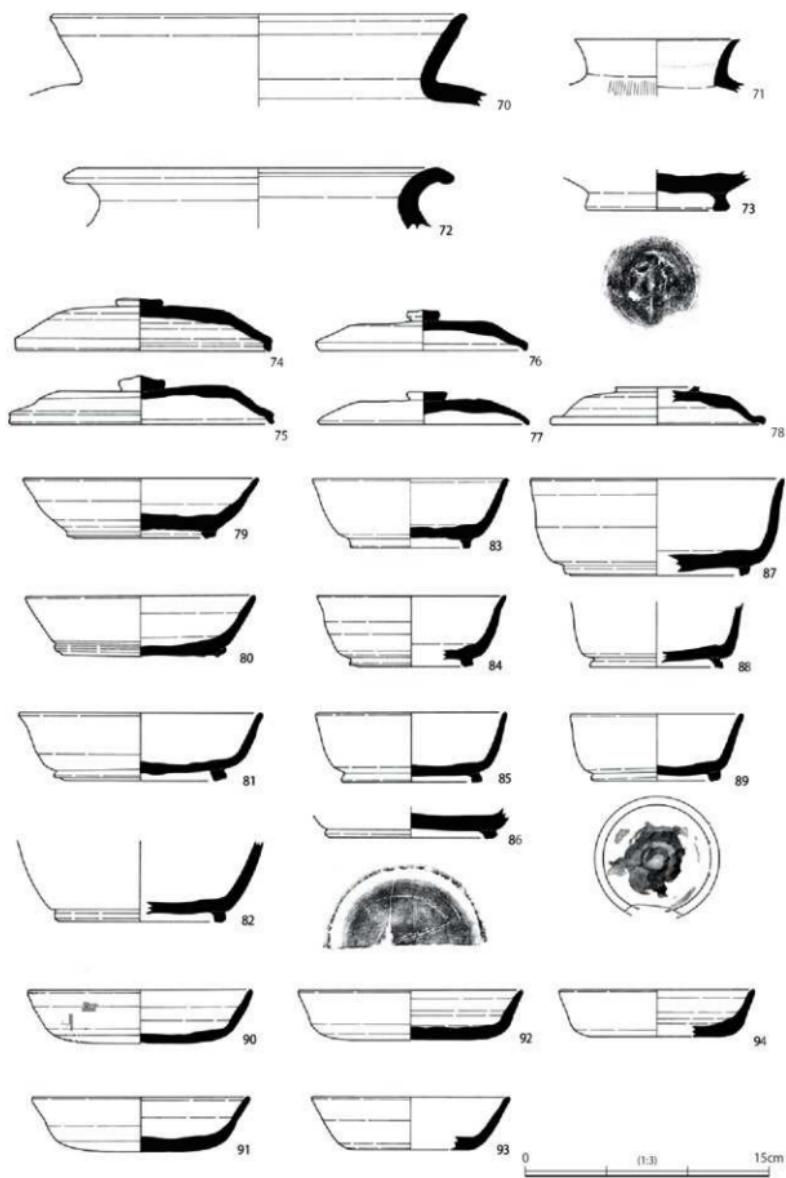
第48図 出土遺物3 (竪穴建物 S=1/3)



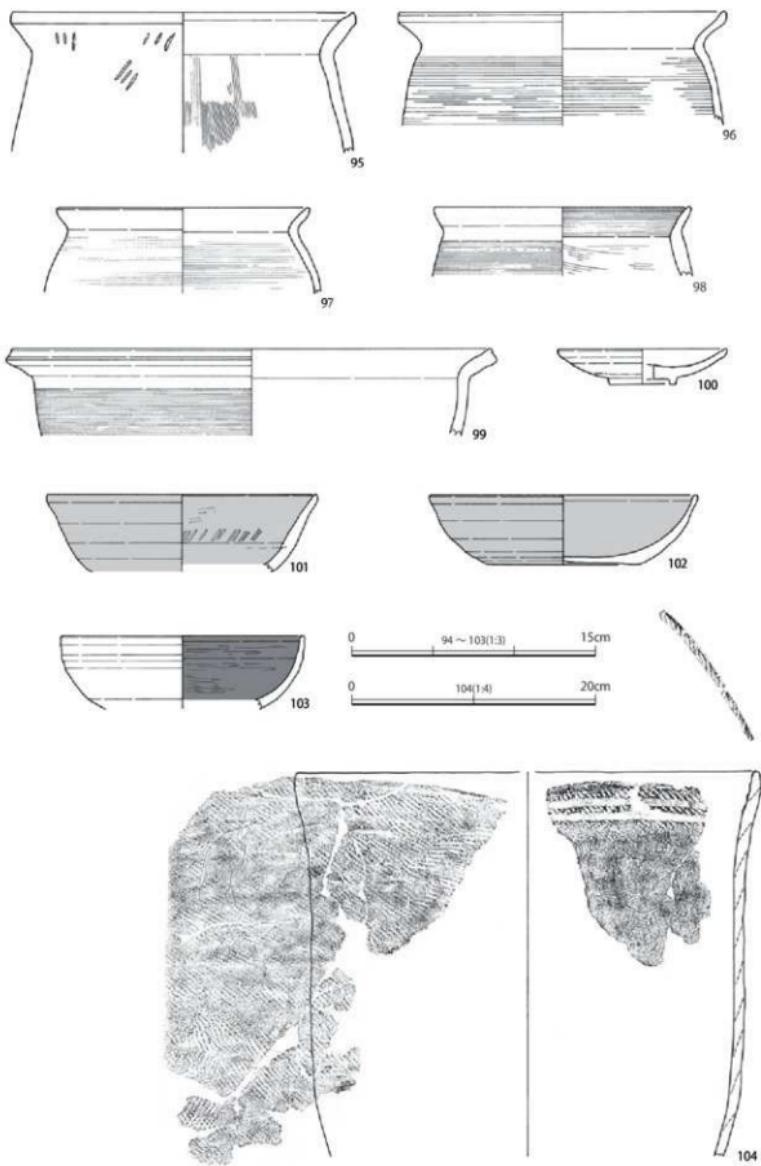
第49図 出土遺物4 (堅穴建物ほか S=1/3)



第50図 出土遺物5 (溝はか S=1/3)



第 51 図 出土遺物 6 (包含層 S=1/3)



第52図 出土遺物7（包含層 S=1/3, 1/4）

第2節 造構と造物

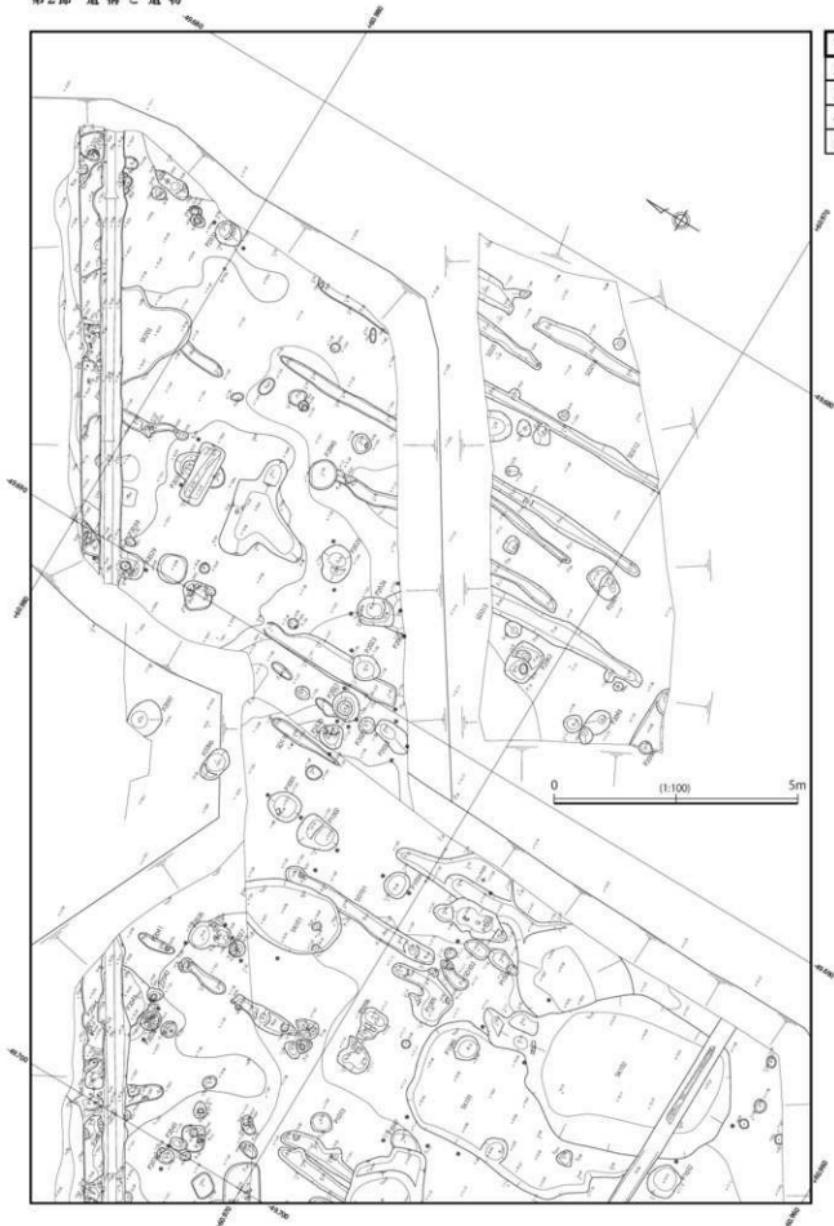
番号	実測番号	区名	地質	設標	設標	上耕 cm	底質 cm	深高 cm	色調(5)	地土	調査(内)	調査(外)	既存李	備考		
1	D02	114	SD101 SD101	土被層	葉	(28)	にじみ・黄緑	相手差	緑紺赤	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片			
2	D02	114	SD101 SD102	土被層	葉	(26)	にじみ・黄緑	にじみ・黄緑	緑紺赤	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片			
3	D03	114	SD102 P1029	土被層	葉	(30)	にじみ・黄緑	にじみ・黄緑	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片			
4	D11	114	SD102 P1029	樹被層	無台坪	136	9.6	30	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
5	D13	114	SD104 P1048	樹被層	有台坪	145	10.1	61	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
6	D21	114	SD104 P1048	樹被層	有台盤	168	(19)	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
7	D89	114	SD106 P1065	樹被層	無台坪	122	8.4	42	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
8	D92	114	SD107 P1075	樹被層	坪	(142)	(33)	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
9	D95	114	SD107 P1075	樹被層	無台坪	121	6.8	40	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
10	原29	114	SD107 P1075	樹被層	坂	122	29	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
11	D09	114	SD107 P1075	土被層	磚	19.2	(4.05)	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
12	D55	254	SD201 P1104	土被層	磚	18.25	(3.5)	明赤緑	明赤緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	内外両赤緑	
13	D06	254	SD201 P1104	土被層	磚	162	7.4	5.2	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	内外両赤緑
14	E07	254	SD201 P1108	土被層	葉	18.4	(5.4)	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
15	D05	254	SD201 P2001	土被層	葉	197	5.0	5.0	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
16	D04	254	SD201 P1105	土被層	葉	15.85	(10.4)	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
17	D83	684	SD201 P1105	土被層	磚	8.4	(2.0)	にじみ・黄緑	にじみ・黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	内外両赤緑	
18	D39	254	P1128 P1132	樹被層	蓋	13.5	246	青灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
19	E78	684	P2001	樹被層	蓋	11.5	2.6	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
20	D40	254	SD201 P2001	土被層	葉	217	(5.5)	にじみ・黄緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
21	D41	254	SD204 P1133	土被層	葉	21.7	(3.8)	青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
22	D80	684	SD205 P1133	樹被層	有台坪	116	7.2	4.4	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
23	D85	684	SD205 P2017	樹被層	有台坪	90	(2.0)	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
24	D90	254	P1130 P2001	樹被層	無台坪	15.5	12.5	(2.95)	青灰	青灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
25	D64	254	SD205 P2001	土被層	磚	16.9	(5.3)	明赤緑	明赤緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
26	D77	684	P2055	土被層	葉	(196)	(3.6)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	内外両一面スズ材	
27	D81	254	SD205 P2001	土被層	葉	102	(6.25)	青	青	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
28	D42	254	SD205 P1133	土被層	葉	32.8	(3.4)	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
29	D48	254	P1138	樹被層	有台坪	15.4	(3.1)	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
30	D45	254	SD207 P1139	土被層	磚	(18.25)	(4.2)	明赤緑	明赤緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
31	D46	254	P1142 P1143	土被層	葉	(14.65)	(5.9)	にじみ・黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
32	D47	254	SD208 P1143	樹被層	有台坪	10.25	7.45	4.2	青灰	青灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
33	D82	684	SD210 P2002	樹被層	無台坪	11.6	9.6	3.1	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
34	D29	254	SD210 P2002	樹被層	高台	26.5	17.7	22.5	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
35	D30	254	SD210 P2002	樹被層	葉	12.0	3.5	26.0	にじみ・青緑	にじみ・青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
36	D32	254	SD210 P2002	樹被層	葉	17.0	(4.6)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
37	D27	254	SD210 P2002	樹被層	葉	17.8	3.5	21.4	田麻緑	青	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
38	D30	254	SD210 P2002	樹被層	葉	14.6	2.6	24.2	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
39	D28	254	SD210 P2002	樹被層	葉	13.2	2.4	12.3	にじみ・青緑	黒緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
40	D31	254	SD210 P2002	樹被層	葉	18.8	10.0	5.0	明赤緑	明赤緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
41	D66	254	SD212	土被層	磚	15.0	3.3	3.3	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
42	D63	254	SD212	樹被層	無台坪	15.4	11.6	3.3	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
43	D63	254	SD212	樹被層	葉	3.0	(6.6)	にじみ・黄緑	青白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
44	D3	114	SK101	樹被層	有台坪	8.2	(1.45)	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
45	D1	114	SK101	土被層	葉	18.6	(3.5)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
46	D2	114	SK101	土被層	葉	12.0	(4.7)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
47	D25	114	SK101	土被層	葉	12.4	(3.7)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
48	D24	114	SK102	樹被層	葉	16.0	(2.6)	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
49	D4	114	SK102	土被層	葉	17.0	(3.45)	にじみ・青緑	青緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
50	G3	114	SK102	樹被層	高台	2.6	1.6	1.6	灰白	灰白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	重量(341.87)g
51	D7	114	SK103	樹被層	有台坪	15.5	10.7	3.7	灰	灰	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
52	D66	114	SK103	土被層	新葉	22.0	4.0	4.0	浅黄緑	浅黄緑	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片
53	D88	114	SK103	土被層	葉	34.0	(6.0)	にじみ・青緑	青白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
54	D79	684	SK103	土被層	葉	5.8	(3.7)	にじみ・青	青	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
55	D97	114	SK103	土被層	葉	(15.8)	5.45	にじみ・青緑	青白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	
56	D9	114	SK103	土被層	葉	17.6	(4.0)	にじみ・青緑	青白	相手差	相手差	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	ロコリナ ハナ	13畠小片	

第2表 土器観察表

番号	実測番号	区名	地塊	標高	L-H (cm)	底質 (cm)	深さ (cm)	色調 (NBS)	地主	調整 (内)	測定 (外)	既存李	備考		
57	108	214	P1111	土砂源	栗	18.25	(1.25)	緑	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ ハサク	ロフロナダ	L38L1/12		
58	107	214	P2053	土砂源	栗	15.65	(6.2)	緑・黄 緑・白	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ	L38L1/12	内面一部土付着	
59	1074	214	P2014	土砂源	栗	12.4	(4.7)	浅黄緑	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ	L38L3/12	内面一部土付着	
60	1073	214	P2014	粗砂源	有台坪	14.4	10.0	3.1	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ ハサク	ロフロナダ ハサク	L38L2/12	外側に重ね焼き岩	
61	1066	土砂源	P2065	粗砂源	有台坪	11.2	(2.2)	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
62	1076	204	P2055	土砂源	長谷裏	22.0	(17.7)	緑	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12		
63	105	114	S2103	粗砂源	栗	14.2	(2.4)	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L3/12		
64	1063	214	S2109	粗砂源	有台坪	11.0	8.0	4.0	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
65	1061	214	S2109	粗砂源	栗	12.0	9.0	3.0	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
66	1062	214	S2109	粗砂源	栗	13.6	12.0	2.6	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	内面・外側	
67	1060	土砂源	S2124	粗砂源	無台坪	13.4	10.2	3.5	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L3/12		
68	1057	214	S2121	粗砂源	油	10.8	(6.5)	灰白	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L1/12	外側に自然軸	
69	612	614	S2109	白鶴石井	最高段	14.16	6.04	2.21	灰	粗砂少 最大埋入 含砂粘土			重量20.7kg		
70	1068	214	白鶴石井	粗砂源	栗	25.2	(5.7)	灰	田	粗少 鹿砂少 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L1/12		
71	1072	214	白鶴石井	粗砂源	栗	10.1	(3.0)	灰	田	粗少 鹿砂少 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L1/12	内面一部黒軸(オーリー軸)・頭部へ流入 あり	
72	1019	114	白合軸	粗砂源	栗	22.2	(3.7)	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L1/12		
73	1064	214	白合軸	粗砂源	栗	8.6	(2.5)	灰	田	粗少 鹿砂少 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	ヘア記号あり	
74	1065	114	白合軸	粗砂源	栗	15.61	3.2	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	つば△29.12/12 外側直角丸	
75	1014	114	白合軸	粗砂源	栗	16.1	3.0	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	つま△28.12/12 外側に薄灰自然軸	
76	1062	214	白ニードル	粗砂源	栗	12.6	2.5	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	つま△28.12	
77	1021	214	白合軸	粗砂源	栗	12.6	2.0	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	つま△24.1 外側斜面右	
78	1066	214	白合軸	粗砂源	栗	13.0	2.3	灰	田	粗砂少 鹿砂少 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	つま△5.1	
79	1094	土砂源	S2109	粗砂源	有台坪	14.41	8.0	3.7	灰白	灰	白色の粗砂少々多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
80	1015	114	白合軸	粗砂源	有台坪	13.0	10.3	3.8	灰白	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
81	1060	214	白ニードル	粗砂源	有台坪	14.8	9.2	4.2	灰	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
82	1077	214	白合軸	粗砂源	有台坪	10.0	(5.0)	灰黒緑	鹿	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良	
83	1099	214	白合軸	粗砂源	有台坪	11.8	(7.2)	(4.3)	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良
84	1062	214	白食管	粗砂源	有台坪	13.5	6.0	4.25	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
85	1061	214	白食管	粗砂源	有台坪	11.5	8.3	4.3	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
86	1065	214	白ニードル	粗砂源	有台坪	10.0	(1.0)	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	ヘア記号あり	
87	1069	214	白食管	粗砂源	有台坪	15.3	10.3	6.0	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
88	1058	214	白食管	粗砂源	有台坪	8.0	(4.0)	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
89	1062	214	白合軸	粗砂源	有台坪	10.4	7.6	4.2	灰	田	粗少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良
90	1018	114	白合軸	粗砂源	栗	13.6	10.3	3.3	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
91	1017	114	白合軸	粗砂源	栗	13.2	10.2	3.4	灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良	
92	1066	504	白合軸	粗砂源	栗	(13.7)	(11.1)	3.1	灰	田	白色の粗砂	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成物質、底上ノ研磨?
93	1061	214	白合軸	粗砂源	栗	(12.1)	(9.0)	3.25	灰	田	白色的粗砂	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
94	1062	214	白合軸	粗砂源	栗	11.0	(10.2)	2.9	灰	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	
95	1069	214	白合軸	土砂源	栗	21.0	(8.7)	田・灰青	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良	
96	1070	214	白合軸	土砂源	栗	20.0	(7.0)	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	既成不良		
97	1068	114	白合軸	土砂源	栗	15.4	(5.0)	田・灰	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	内面一部化物付着	
98	1068	114	白合軸	土砂源	栗	(15.7)	4.25	田・灰	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	内面直付しに埋立、剥離している	
99	D106	214	白合軸	土砂源	栗	(29.4)	(5.4)	15.0・灰	田・灰	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12		
100	D57	214	白合軸	白組	栗	10.2	4.0	2.2	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	ロフロナダ モリナダ	ロフロナダ モリナダ	L38L2/12	栗子表面に、内面直付・美濃白等で複数箇所に 既成物質付着	
101	D16	214	白合軸	土砂源	栗	(16.6)	(4.75)	歩道	田	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	内面直付物 既成物質付着	
102	D90	504	白合軸	土砂源	栗	16.5	9.4	4.3	田・灰・青緑	田・灰・青緑 粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	内面直付物	
103	D64	214	白合軸	土砂源	栗	14.8	(4.5)	黑	田・灰・青緑	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	内里、内面はみどり。	
104	D49	214	白合軸	土砂源	栗	(37.4)	(31.6)	浅黄緑	鹿	粗砂少 鹿砂多 含砂粘土	モリナダ モリナダ	モリナダ モリナダ	L38L2/12	外側既成物質付着 内側既成物質付着 既成物質付着	

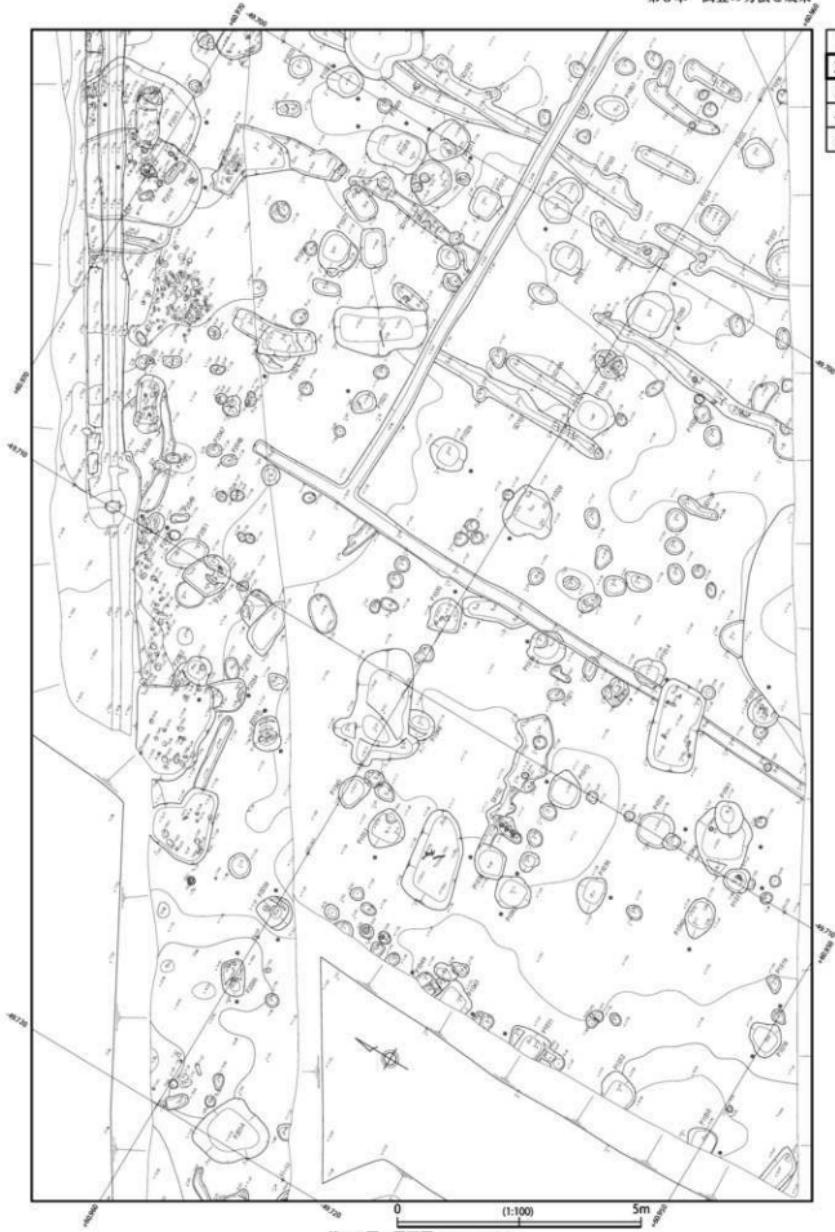
第3表 土器観察表2

1
2
3
4
5



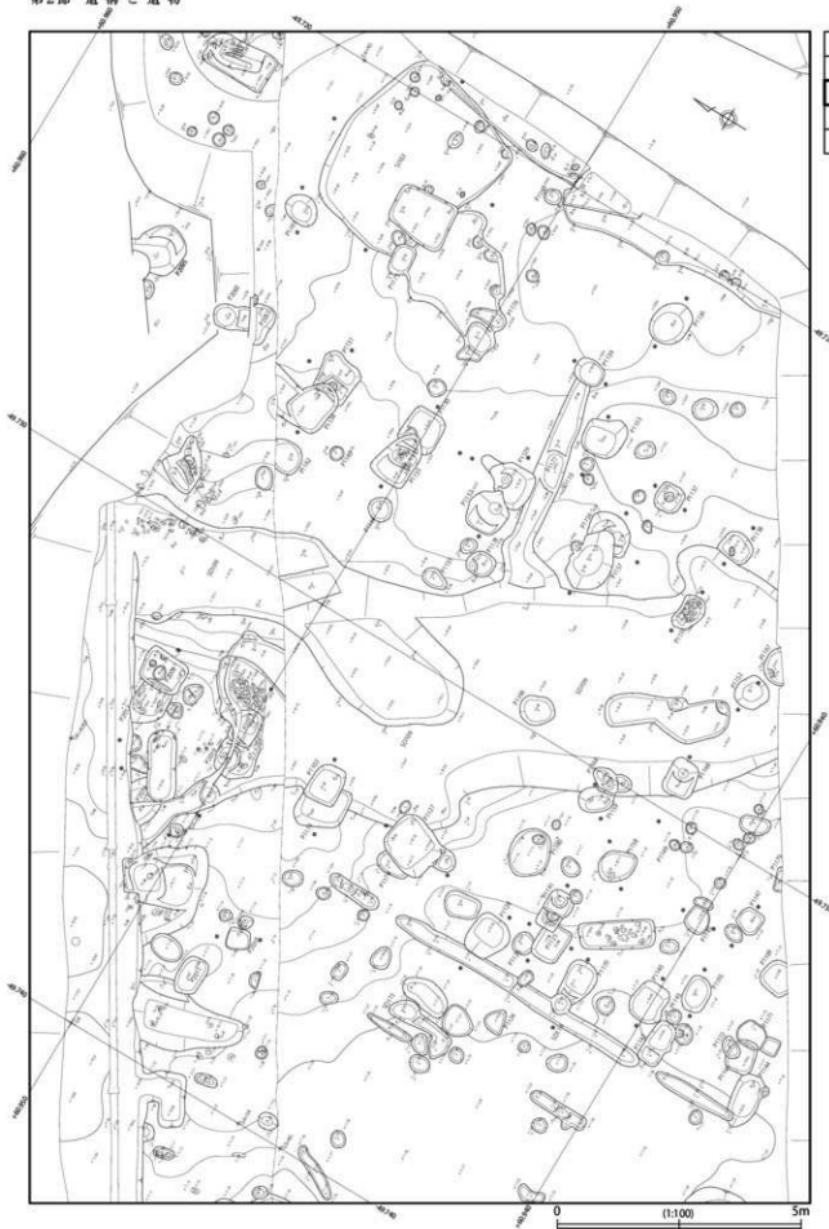
第53図 平面図 ($S=1/100$)

1
2
3
4
5



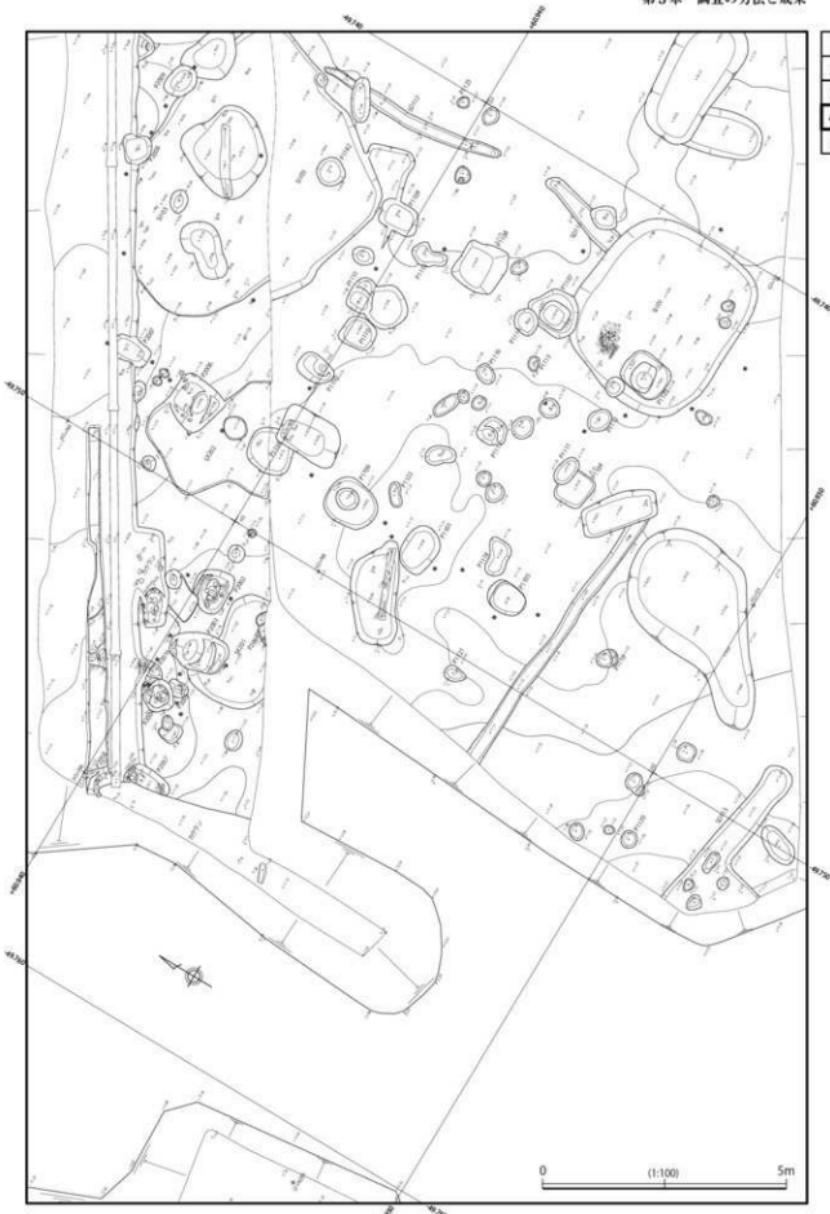
第 54 図 平面図 2 (S=1/100)

1
2
3
4
5



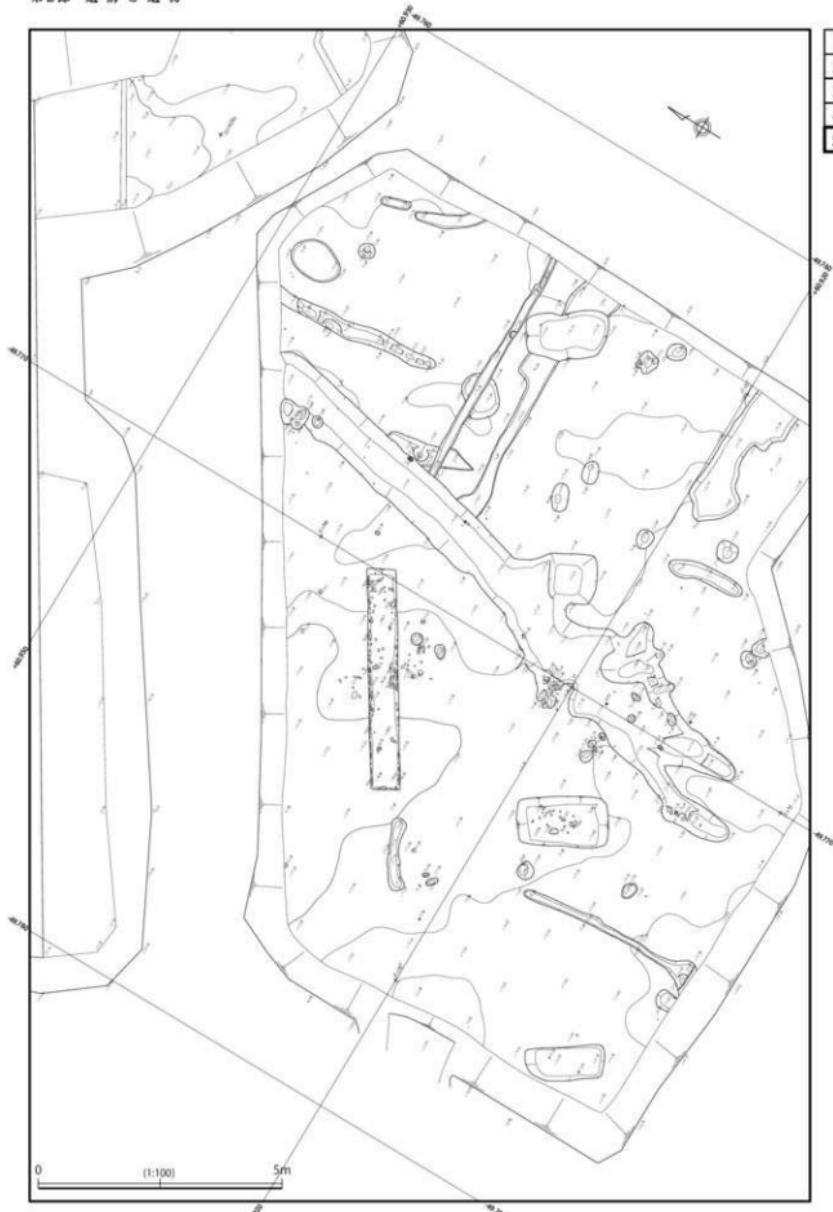
第55図 平面図3(S=1/100)

1
2
3
4
5



第56図 平面図4(S=1/100)

1
2
3
4
5



第57図 平面図5(S=1/100)

第4章 総括

調査では、弥生時代の竪穴建物、奈良・平安時代の竪穴建物や掘立柱建物、中世の井戸や溝を検出した。特に、奈良・平安時代の建物は平成20・21年度調査合計で竪穴建物を1棟、掘立柱建物を19棟確認した。中でも、掘立柱建物SB205は桁行11.2m(5間)以上×梁行7.8m(2間)と今回の調査で最も規模の大きい建物である。一辺約80cmの方形の柱穴掘り方からは奈良時代の遺物が出土した。

これら掘立柱建物の変遷を第58図のように想定してみた。まず、確実に建物の柱穴が切り合っているSB204とSB205ではSB205が古く、ほぼ同じ位置で建物の規模をやや縮小して建て替えたことが窺える。さらに、柱穴での切り合いは不明であるものの建物平面でSB204・SB205とSB207、SB103とSB104、SB209とSB210が重複している。また、SB106とSB107やSB109とSB101、SB205とSB208、SB202とSB201といったように南北方向に2棟並んで配置されており、それぞれが対となり存在していたと考えられる。今回の調査では、柱穴掘り方と柱痕部分の遺物を明確に区分できていない上、柱根の抜き取りがみられるものも多く、同じ建物の柱穴出土遺物にも多少時期幅がみられる。出土遺物の詳細な検討を加えていないが、第1段階とした配置案からすると竪穴建物と掘立柱建物が同時に存在した可能性も指摘できる。また、第1段階の配置案では竪穴建物SI102やSB205・SB208を中心とした一群とSB202・SB201との間に空間が存在しその幅は8.8mを測る。同じようにSB109・SB101・SB105を中心とした一群との間は10.4mを測る。規則性が感じられるが、調査成果から何か知見を得ているわけではなく、それら一群が同時に存在していたとも限らない。ここでは一つの配置案を提示するにとどめておきたい。

周辺では、過去に土地区画整理事業等により八日市ヤスマル遺跡、八日市サカイマツ遺跡、八日市B遺跡、八日市C遺跡など多くの発掘調査が行われている。中には8世紀前半の竪穴建物と8世紀～9世紀前半の掘立柱建物が検出される例もあり、本遺跡とその様相は似通っている。建物の配置や規模を中心に地域一帯の中での本遺跡の評価については今後の検討課題としたい。

なお、2区で検出した竪穴建物SI101からは、弥生時代後期中葉の土器がまとまって出土している。押野西遺跡や押野タチナカ遺跡など周辺遺跡との係わりの中で集落の成り立ちを考える資料を得ることが出来た。

建物番号	桁行	桁行長(m)	柱間平均(m)	梁行	梁行長(m)	柱間平均(m)	平面積(m ²)	方位
SB101	2	4.9	2.45	2	4.9	2.45	24.0	北
SB102	3	6.3	2.10	2	4.9	2.45	30.9	北
SB103	3	6.6	2.30	2	4.5	2.25	29.7	N:15°-W
SB104	3	5.9	1.97	2	5.1	2.55	30.1	北
SB106	3	5.3	1.77	2	4.8	2.40	25.4	北
SB107	2以上	3.7	1.85	2	5.0	2.50	18.5	北
SB109	2?	4.0	2.00	2	4.5	2.25	18.0	北
SB201	2	4.0	2.00	2	5.4	2.70	21.6	北
SB202	3	5.5	1.83	3	5.5	1.83	30.3	北
SB204	3	6.5	2.15	2	6.5	3.25	41.9	北
SB205	5以上	11.2	2.24	2	7.8	3.90	87.4	北
SB207	3	7.1	2.37	2	4.7	2.35	33.4	N:2°-W
SB208	3以上	?	-	3?	?	-	-	北

第4表 主な掘立柱建物の規模



第58図 振立柱建物の変遷案 (S=1/400)



SB101 (南から)



SB101_P1022 土層断面（南から）



SB101_P1032 土層断面（南から）



SB101_P1022 完掘状況（南西から）



SB101_P1032 完掘状況（西から）



SB101_P1013 土層断面（南から）



SB101_P1046 土層断面（北から）



SB101_P1011 土層断面（東から）



SB101_P1007 土層断面（南から）



SB102_P1027 土層断面（南から）



SB102_P1031 土層断面（東から）



SB102_P1026 土層断面（西から）



SB102_P1025 土層断面（西から）



SB102(南から)



SB102_P1010 土層断面（南から）



SB102_P1012 土層断面（東から）



SB102_P1028 土層断面（南から）



SB102_P1010 土層断面（東から）



SB103(南から)



SB103_P1014 土層断面（西から）



SB103_P1033 土層断面（北から）



SB103_P1037 土層断面（南から）



SB103_P1041 土層断面（北から）



SB104(南から)



SB104_P1017 土層断面（西から）



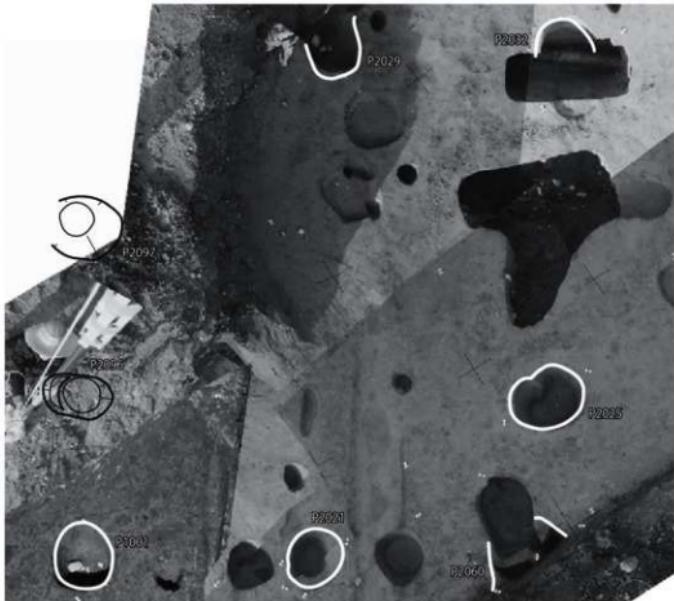
SB104_P1018 土層断面（北から）



SB104_P1042 土層断面（北から）



SB104_P1043 土層断面（東から）



SB106 合成写真（上が北）



SB106_P2021 土層断面（北西から）



SB106_P2029 土層断面（東から）



SB106_P2032 土層断面（南から）



SB106_P2060 土層断面（北西から）



SB107 合成写真（上が北）



SB107_P1002 土層断面（西から）



SB107_P1003 土層断面（北から）



SB107_P2003 土層断面（北西から）



SB107_P1036 完墜状況（北から）



SB108 合成写真（上が北）



SB108_P1045 土層断面（北から）



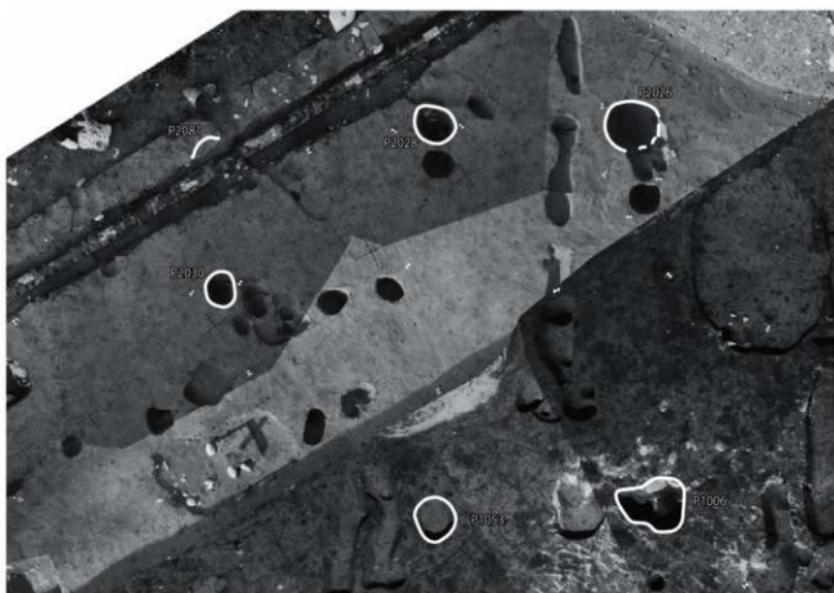
SB108_P2035 土層断面（北西から）



SB108_P2059 土層断面（北西から）



SB108_P2082（東から）



SB109 合成写真（上が北）



SB109_P2026 土層断面（北東から）



SB109_P2028 土層断面（北から）



SB109_P2030 土層断面（北から）



SB109_P2028 完掘状況（南から）



SB201(南から)



SB201_P1101 土層断面（西から）



SB201_P1101 検出状況（上が南）



SB201_P1103 土層断面（南西から）



SB201_P1103 土層断面（北東から）



SB201 接出状況（南から）



SB201_P1104 土層断面（南から）



SB201_P1106 土層断面（西から）



SB201_P1107 土層断面（東から）



SB201_P1108 土層断面（東から）



SB202 合成写真（上が北）



SB202_P2006 土層断面（西から）



SB202_P2007 土層断面（西から）



SB202_P2008 土層断面（北から）



SB202_P2009 土層断面（北から）



SB203(南から)



SB203_P1136 土層断面(北から)



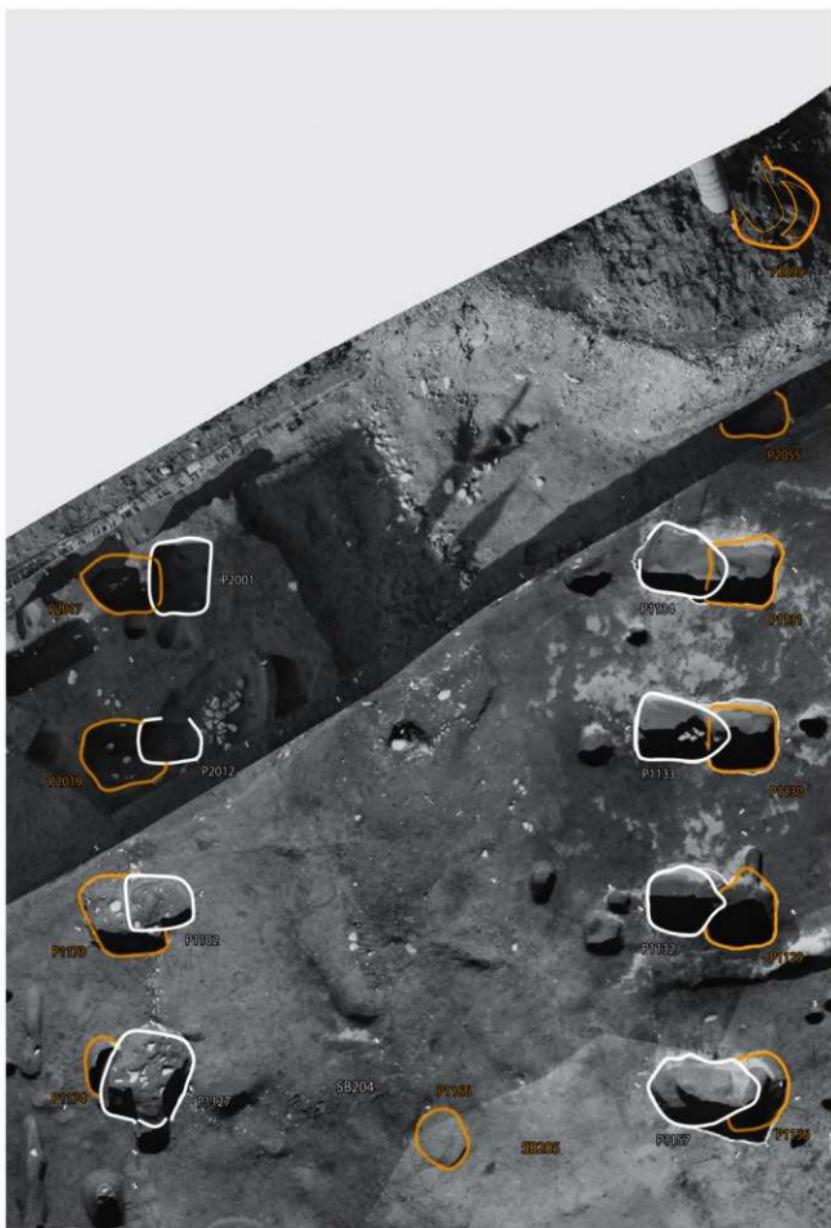
SB203_P1137 土層断面(西から)



SB203_P1138 土層断面(北から)



SB203_P1153 土層断面(南から)



SB204、SB205 合成写真（上が北）



SB204_P1134 SB205_P1131 梁出状況（南から）



SB204_P1134 SB205_P1131 土層断面（南から）



SB204_P1132 SB205_P1129 梁出状況（南から）



SB204_P1132 SB205_P1129 土層断面（北から）



SB204_P1157 SB205_P1156 梁出状況（南から）



SB204_P1157 SB205_P1156 土層断面（北から）



SB204_P1102 SB205_P1173 梁出状況（南から）



SB204_P1102 SB205_P1173 土層断面（南から）



SB204_P1127 土層断面（東から）



SB204_P1133 SB205_P1130 土層断面（北から）



SB204_P2001 SB205_P2017 土層断面（南から）



SB204_P2012 SB205_P2019 土層断面（南から）



SB205_P1129 土層断面（東から）



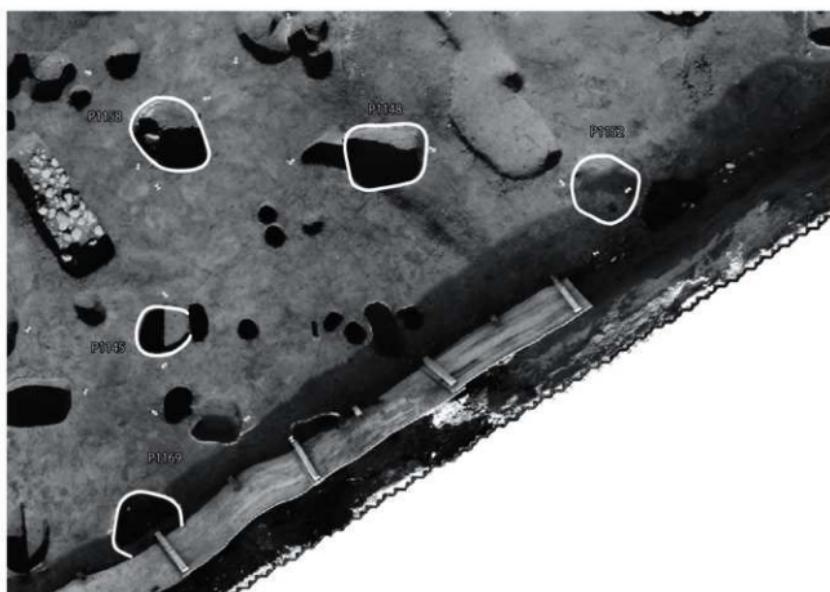
SB205_P1130 土層断面（東から）



SB205_P1131 土層断面（東から）



SB205_P1156 土層断面（東から）



SB206(上が北)



SB206_P1145 土層断面（西から）



SB206_P1148 土層断面（北から）



SB206_P1152 土層断面（北から）



SB206_P1158 土層断面（北西から）



SB207 合成写真（上が北）



SB207_P1139 土層断面（東から）



SB207_P1161 土層断面（南東から）



SB208(上が北)



SB208_P1128 土層断面（北から）



SB208_P1142 土層断面（西から）



SB208_P1155 土層断面（南から）



SB208_P1170 土層断面（北から）



SB209 (上が北)



SB209_P2002 土層断面 (東から)



SB209_P2004 土層断面 (西から)



SB209_P2058 (東から)



SB210 (上が北)



SB210_P2002 土層断面 (西から)



SB210_P2057 (東から)



SB210 周辺検出状況 (南から)



SB211、SB212(上が北)



SB211_P1165 土層断面（北から）



SB211_P1171 SB212_P1146(北西から)



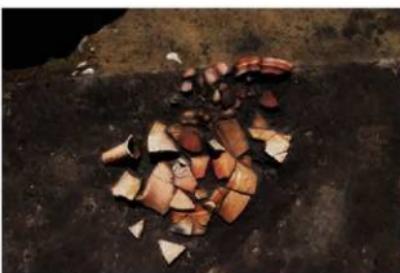
SB212_P1125 土層断面（西から）



SB212_P1140 土層断面（北から）



SI201 完掘状況（南から）



SI201 土器出土状況（北から）



SI201 土層断面（西から）



SI201 土層断面（北から）



SI201 土層断面（東から）



SI201 調査状況（南東から）



SI201 検出状況（南から）



SI201 調査状況（南から）



SI202(南東から)



SI202 土層断面(西から)



SI202 土層断面(北東から)



SI203(北西から)



SI203 土層断面(東から)



SK102 土層断面合成写真（西から）



SK101 土層断面（南から）



SX101 土層断面（北から）



P1044 土層断面（西から）



P1147 土層断面（北から）



P2014（南から）



SD109（南から）



調査区北壁土層断面（1区Cライン 南西から）



調査区北壁土層断面（1区Dライン 南西から）



調査区北壁土層断面（2区Eライン 南西から）



調査区北壁土層断面（2区Fライン 南西から）



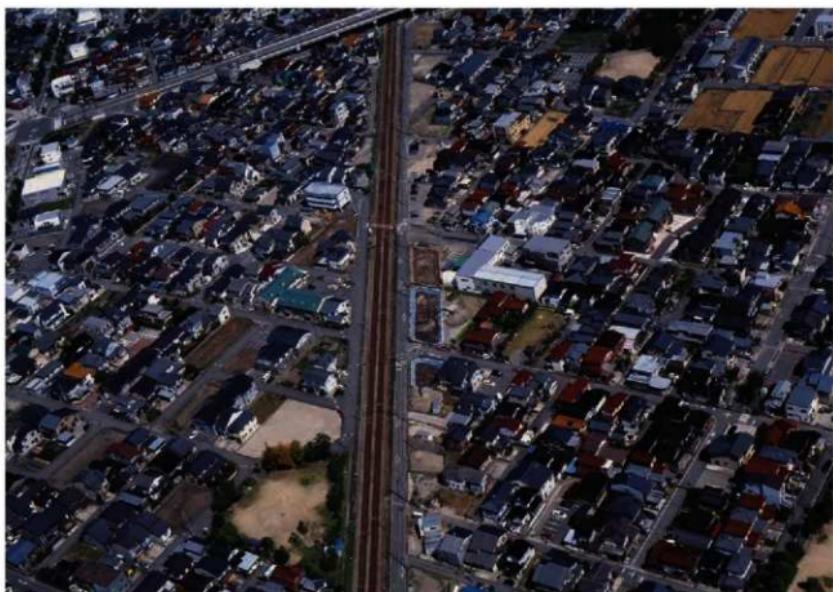
調査区北壁土層断面合成写真（2区Fライン 南西から）



調査区北壁土層断面（2区Gライン 南西から）



調査区北壁土層断面（3区Hライン 南西から）



空中写真（南西から 2009年）



発掘調査着手前（南から 2009年）



遺構検出作業（1区 北東から）



遺構掘削作業（1区 南西から）



遺構掘削作業（2区 南から）



発掘調査着手前（南西から 2010 年）



表土掘削作業（6 区 南西から）



造構掘削作業（6 区 北東から）



空中写真測量（ポール撮影 2010 年）



工事会いの様子



工事会いの様子



工事完成後（南西から）



工事完成後（北東から）



出土遗物写真



出土遗物写真 2



報告書抄録

ふりがな 書名	かなざわし ようかいちDいせき 金沢市 八日市D遺跡							
副書名	北陸新幹線建設事業(金沢・白山総合車両基地(仮称)間)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書6							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	端 猛							
編集機関	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477 FAX076-229-3731							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2014年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
よきひら いせき 八日市D遺跡	かなざわし ようかいち 金沢市八日市 ちよとせの ひだり 1丁目地内	17201	125200	36°	136°	20090804 ～20091019	1,250m ²	記録保存調査
				32°	36°	20101118 ～20101222		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八日市D遺跡	集落	弥生時代 奈良・平安時代	堅穴建物、掘立柱建物、溝、土坑、小穴		弥生土器、土師器、須恵器、石製品			
要約	弥生時代、奈良・平安時代の集落跡を確認した。特に、8世紀前半と考えられる堅穴建物と20棟以上確認した掘立柱建物の関係は注目され集落の変遷を知る資料となった。また、弥生時代の堅穴建物も確認しており、集落の成り立ちを考える上で興味深い資料を得た。							

金沢市 八日市D遺跡

発行日 平成26(2014)年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市較月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)

公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社 共栄